

【見上げれば夜空に碧い月】

三葉 アリス(みつば ありす)
御剣 柚葉(みつるぎ ゆずは)
暁 時雨(あかつき しぐれ)
菅薙 橙真(かんなぎ とおま)
楠 華恋(くすのき かれん)
狭間 射鶴(はざま しずる)
幾世 乃亜(いくせ のあ)
久遠 鈴音(くおん すずね)
ダイナ
ハンプティダンプリン

暮前。客席が暗くなる。
幼いころのアリスと母の会話。静かな中、猫の鳴き声がある。

アリス ねえ、お母さん。
母 何？

アリス 猫の鳴き声がない？
母 え？

静かな中、猫の鳴き声。

母 あら、本当。そちの方から聞こえたと思っけい。
アリス うち？……あ、した！黒猫だ
母 捨て猫かしら。あ、前もって言ったくけい、
アリス 分かってる！
母 ウちはダメですからね。
アリス 分かってるっけい。
母 さ、行くわよ。
アリス ……うん。あ、待って。

鈴の音

アリス これ、あげるね。鳴き疲れたらこれを鳴らせば誰か気づってくれるよ、きっと。
母 アリス、早くしなさい。病院に連れてるわよ。

アリス 今、行く。

アリスの足音。遠のく。

アリス あーあ。あの黒猫飼いたかったな。

母 ウチはダメだつて言ってるでしょ。

アリス でも、何かまた余えるような気がする。運命的な出逢いっていつのかな。

母 だといいわね。

アリス 何かね、あの猫ちゃん見た瞬間に名前がパッと浮かんだの。

母 ……そっ。で、何て名前なの。

アリス あのねー。

二人の会話しだりにフートアウト。猫の鳴き声。

時計の音。下手にダイヤナが立っている。

ダイヤナ、懐中時計を見ている。時が過ぎていく。

ダイヤナ、懐中時計を閉じる。時計の音も止まる。

音楽「サウエー・ソ・カー・ト・ウ・シ・シ・コ・ダ・バー」

幕が上がる。上手にはアリスがいる。

曲の流れで全員登場。10人によるダンス。

曲のフートアウトと共にアリスだけを残し全員去る。

ダイヤナ、舞台後方から出てくる。アリスを見ている。

ハンプ、舞台後ろから現れる。ダイヤナの近くへ。

ハンプ またあの人間を見ているのか。

ダイヤナ ……別にいいだろ。

ハンプ まだ呼ばれないのか。このままじゃずっと半人前だな。

ダイヤナ うるせえ。

ハンプ だったら同じこと何度も言わせるなよ。お前から動けて。人間なんてこっちが仕掛ければ簡単に呼ぶだろ。

ダイヤナ それこそ何度も言わせるなよ。俺は「待つ」って言ってるんだよ。

ハンプ 「待つ」ついでにだけ待つつもりだ。人間だぞ。呼ばれずにそのまま死ぬにだってありえるんだからな。

ダイヤナ その時は次の奴を一人目にするだけだ。

ハンプ、ダイナの台詞を聞いてクスクと鼻で笑う。

ダイナ ……何だよ。

ハンプ 別に。

ダイナ 何だよ。

ハンプ 嫌なんだろ？

ダイナ は？

ハンプ 一人目があの人間じゃなくなったら、嫌なんだろって言ってるんだよ。

ダイナ うるせえ！

ダイナ、ハンプに襲いかかるが、避けられ、剣を喉元に突きつけられる。

ハンプ 熱くなるなよ、半人前。

ハンプ、ゆづくり剣をひく。

ハンプ お前は悪魔らしくないな。

ダイナ、ハンプを無視して再びアリスを見る。

ハンプ、アリスとダイナを交互に見る。

ダイナ 他行けよ。監視しなきゃならぬのは俺だけじゃなからん。

ハンプ 一番出来の悪い奴の近くにいるだけだ。他の奴らは優秀だからな。

ダイナ、ハンプを睨んだ後、無言で再びアリスに視線を戻す。

ハンプ お前は本当に悪魔らしくないな。

アリス、上手くはげようとするが、目の前に幽霊1が現れる。

アリス、驚いてセンターへ。幽霊1。ゆづくりアリスに近づく。

ダイナとハンプはストップモーション。アリスと幽霊が動き出す。

幽霊は声を発しながら、ツツツと何かを言っている。

言葉は「助けて」。幽霊1、アリスに近づいていく。

おひえるアリス

アリス 無理だよ。私には無理。助けてあげられない。

幽霊、ブツブツ言いながら近付く。

アリス いめんなぞい。……いめんなぞい。でも無理なの。私には無理なの。

アリス、頭を抱えてうつすくまる。いめんなぞいを小声で繰り返す。

上手より柚葉の声「おはよう!!」

その瞬間、舞台、明るく。幽霊は下手へ。

上手より柚葉が入ってくる。

柚葉 アリス、私飲み物買ってくるけど何か……アリス!! アリス!!

柚葉、うつすくまっているアリスに気づき、駆け寄る。

柚葉 大丈夫!!、いつもやっ!!

アリス ……うん……

柚葉 じゃあ!!、

アリス ううん。初めて見る人。もう、いなくなった。

柚葉 そう……。

アリス いめん。役に立たなくて。

柚葉 ……いいんだって。それより、平気!!、怪我とかな!!、

アリス うん。大丈夫。

柚葉 そっか……。何か飲む?

アリス ううん。それより……少し一緒にいて。

柚葉 分かった。

柚葉、アリスを落ち着かせる。アリス、呼吸を整える。

柚葉 ねえ、アリス、こんな時に聞くのもアシナンだけとぞ。昨日の夜から今日の朝までで……何か進展あった? 例の人が降りてきたりとか。

アリス ……ううん。ない。

柚葉 そっか。まあ、そっだよね。……いめんね、こんなときじ。

アリス 仕事でしょ。私こそゴメン。柚葉の立場、トント悪くしてるね。

柚葉 あ、それは気にしないで。ついつい、私の方が何かアリスに申し訳なくて。

アリス 柚葉には感謝してる。大学の友達ってだけなのに仕事も紹介してもらったし、助けてもらっばなしたね。

柚葉 いや、仕事に関してはさ、うちの会社もここらで 勝負しないうけなら時期だったから、別に気にしなくてもいいんだけどね。

アリス でも私、未だに薬を完成させられてないから。

柚葉 大丈夫だつて。いつかは完成するでしょーよ。

アリス それで私を推薦した柚葉の立場が悪くなってるでしょ。

柚葉 ーの。そーゆーこと言わないの。いつかまとめてーへと返してもらったつもりだから。

アリス 分かった。頑張る。

柚葉 ところでアリスさあ……。

アリス 何？

柚葉 本当にもう、この部屋には幽霊いない？

9

アリス、部屋を見回して。

アリス ……うん。いない。

柚葉 良かったー。でもさ、見えるのと見えないのってどっちの方が怖いんだろうね。見えるのはもちろん怖いだろうけど、見えない怖さってのもあるじゃない？

アリス 多分、怖さの質が違うから比べようがないんじゃないかな。

柚葉 怖さの質って？

アリス 見える怖さは嫌悪感から来る怖さで、見えない怖さは不安感から来る怖さだから。

柚葉 なるほどね。嫌悪感ってことは、やっぱり未練だらたらな顔して迫ってくるの？

アリス 未練って？

柚葉 あれでしょ。幽霊になつてこの世にぶらまわってることは、この世に対する未練が強くて成仏できないうるつことなんでしょ。

アリス 私が見ている限りではそーいうわけじゃないみたい。

柚葉 と、いつと？

アリス 幽霊って単に自分が死んだことに気付いてない人はほとんどで、この世に対する未練の強さとは関係ない気がするのよね。ほとんどの幽霊は囁くように「助けて」って言うの。

柚葉 ほとんど…他には？

アリス さっき柚葉が言ったように「この世に強い未練を持った人の声」。一度成仏した後で、何らかの方法でこの世に戻ってくる人もいるみたい。

柚葉 あ、それが例の？

アリス うん。でも、あれ以来 一度も降りてきたことがないんだよ。

柚葉 もしかして、すでに他の人にとりついてるんか？

アリス それはなうと思っけと……。

柚葉 早く残りの開発が進むといいね。

アリス うん。……あ、昨日の日誌渡してくね。

10

アリス、ノートを取り出して柚葉に渡す。

アリス　　と、いつても、また白紙だけじゃ……。

柚葉　　主任が見たらうるさそつだね。まあ、あの濃しキヤコで嫌味言っんじやなら。

上手より時雨の語。

「おはようですよ。ちゃんと朝の掃除はしましたが、こちらは製菓会社なんですからね、事務所のイメージが大切なんですよ、イメージが「アンダースタ、ソ、ソ、ソ、アンダースタ、」

二人　　……主任だ。

上手より時雨が入ってくる。

時雨　　やあ、やあ、柚葉君、おはようですよ。ゴートヤコル、クンタコル、雨が降る「気持ちのいい朝ですね。

柚葉　　そーですね。

時雨　　グッボイス「相変わらずグッボイスです。「朝え」といっつやつです。柚葉君、ハヤシロゴートヤコ。

柚葉　　……アイン、サンキゴ。

時雨　　んーん。

柚葉　　はい。

時雨　　アインサンキゴ、サンキゴ、キゴ。

柚葉　　……アイン、ゴ。

時雨　　アインサンキゴ「……いや、柚葉君は相変わらず優しいですね。

柚葉　　暁主任は相変わらずム、ム、ムですね。

時雨　　暁だなんて、そんな。下の名前で呼んでくれと言っつらるじやならですが。時雨主任と呼んで下れい。むしろあなたに「犬」と呼ばれても良い。

柚葉　　じゃ、犬は何しに来たんですか。

時雨　　そんな容赦のなら君に愛を送らつ。

柚葉　　困ります。

時雨　　愛を送らつ。

柚葉　　嫌です。

時雨　　愛を。

柚葉　　迷惑です。訴えます。

時雨　　一瞬愕然として、背を回けて上手く去らつとする。

柚葉 何しに来たんですか？

時雨、バット戻ってきて柚葉の隣に来る。

時雨 いつもの口調を。

柚葉 どうぞ。

時雨、柚葉からノートを受け取る。バツバツとめくる時雨。しかしノートには何も書かれていなく。

時雨 柚葉君。

柚葉 はい。

時雨 なんですかこれは？

柚葉 申し訳ありません。

時雨 君が謝ることはありませんよ。あくして、これは、君の責任ではなりのですか？

時雨、アリスを指差す

アリス ……すみません。

時雨 私だって本当はね、こんな辛気くせろ部屋に来たくはなりんですよ。バット、最終的に社長におなを推薦したのは私ってことになってるんです。

アリス すみません。

時雨 この薬はもう半分まで開発してあるんですよね？

柚葉 正確には、半分だけ情報を得ています。

時雨 ナイス、アトバイス。ナイスアトバイスです、柚葉君。このことはですよ、後これだけ情報を得ればいいんですかね？

アリス ……半分です。

時雨 はい？

アリス 半分です。

時雨 聞けませんか？

アリス ……半分です。

時雨 半分、そうです、半分です、半分です、半分です、半分です、それがなぜ、10年たった今でも完成しなっていないんです？ホロイ？

アリス すみません。

時雨 私は毎週一回この部屋に来ています。その度にその「すみません」を最低5回は聞いています。年間2週で260回。それを10年として2600回。聞いても聞いても、聞いても聞いても、聞いても聞いても、聞いても聞いても。

ました。

柚葉

主任、

時雨

柚葉君、分かってください。私だつて言いたくつて言つてるんじゃないんです。ビット、この超特別待遇のアリス君をこのまま放置しておくわけにはいけません。この世界に幽霊と交信できるからという理由で社員を採用する会社がありますか。あるんです。うちです。確かにアリス君が幽霊と交信して得た、新しい薬に関する情報は本物です。半分だけとはいえ付随する薬の開発にかなり役立ちました。

柚葉

ですよ、うちの会社にキチンと貢献してるんじゃないですか、

時雨

残念ながら違います。その情報はうちの会社に入るキッカケとなつたものです。その情報があつたから入れたのです。その後の月々の給料は、うちの会社に入った後の情報で得られるべきもの15
なのです。本来ならば

アリス

すみません

時雨

4回目です。と、いつかは最低後1回は聞くことになりそうですね、アリス君。君は周りから見たら一日中座つて赤っつとして過してただけで給料もらつてる人じつから見えないんですよ。そのことについてはどう思いますか

アリス

……申し訳ないと思つてます。

時雨

イエス、大切なはその気持ちです、おれとはいけなははその気持ちです。はいですか、特に、あなたを守つてきた、感謝しても、してもしても、したりない人には、いつかできる限りの恩返し

をしましょね、

アリス

はい。

時雨

その人の名前は、セーの主任、

アリス

ゆず、にん。

アリス、同時に言う時に「柚葉」と言ひかけて語尾をあわせる。

時雨

……なんですか、何かのキャラクターみだりな名前が聞こえておもしろい、

アリス

主任、主任です。

時雨

そうです、私です。イツァーです。ではこれ、お返します。

時雨、ノートをアリスに渡す。

時雨

私もね、社長から結構せつつかれてるんですよ。早く結果を出せと。ですので、今日からしばらくの間は毎日顔を出しますんで、よろしく。柚葉君、例のレポートは、

柚葉

はい。早ければ明後日には。

時雨

そうですね。お願いします。今ですね、柚葉君に霊と交信する際に必要な要素を調べてもらつて
います。霊を呼びやすい環境などもあるでしょうから。そのレポートがあがってきたら読んでみ

てくたせう。
アリス はい。
時雨 余計な仕事をさせられたものです。
アリス すみません
時雨 ら回目です。いつも通りですね。それでは会議があるので失礼。柚葉君、会議の資料は、
柚葉 人数分コピーして主任の机に置いてあります。
時雨 エクセレント、「アジア会議タイム」。

時雨、キザに去っていく。

柚葉 会議って英単語は知らないようね。

柚葉、アリスの方に向き直る

柚葉 毎回毎回よくあれだけ嫌味が言えるもんだと感心するやら、呆れるやら。話の分かる幽霊がいたらとり憑いてもらえば、…大丈夫。

アリス ごめんね。

柚葉 だから私は気にしないで。主任だからね、あ一言してるけど、そのき言つてたレポートの件、提

案したの主任だよ。「霊と交信するための情報を集めましょっ」って。結構良いところあるのかもね。
あるか。

アリス いや、私に聞かれても。

柚葉 ……あ、もう戻らなまきや。じゃあね、アリス。頑張てね。

アリス うん。ゴメンね。

柚葉、手を振って上手く去る。

アリス、一入寂しく座る。

ダイナとハングに明かり。

ハング いろんな人間がいるもんだな。

ダイナ あの男殺してもいいよな。

ハング 俺たちは死神じゃねえよ。現世と死後の世界の魂のハングスをとるのが仕事だ。

ダイナ 似たようなもんだろ。

ハング 全然違つんだよ。お前は本っ当に何も分かつてねえな。

ダイナ 何だよ。

ハング 直情的すぎることだ

ダイナ 悪魔らしくないっつか。

ハンプ その言葉を聞いて鼻で笑う。ダイナ五打ち。
ダイナ、アリスをハイッと見た後、下手くはけよつとする。

ハンプ どういふんだよ。
ダイナ どうだつていひたる。何でついで来るんだよ。
ハンプ お前からかつと面目いふんだよ。
ダイナ そのままじゃねえか！。
ハンプ 本当になつた奴だな。俺は悪魔の中でも悪魔の監視を任せられているエリートだぞ。俺の話を聞きたらつて奴はたくせんいるんだぞ。
ダイナ 知ってるよ。だから、そいつらの所に行つていろいろ教えてやればいひたる。
ハンプ だつてあいつら面目くねえからぞ。

ダイナ、下手く少し移動。

ハンプ どういふんだつて。
ダイナ 門だよ。もう少し近くからあいつが見えたり。精神的に限界そこだからな。
ハンプ 後一押しなら動けばいひたるつが。

ダイナ 俺は待つて言つてるだろ！。

ダイナ、下手くはける。

ハンプ ……半人前だな。

ハンプ、下手くはける。
橙真が入り入りで入ってくる。射鶴と乃亜も続いて入ってくる。
二人は橙真に歓声を送っている。

橙真 人間はある一点において平等である！。生まれた場所や時間、環境に関係なく、容姿や知能、財産に関係なく、ある一点において間違ひなく平等なもの。すなわち死である。仮に、生まれ変わりがあつたとしても、その人として生きる人生は一度きりなのだ。生きる全ての人間に訪れる死。それは時間が有限であることを意味する。無意識のまま、無自覚のまま、無覚悟のまま人生を消費し、ふと、死のイメージが頭をよぎつたとき、人は思つ。「満たされていらい」と。どんなに金があつても、どんなに女があつても満たされない。人間の飽くなき欲望。一度きりの人生で時間が有限なら人にかまつている余裕があるはずもなく、ひたすら前へ進む。満たすものをその手からほしてあることも気付きませずに。とすれば人と人はわかり合つていけるのだらつか？。

許しあうことができるのだろうか。人、一人一人が幸福に生きる事が神の望みなのであれば、すべての人間は罪人なのであろう。我々は求めている。赦される言葉を。我々は求めている。その言葉を手に入れる日を。

橙真、自分に酔いしれてポーズをとる。

射鶴 キヤー、教祖様ステキー、
乃亜 途中から何言ってるのかわからなかつたけど良かったですー、
射鶴 最っ高、もう本当最っ高、惚れ惚れしちゃっ、
二人 教祖様、教祖様、L・O・V・E・教祖様、しっごー、
橙真 コチャコチャうるせえ、てめえら俺の話聞いてたんだろっな、
射鶴 もちろんよー、カッコよかったぞ、

射鶴、橙真の近くまで来て、肩越しにハイ、ウをやる。

橙真、そんな射鶴を見て「ていつ」と目潰し。両目押さえてシタバタする射鶴。

橙真 とにかく、「赦された」と自分自身が思えたのなら、それが人間にとって救いとなる。わが宗教「ホーホケ教」の信者を増やすために何としても「赦しの言葉」を手に入れなくてはならない。

乃亜 それが三葉アリスの持つノートに書かれているんですよね、
橙真 ああ、半分だけらしいがな。
乃亜 半分、
橙真 まだ完成してないらしい。
射鶴 じゃあ、まだノートを奪っても意味ないんじゃないの、
橙真 俺は少しでも早く、少しでも情報がほしいんだ。
乃亜 出た、教祖様のお得意の駄々、
橙真 やだいやだいや、早く欲しいんだ、手に入れるんだ、
乃亜 見てるこっちが恥ずかしくなるくらい見事な駄々の子ぶりですね。
射鶴 いや、ん、母性本能くすぐられちゃっ。
橙真 それに何といつてもあのノートを狙っているのは俺達だけじゃないからな。
乃亜 あの馬鹿女二人組みですね。
橙真 何としてもあいつらより先にノートを手に入れなくてはならん。
乃亜 でも「赦しの言葉」なんて盗んで意味あるものなんですかね。教祖様が自分で考えたほうがいいんじゃないですか、
橙真 いや、俺では「赦しの言葉」なんて思いつかん。すべての人間が共通して赦されるんだぞ。
射鶴 でも盗みは良くないわよ、
橙真 どんなに素晴らしい言葉があつたって、大切なのはそれを使う人間の資質だからな。俺のほつが

有効活用できるに決まっている。スポーツだつて名プレイヤーが名監督になるとは限らないからな。

乃亜 凄い、例えば庶民的、

射鶴 しかも例えば微妙に間違ってるし。ア、結構自分では「つまり」と言っただけで思ってるのよ。

橙真 コチャコチャやるせえ、事は一分一秒を争う、早速作戦会議だ。

三人、バツと定位置につく。橙真が一番上手。二人は整列。

橙真の近くに射鶴。下手に乃亜。

橙真 ホーホケ教の作戦会議を行う。点呼、

射鶴 1、

乃亜 2、

橙真 よし、全員いるな。

乃亜 ウチの教祖つて馬鹿なくせに段取り好きですよね。

射鶴 しっ、

橙真 では前回の反省もふまえて、乃亜、進行してくれ。

乃亜 はい。ではまず前回の作戦のおさらいから。帰宅途中のターゲットを射鶴さんと私の二人で挟み込み、強引に連れ去ろうとしていたところに教祖様が現れ、ターゲットを救出。感謝するターゲ

ットが教祖様に好意を抱き、言う事を聞かせるという目論見でした。

橙真 作戦実行の結果、

乃亜 いざ二人で挟み込みもつとした瞬間射鶴さんが余所見をして挟み込みに失敗。秘密兵器の教祖様が秘密のまま作戦が終了するというまさかの展開。いや、大笑いでした。

橙真 笑い事か、俺は持ち場で1時間も待たされたんだぞ、

乃亜 私に言わないでくださいよ。イケメンが通ったからつてよそ見する射鶴さんが悪いんですから。

橙真 イケメンが通ったのか。

射鶴 いや、それがもう超々小池徹平ちゃんにそっくりな子がいらてそ、

橙真 好みなのか

射鶴 ドンピシャ、

橙真 で、余所見をしたのが。

射鶴 せめて写真だけでもと思つてそ、

橙真 射鶴。

橙真「ていつ」と目潰ししようとするが、射鶴、左手で目を隠してそれを防ぐ。

が、橙真、空いている手で射鶴の脳天にチヨツとする。

脳天を押しさえてシタバタする射鶴。

橙真 乃亜、「新しい作戦だ」「ただし、挟み込んで、助けて」「オローしてなんてストップの多い作戦は駄目だ。もっと簡単な作戦にしてくれ。

乃亜 かじまりました。それでは新しい作戦を説明します。

3人、元の定位置にヒシつと整列

乃亜 まず作戦の基本趣旨としましては、今までどおり、強制的に連れてくる、なんじつものなにしはせず、なるべく我々に理解を示してしてくれるよう、働きかける方法をとりたらしめます。

射鶴 えっ、それが又ルいんじゃないの、誘拐でもしたほうが早いじゃん。

乃亜 射鶴さんは下半身だけじゃなくてオツムもケダモノですね。赦しの言葉は半分しか出来てないん
ですよ、強引につれて来られて残りの言葉の協力をしてくれると思いませんか？

射鶴 キッ、「悔しい」「教祖様、今この子が私のケダモノって言ったの〜」

橙真 黙れケダモノ、「我々は犯罪組織じゃないんだぞ。

乃亜 続けます。作戦の工程が少なく、かつターゲットに共感してもらつ方法を考えました。うまくい
れば間違いないターゲットの心をつかむことが出来ます。

橙真 ナイス、「何だ。どんな作戦だ」？

乃亜 歌です。

橙真 ……はあ？

乃亜 歌は全人類共通の言葉です。心を揺さぶる歌によってターゲットの心を掴みましょつ、「

橙真 正気か？

乃亜 おすすめはアカベラです。

橙真 正気か？

射鶴 いーじゃない、「やるだけやってみましょつよ」「今までになりアブローまじやない、それ？

橙真 今までないつーか、なんつーか。

射鶴 だって作戦の立案は乃亜に任せてるんでしょ？

橙真 まあな。乃亜、それで歌を歌つとして、成功する確率はどのくらいなんだ？

乃亜 43%です。

二人 低っ！

乃亜 ほかの確率の高かった作戦は「ゴ」しく失敗してますから。

橙真 これで作戦失敗したらただの危ない集団だな。

乃亜 鍵を握ってるのは……。

二人、射鶴を見る。射鶴、二人の視線に気付き。

射鶴 フライト！

射鶴、かわいくポーズ。3人の明かり消える。3人、下手く移動。
上手に明かり。華恋と鈴音が入ってくる。華恋、鈴音の肩を抱き。

華恋 海よ。

鈴音 素敵。

華恋 この広い広い海の内、側に私たちが買った島があるわ。

鈴音 素敵。

華恋 その島には女しかないの。大人でも子供でも女しかないの。

鈴音 夢のよう。

華恋 でもね、それだけではダメ。島の住民が女だけというのは意味はないの。その島を国として全
世界に認めさせないと意味がないの。なぜか分かる？

鈴音 華恋お姉様は新しい文化、文明を作ろうとなぞっているのじゃない？

華恋 そう。文明よ。汚らわしい男共が作ってきた歴史にドリフトを打って、女が新しい歴史を作るの。
女が世界を動かすの。女だけが住む島を国と認めさせるのはその第一歩。

鈴音 どこまでもついでに行きますわ。

華恋 夢を実現させるために、どうしても必要なものがあるのよ。分かっているわね？

鈴音 三葉アリスの所有するノート。

華恋 そう。噂では他人の気持ちを自由に操ることが出来る機械の設計図が半分だけ完成しているら

しいわ。その機械を使って各国の首脳の考えを操作し、新しい国家の誕生を認めさせるのよ。

鈴音 華恋お姉様。その噂は本当なんですか？

華恋 鈴音。

鈴音 いめんなさい。でも、二ツカには信じられなくて……。

華恋 そうね。確かに信じられないわよね。でも、試してみる価値はあるんじゃないかしら？

鈴音 お姉様……。

華恋 鈴音。世界にはね、私たちの夢の実現を今か今かと心待ちにしている女性が何万人といるの。今
も常識という偏りに悩み、差別という統制に苦しんでいるのよ。どんなに可能性が低い話だった
としても私たちは前へ進むしかないと思いなさい。

鈴音 でも、華恋お姉様。私怖いの。今のお姉様は革命家でジャンヌダルクのよう。急ぎすぎた結果お
姉様が死んでしまうんじゃないかって心配なの。

鈴音、華恋に背を向けつつむく。

そんな鈴音を見て、華恋、海水をかける。

華恋 鈴音。……それ、

鈴音 キヤッ、

華恋 大丈夫よ。二十一世紀のジャンヌダルクは強いよ、それ、

華恋、再び海水をかける。

鈴音 やつたわね、華恋お姉様「覚悟なぞし」。

二人、笑って海水を掛け合う。しばらく遊んでハハアしてきた瞬間、元の位置に。
華恋、鈴音の肩を抱く。

華恋 海よ。

鈴音 素敵。

華恋 この広い広い海の内、この側に私たちが買った島があるわ。

鈴音 素敵。

華恋 その島には女しかないの。大人でも子供でも女しかないの。

鈴音 夢のよう。

華恋 三葉アリスも女だけの世界の素晴らしさに気付くと良いのだけれど。

鈴音 え？

華恋 鈴音、三葉アリスのノートを手に入れる方法は考えてあるの？。

鈴音 え、ええ。考えてありますけど…。華恋お姉様、三葉アリスも島の住人にするおつもりなの？。

華恋 もちろん本人の意思だと思いますけどね。今のところ特定の相手もいないよつだし、もしかしたらこちらサイドの人間かもしれないでしょう？。

鈴音 あやしい。

華恋 え？

鈴音 あやしくてよ、華恋お姉様。私というものがしながら心動いているのではなくて？。

華恋 何を言ってるのよ？。

鈴音 だってあやしんですもの「考えてみれば華恋お姉様の三葉アリスを見つめる目ははじめても優しくかった。あの目はかつて私だけに回けられていたはずなのに」。

華恋 その通りよ。私の目は鈴音だけを見ました。

鈴音 じゃあ「。

華恋 そして、今もそう。

鈴音 え？

華恋 今も鈴音だけを見ている。そして、これから先もずっと。

鈴音 ずっと？

華恋 ずっと。

鈴音 私だけを？

華恋 ……あなただけを。

鈴音 本気と書いてマジで？。

華恋 ズシでしてよ、
鈴音 華恋お姉様、
華恋 鈴音、

二人抱きしめあう。

鈴音 しめんなさい、お姉様、お姉様を疑うなんて、私、馬鹿でしたわ、
華恋 いいのよ、鈴音。嫉妬に怒る鈴音も可愛くてよ。食べちゃいたいくらい。
鈴音 いいえ、華恋お姉様。それは逆よ。私の方がお姉様を食べちゃうんだから。
華恋 言ったわね。では私を捕まえてごらんなさい。

華恋、鈴音から逃げ出す

鈴音 あ、お待ちになって、華恋お姉様、
華恋 ちつちよ、ちつち、

二人、上品な笑いをしながら上手付近を2、3周グルグル回る。
やがて下手方向へ移動する。瞬間、3人組にも明かり。

5人、同時に「あ、」という声を出して互いの存在に気づく。

乃亜 教祖様、馬鹿女二人組みです、
射鶴 相変わらず女同士でつるんてるのね、気持ち悪い、
鈴音 その言葉、そっくりそのまま「ゆっパツク」であなた個人にお返しいたしますわ。
射鶴 何で私だけピンポイント攻撃なのよ、
華恋 鈴音。下々の者とお話するところがれましてよ。
鈴音 はい、華恋お姉様。
橙真 下々の者ねえ……。金持ちりやえらひのから、細い考えたな、
華恋 あら、これはこれは、下々の代表。ピンポイント宗教の教祖じゃありませんか。信者は未だにこの二
人だけなのかしら、
橙真 アンタも入りたいたら入れてやらなさいともないがな、
華恋 オーホッホッホッホッホ、……。ハ、
乃亜 教祖様、完全に馬鹿にされていますよ。
橙真 クッソ。あのなあ、一國を築くとしていらっしゃるが、そんな自己中心的な考えで國を治めら
れると思うのか、国民は誰もついて来ないぞ、
華恋 理想論ばかりで現実が見えていないお猿さんの言いつつなこともね。いいよ、リーダーについで
くる者がいるから國が出来るわけじゃないの。リーダーについでくる國民をリーダーが選んで國

を作るのよ。

橙真 それが細い考えだつて言ってるんだよ、

華恋 お黙り、メタボリック教祖、

橙真 いきなり切り札を使つなよ、

鈴音 アナタ達、こんな所でゴゴゴしてるつて、は、まだあきらめてないのね。

射鶴 何よ、あきらめるつて、邪魔してるのはそちでしょ、そちこそあきらめなせうよね、先に三葉アリスのノートに目をつけたのは、つちななのよ、オカマの世界では有名な格言があるんだから、「遠くのカマより近くのカマ。酒は飲んでもほられるな。」だつて、グツとくるでしょ。

乃亜 射鶴さん、引つ込んでてもらえますか。

橙真 アンタ、今リーダーが国民を選ぶつて言つたよな。

華恋 ええ。

橙真 国を作るのはその相方と幸せに遇いずるぢやないのか、一般的な常識に縛られなく、自分達のルールが作れる国を作るのは相方の善しやないのか、

華恋 その通りですわよ。

橙真 だとしたらアンタは自分の矛盾に気付かないお猿さんつてことだな。

華恋 矛盾ですつて、

橙真 分からないか、まあ、分かっていたら他の方法を取るだろうからな。でも、相方はどつたらうな、意外と気付いてるんじゃないか、

華恋 ……鈴音、

鈴音 大丈夫よ、華恋お姉様。これはきつと向いつの攪乱作戦に選ばないわ。お姉様と私の愛の強さを試してるのよ。

華恋 教えて、鈴音。私は矛盾してるの、私は間違つてしてるの、

鈴音 華恋お姉さま、どつなぞつたの、もつと、自分に自信をお持ちになつて。私はど、までもついでと誓つたのですから。

華恋 そうね。そうですわよね。お聞きになつたかしら、私達の絆は強くてよ。

橙真 薄つべらい。

華恋 え、

橙真 アンタらの関係薄つべらいな。あれだろ、お宅ら相手の良し所しか言い合わなつたら。人間関係つ、³⁴つのはそついつもんじゃないやねえんだよ。悪し所もキチンと認める所から本当の絆が生まれてくるんだよ。

華恋 良し所しかないならその必要もなつたのではなくて、

橙真 甘い。長い時間、一緒にいるんだろ、悪し所が、つもなつたりあり得なつたら。その点、ウチの選中を見る。知能は確かに下々かもしれねえが、その分心は上等だ。俺達は何だつて言い合える。悪口だつてな。おい、

橙真のかけ声と共に3人は田になる。

橙真 (乃亜に)ちび。
乃亜 (射鶴に)キモい。
射鶴 (橙真に)病弱。
橙真 (乃亜に)彼氏作れよ。
乃亜 (射鶴に)活舌甘すぎ。
射鶴 (橙真に)女つたらし。
橙真 (乃亜に)鈍感。
乃亜 (射鶴に)私服笑えるんですけど。
射鶴 (橙真に)器用じいホー。
橙真 (乃亜に)笑い方変だな。
乃亜 (射鶴に)生きてて楽しい？
射鶴 待って、「私の悪口だけマシじゃない？」
華恋 さ、行きましょつ。
橙真 待てコイツ、「学ぶ」「今のを戻して学ぶよ」
鈴音 私達別に芸人目指してませんけど。
華恋 鈴音、下々の相手も程々になさい。

華恋、鈴音を自分の方に寄せ、橙真に向き直る。

華恋 アナタは信者を増やす為にノートが必要。私は国を作る為にノートが必要。互いにゆるめる気はなく、でもノートは一冊しかない。恨みつなしの早いもの勝ちとらいつてもよろしく？
橙真 俺は元よりそのつもりだが？
射鶴 あ、私、良いと思いついたら、「ノートコピーして仲良く利用するつもり」のぼん？
橙真 いや、それはダメだ。
射鶴 え？ どうして？
橙真 俺とドイツとは作るつもりしている組織が違っただけ、やるつもりしている目的が同じだからな。
射鶴 何？ 目的って？
橙真 大多数の人間の意識の統治。先々競合すると分かっている相手へ壇を贈る必要はないだろ？
華恋 意識の統治？ 私には新しい価値観の押しつけにしか見えませんよ？
橙真 アンタが真のリベタリストならそんな発言はしないと思っがな。
華恋 あら、私はリベタリストをうたつた気はなくてよ。私は明確な意志を持って差別してますもの。
橙真 とんだ独裁者だな。仮に国を作れたとしてもグローバルな視点で見れば
乃亜 あ、教祖様。
橙真 何だ。
乃亜 会話についてこれなくて、途中から射鶴さんが気絶してますけど。

橙真、ふり返ると射鶴、魂が抜けている

華恋 オーホッホッホッホ、流石、おバカ集団の信者といつた所かしらね。

橙真 射鶴、しっかりしろ、

華恋 これしきの会話についてこれないなんて、笑ってしまいますわ。さ、行くわよ、鈴音。

華恋、ふり返ると鈴音も魂が抜けている。

華恋 鈴音、!?

橙真、華恋、互いの部下の頬を叩く。我にかえる二人。

華恋 いいこと?! ノートを手に入れるのは私達の方ですよ、覚悟なぞし、さ、鈴音、今日も作戦を実行するわよ、タクシーで移動しますわよ、

華恋と鈴音、上手く去っていく

橙真 上等じゃねえか、後でほえ面かくんじゃねえぞ、よし、行くぞ射鶴、乃亜、

橙真、上手く行こうとするが

乃亜 教祖様、我々はこっちです、

橙真 何、!?

乃亜 お金がないので、地下鉄です。

橙真 地下鉄、!?

乃亜 浅草線です。

橙真 浅草線、!?

射鶴 さ、行きましょ、行きましょ、

射鶴、橙真の手をつかんで下手くはける。

乃亜 あ、待って下さし、切符は回数券でお願いします、

乃亜、2人を追って下手くはける。

照明、アリス用に切り換わる。アリス、下を向いて集中している。

シーンとした間。いきなり時計のアラーム音が鳴る。
アリス、大ききため息、ゆっくりアラームを止める。
再びシーンとした間。立ち上がるアリス。周りを戻回して

アリス お疲れ様です……。

返事はない。

アリス お疲れ様でした。

返事はない。

アリス ……お先に失礼します。

返事はない。アリス 一人で帰宅する。大ききため息
照明を切り換えて、事務所と道路の境いを現す。アリス、上手へ去る。幽霊2、下手から出てくる。
アリス、上手から入ってくる。目の前に幽霊2がいる。後ずさるアリス。幽霊2ゆっくり近づく。

アリス 私は何もしてあげられないから。

幽霊2「助けて」と小さくつぶやきながらゆっくり近づく。

アリス 何もしてあげられないから。

幽霊2「助けて」と小さくつぶやきながらゆっくり近づく。

アリス 「いぬんなさい。……いぬんなさい。……いぬんなさい。」

アリス、ふりしぼるよつに大声を上げる。幽霊2アリスへ近付きつつあったが、アリスを素通りして上手へ。

アリス、つまずくまっつりしたが、幽霊がいないことが分ると上半身を起す。大ききため息。泣きそうな表情。いらえて下手へ歩き出す。

華恋と鈴音が下手から入ってくる。センターへ。

鈴音 どおーもー「白百合のスターズです」今日はいろいろ新ネタをそろえてみました「楽しんでもらえたらと思っております」それでは「本日のネタ」

アリス、素通りして下手く。華恋、急いでアリスを止める。

華恋 ち、ちよつとアナタ「私達が「ニ」までやっているのに素通りよはしつらつつもりなのですよ」?

アリス ……何ですか?

華恋 日々の生活に疲れているアナタの為に娯楽を用意したのでしても?

アリス 別に私、疲れてませんから。

華恋 嘘おつやい「そんな死んだ魚のような目をして疲れていたらわけがなくても?」せ、「」の字の面白ネタを見て癒されなさい。さ、鈴音「続けるのよ」

華恋、アリスをせうターく戻す。

鈴音 リアルな動物の鳴きネネ「アリス「まず「本日はグジャ」として。犬の鳴き声。……ウ」

アリス、無言で下手く去ろうとする。華恋、それを慌てて止める。

華恋 なぜ? 似てたじゃない「似てたでしょ」?

アリス いや、クオリティは高いと思えますけど、それを今「」でやられても…。

華恋 鈴音「次よ」

鈴音 続いて「本日も犬ネタ「「激しく遠吠えした後、もの足りなかったのかつい少しもれてしまった犬の鳴き声」……ウオー」「オ」「オ」「オ」……「バ」

アリス無言で下手く去ろうとする。華恋慌てて止める。

華恋 だからなぜですよ?!

アリス 犬じゃないんですか?

華恋 見てびっくりじゃありません」よ「鈴音「余す」もなくアナタの裏方を覗けけるのです」

鈴音 「本日「牛の鳴き声」……モー。続きまして「二匹の鳴き声」……ウウウウ。続きまして「アヒルの鳴き声」……グワ。続きまして「ダチョウの鳴き声」……ウワ。」

華恋 待つ。それはアヒルの鳴き声ではなくて?

鈴音 違いますよ、アヒルは「ウワ」です。

華恋 ダチョウは?

鈴音 ダチョウは「ウワ」です。

華恋 「緒でしょ」?

アリス、ウウ。

鈴音 華恋お姉様、しまいちうけなかつたよつですね。
華恋 鈴音、次のネタやりなさい。
鈴音 ええ、もう出しつくしちゃいましたわ。
華恋 何でもいいからやるのよ。早く早く。
鈴音 クオリティ低くてもよろしくて。
華恋 よろしくてよ。ちゅ。

アリス無言で下手く去つて行く。

鈴音 完全に見切り発車の新ネタ「象の鳴き声」……。パオーン。
華恋 言った。今パオーンで。パオーンでバッキリ言った。
鈴音 だからクオリティ低くって言ったじゃありませんか。
華恋 低すぎじゃなくて。悪ふせけがすぎます。じゅも。
鈴音 そんな。つてあら。

鈴音、アリスがらならじゅに気付く。

華恋 私達のおもてなしをうけにするなんて良い度胸ですわね、三葉アリス。こんなじゅで心が折れると思つたら大間違ひでしてよ。
鈴音 心が折れそうな私なんですけど。
華恋 鈴音。
鈴音 は、はい。
華恋 革命に犠牲はつきものなのよ。その先に私達の明るく未来があるの。
鈴音 華恋お姉様。
華恋 さ、追つてよ。
鈴音 はい。

華恋、鈴音、下手くはける

橙真、射鶴、乃亜が上手より入ってくる。センターで横ならび。下手よりアリスが入ってくる。3人、アカペラの音合わせを始める。「ぐぐ」で合わせる。一度止めて3人同時。終わる前にアリス、上手くはけて行く。橙真、無言でアリスを追い、センターへ連れて来る。

橙真 聞け。とりあえず聞け。

アリス 何ですか。

橙真 お前のノートを狙っている3人組がアカペラ披露しようとしているんだぞ。面白いだろつが。

アリス 別に。

アリス、上手へ行こうとするが、橙真それを止めて。

橙真 聞け。とりあえず聞けって。そして俺達の教えの素晴らしさに気付け。

橙真、定位置に戻り

橙真 どうも。ホーホケ教のトリカムと、アカペラースです。

アリス 歌わないんですか？

橙真 MCだよ！

アリス MC？

橙真 MCやるんだよ。

乃亜 すみません。うちの教祖様、バカなくせに段取り好きなんで付き合ってください。

橙真 どうも、アカペラースです。この間地下鉄に乗っていたらオタク系のヤロー3人組が乗車してきました。リュック、紙袋、ハンカチ、携帯ゲーム機など必須アイテムが全部揃っていました。どんな話をするんだらうと会話を聞いてみると、案の定、ゲームの話でした。ゲームに登場する美少女キャラクターのおっぱいの話です。やれりらだのEのりだの。微乳がいらしたの、ロケット乳がいら

だの。大盛り上がりでした。最近のゲームは美少女キャラに限りその設定が細かいんですよ。20分くらい聞いてましたでしょ。彼らは同時に電車を降り去ってしまいました。行き先はおそらく秋葉原でしょ。その3人の言中を見て俺は思いました。「ああ、お腹がすいたなあ」と。では聞いてください。

アリス います？

橙真 あ？

アリス 今の話、います？

橙真 段取りだよ。いるんだよ。それでは聞いてください。アカペラースで……「おっぱい」

3人、音合わせを始める。3人順番に合わせいき、一度止める。3人同時に音を出す。歌い出そうとした瞬間

アリス もう帰ってもいいですか？

橙真 止めるなよ！

射鶴 何なの？！ 気持ちよく歌おうとしてるのに、信じらんない！

乃亜 あ、もう少し付き合ってくださいよるじいじいでしょうか？

アリス、しゅしゅ元の位置に。3人も定位置に。

橙真 どうも、アカペラースです。
アリス そこから!?
乃亜 教祖様。
橙真 ……それでは聞いて下さい。アカペラースで「メタボリックな教祖様」

3人音を合わせる。歌いだそつとした瞬間。

鈴音 いたいたいた！華恋お姉様、しましたわ！

華恋と鈴音が下手から入ってくる。

射鶴 何でいってで邪魔が入るのよ！
乃亜 教祖様「バカ女二人組です」
華恋 さあ、三葉アリス！今度は私が長年書きためたボエムを聞かせて差し上げますわ！
橙真 待て！お前らは先に挑戦して失敗してるだろ！
恋華 あら、順番に話をするなんてルールはなくてよ？
射鶴 何でワガママなの!?! 親の顔が見てみたいわ！

橙真 射鶴。
射鶴 何よ。
恋華 女王がワガママで何が悪いのかしら？
鈴音 そうよ！華恋お姉様に意見しようなんて百万年早いよ、「長年放置されてカラスも相手にしなくなったカカシ」みたいな顔のクセに！
乃亜 ハマリすぎて笑いよりも感心の方が先に立ちますね。
射鶴 可愛し顔して狂毒吐くわね。自分の考えた作戦が邪魔されてるのよ!?! 腹立たないわけ!?!
乃亜 分かってます。もちろん引く気はありません。が、同時にターゲットに話をした所でうまくいくはずがありません。どうでしょう?。これは一旦双方引き上げて後日、作戦を変更して再挑戦するというのは。
橙真 と、二つの作戦参謀が言ってるんだがな。俺はそれで良いと思うが?。
華恋 余裕が無いと思われるのは心外ですからね。口先もそれでよろしくても。
鈴音 抜けがけ防止の為にターゲットから遠く離れるまでは一緒に移動しましょう。
射鶴 お互い様よ！油断できるもんですか！
橙真 じゃあな！またすぐ来るからな！（アリスに）
華恋 それまでごきげんよう。

5人、塊になって下手く去って行く。

アリス、5人を見送る。アリスが下手を見ている間に幽霊3が上手より入ってくる。
アリス、前を向くと幽霊3がいる。

アリス 何よ……何なのよ。

幽霊3「助けて」とつぶやきながらアリスに近づく。

アリス 放っておいても。私にかまわなくても。何で私なのよ…

幽霊3、アリスに近づく。後ずさるアリス。

アリス 何も出来ないって言ってるじゃなし「消えてよ」「今すぐ消えてよ。今すぐ消えてよ」

アリスの言葉が言い終わると同時に上手から華恋、鈴音、下手から橙真、射鶴、乃亜が入ってくる

橙真 そして本当にまだすぐ来ませ…

華恋 さあ「私のホムスをお聞きなせし…

5人、互いを認識して「あゝ…」と声を上げる。

射鶴 何で？！今よ？！ただ今それこそ解散したばかりなのよ？！

鈴音 そっちこそ何やってるんですか？！

乃亜 本来ならこっちに優先権があるからいいんです…

鈴音 さっきの提案はそれを放棄したって事ではなくて？！

華恋 流石、下々の考える事は下品極まりませんよ…

橙真 この場にいるお前が言うなよ。

華恋 心配になって戻ってきただけですわ…

橙真 そんな感じじゃなかったけど…

射鶴 こんな連中が同じノートを狙ってるんじや安穩としてられないわね「強行手段に出るしかなしわ…

射鶴、アリスに近づくところだが、鈴音に止められる

鈴音 そんなことが許されると思ってますか？！

射鶴 当たり前じゃなし「やらなければならならい」とがあるのよ？！いっしょにいる全員に教えてお

げる。方法にだわって目的を見失うことが一番おバカさんのすることなのよ。

華恋

そうね。それについては私も同感だわ。

鈴音

華恋お姉様
!?

アリスに向かおうとする華恋を鈴音が止める。射鶴は乃亜と橙真が止める。幽霊がアリスに近づく。5人は大騒ぎ。センター後方にいるアリスに6人が近付いて行く。

6人がアリスを囲い込むような位置にくる。

アリス

いゝ加減にしても……いゝ加減にしても……いゝ加減にしても…

アリスの怒鳴り声。6人を割って前へ出る。6人はアリスの方を向く。

アリス

何で私に言うのよ…私だって好きで見えてるんじゃないから…どうして放っておいてくれないのよ…そつとしておいてくれないのよ…私は普通でしただけなのに……。嫌だ。もう嫌だよ。……。助けて。……。誰か助けて。

雷鳴の効果音。同時に音楽。

ダイナがセンター後方から入って来て、アリスの隣へ。6人全員がストップモーション。

51

ダイナ

呼ぶのが遅えーんだよ…

アリス

……。誰?

ダイナ

俺が誰かはアノタが当てる。

アリス

え?

ダイナ

いや、違つ。そうじゃない。何だ、その……。俺は悪魔だ。契約をしに来た。

アリス

契約……。

ダイナ

アノタは今、助けを求めた。そしてそれに俺が応えた。悪魔である俺がアノタの願いを3つ叶えてやる。その契約だ。

アリス

……。アノタが悪魔?

ダイナ

何だよ。幽霊がいるのに悪魔は信じられないのか?幽霊が時間を止められるか?それが出来るのは悪魔だけなんだぜ?周りを見ってみよ。

アリス、周りを見る。全ての人間が止まっていることに気付く。

ダイナ

俺が時間を止めてるんだ。今、この世界で動けるのは俺とアノタだけだ。他のヤツらは痛みすら感じない。

アリス

そんな……。

52

ダイナ 信じられないか？

ダイナ、輪ゴムを取り出し、輪を切り線にする。近くにいる橙真に片方を持たせる。伸ばす。はなす。「はっ」と言がする。

橙真 いで。

ダイナ ……な？

アリス いや、なつて……。

ダイナ 信じられないか？

ダイナ、通常の₁₀倍はあるようなゴムを取り出す。

ダイナ よし、アノタが決める。

ダイナ、ゴムをアリスに渡す。アリス、ゴムを持って6人を戻回す。6人、ゆっくりとアリスから目をそらす。

アリス ……目をそらしている気がするんだけど。

ダイナ よし、もう適当にゴイツでいいや。

ダイナ、射鶴にゴムを持たせようとする。必死に無言で抵抗する射鶴。目でアリスに懇願。

アリス 分かった。アノタの言うことを信じる。

ダイナ ……ある意味残念だが、信じてもらえて何よりだ。じゃ、契約するか？

アリス え？

ダイナ 助けてほしいと願ったのはアノタだろ？俺が助けてやる。3つの願いをか叶えるようにもつてな。ただし。

アリス ただし？

ダイナ 3つの願い事をかなえた後にはアノタの魂をもらっ。

アリス 魂……。ありがちなおとぎ話ね。

ダイナ だが、これは今アノタの目の前で起きている現実だ。どうする？助けてほしいと頼むなら今すぐ助けてやる。

アリス そんなこと急に言われても……。

ダイナ いや、違っ。そこじゃない。正確には魂は3つ目にもらっ。

アリス ……どっぴろっぴ？

ダイナ 待て。整理して話す。……悪魔と契約した人間は3つの願い事を叶える権利を与えられる。

ただし、その都度、その人間の体の一部を代償として差し出さなければならぬ。目でも手でも足でも耳でも何でも良い。一つの願いを叶える度に一つ、差し出す必要がある。

アリス そして3つ目の願いを叶える時には必ず魂を代償にしなければならぬということか？
ダイナ ああ。

アリス 一つ目の願いをして、それ以降願いをしなかったら？

ダイナ 俺がずっとアソビにやり憑くことになるな。

アリス 幽霊だけじゃなくて悪魔にまでやり憑かれたら気が気じゃなげし……。

ダイナ 3つ目の願い事をして救済措置はある。

アリス どうすればいいの？

ダイナ 3つ目の願いをしたその日から数えて7日以内に俺の名前を当てること。

アリス 悪魔の名前を当てるの？

ダイナ 救済措置があるだけマシだろ？。まあ、どうする？。契約するか？。

アリス、一人考える。ダイナと6人を交互に見る。
しばしの間。

ダイナ アソビは答えを出すのに時間をかけすぎる。何でか分かるか？

アリス ……何で？

ダイナ 自分が分かってないからだ。自分のこと、嫌いだろ？

アリス、ゆっくり下を向く。再び、一人考えるアリス。

ダイナ 契約するから聞き方が悪いのか？。ならもう一つの言い方をしてやる。……変わりたいか？

アリス、バツとダイナの方を見る。

ダイナ 自分を変えたいと思っただけか？

再びうつむいて一人考えるアリス。6人を見る。ダイナを見る。

アリス ……変わりたい。

ダイナ 決意表明は子カイン声で言えよ。

アリス 変わりたい！！

ダイナ 聞こえない。

アリス 変わりたい！！

ダイナ はあ？

アリス 変わりたいて言ってるでしょ!!
ダイナ ……契約成立だな。で、どうする?。二目的の願いは?。先に願いを、次に代償にするものと言ってくれ。二つなら全員殺すか?
アリス ちよつと待って……。二目的の願いは……。私のボディーガードになって。
ダイナ ……………え、俺か?
アリス そう。で、代償にするのは私の体の一部なら何でもいいのよね?
ダイナ そうだが、ちよつと待て。
アリス 私ね、左側の三に親知らずがあるの。これを代償にする。
ダイナ 親知らず?
アリス 願いの大きさに対して、代償の大きさの説明は受けてませんけど。

57

ダイナ、しばし呆然。そして少し笑う。

ダイナ アンタ、そういう一面もあるんだな。
アリス ダメ?。それとも無理?
ダイナ いや、了解した。……じゃあ、とりあえず、目の前にいるコイツらをどうにかするが。

ダイナ、両手でハッ!!と二つ手をたたく。6人が一斉に動き出し、ダイナとアリスは後方へ。6人

は前方へ移動。6人、2人を振り返り、各々わめく。

橙真 何だお前は?
華恋 そこをおどきなぞ!!
ダイナ 俺はボディーガードだ!!。まずお前!!

ダイナ、幽霊3を指差し

ダイナ お前はそつさと成仏しやがれ!!

ダイナ、幽霊3を払いのける。大きい雷の音。幽霊3、くるくる回りながら上手くはける。

ダイナ 次はお前ら!!。どつが遠くへ行つちまいな!!

ダイナ、5人を払いのける。大きい雷の音。5人、悲鳴を上げ、くるくる回りながら下手く。

アリス 凄。瞬でいなくなっちゃった。まさか、皆殺したの?
ダイナ そうした方が良かったか?

58

アリス まさか。
ダイナ 幽霊は成仏させただけだし、あの人間ら人は…………。
アリス は？
ダイナ ま、地球のどこかにはいるだろう。
アリス そんな…
ダイナ それより、ちつちつ帰ろう。
アリス え？帰るって？
ダイナ アンタの家だよ。
アリス 家にくるの？どうして？
ダイナ ボディーガードだから。
アリス さっきみたいに呼んだ時に来てくれれば。
ダイナ 嫌だ。
アリス 嫌だって……契約したのに。そんなこと許されるの？
ダイナ テレビつてやつを覗てみたら。
アリス は？
ダイナ テレビ。覗てみたら。
アリス テレビ？
ダイナ テレビ。

アリス 見たらちつちつ出てくれる？
ダイナ それは分からない。夕飯しただけだ。
アリス は！？何で私が夕飯の用意までしなくわや……。
ダイナ ボディーガードだから。
アリス よね。……分かったわよ。来ればいいでしょ。その変わりにつづいてもらい？
ダイナ ん？
アリス 私はアリス。アンタはやめて。

ダイナ、答えずニヤッと笑つのみ。アリス、上手に向かって歩き出す。

アリス まったく、悪魔がテレビ好きなんて初めて知ったわよ。
ダイナ 久米さん、最近見なくなつたよな。
アリス しかも、ニース… ……あなたって変な悪魔よね。
ダイナ よく言われる。

アリス、首を振つて上手にはける。

ダイナ、上手、はける直前で止まる。下手にくいつ

ハング お前、初めてだからって説明ぐたすきるたる。
ダイナ うるせえな。ちよつと緊張してたんだよ。
ハング まあ、何とか契約成立したから良かったものの…。おじ、ちよつと3つの願いを叶えてしまえよ。
ダイナ 俺は、
ハング 待つんだろ。ただし、いいか。悪魔の規律だけは絶対に守れよ。代償をもらわずに願いを叶えるなんていふしならもつにな。
ダイナ 分かってるよ。
ハング 分かってないんだよ。お前は何も分かってない。
ダイナ そうかよ。半人前だつて言いたっただけだろ。
ハング いや、違う。

61

ダイナ、首をかじげる。

ハング あなたつて変な悪魔よね。

暗転。ハング、ダイナはける。

時雨、声のみ「ガッテムーンス、ゴリッ、」

音楽「田中 匡史・ピコ・テイルサントー」

歌い出しと同時に照明。時雨、マイクを持って歌いながら登場。後を追つてハングに柚葉。時雨はちよつとぐらなら客席く下りても構わな。観客と握手するな。ど。ある程度の所で舞台上に戻り、ポーズ。

時雨 決まった。今日も決めてしまいました。

柚葉 そーですね。

時雨 感動して声も上がらないのでしょ。

柚葉 そーですね。

時雨 ……にしてもそろそろ拍手くらいあつても良さそつなものですわが。

柚葉、客席に拍手してくれとアピール。自らも拍手。客席から拍手があるのがぐすただが、無くてもOK。しばらくしてから、時雨、「しつとものタマリ」のちよつとぐら。ハングハング。と指揮をしる。(つまぐらかなら)

柚葉 主任、仕込んでないので、それは無理なんじゃ……。

時雨 ガッテムー!! ガッテムーです!! 11の辛気くちぢがらけならんです。11の部屋の主任はまだ入社しないのですか?!

柚葉 アリスが遅刻するなんて初めての11なんです。

62

時雨 当たり前です!! 彼女はそれだけの責任があるんですから。
柚葉 きつと何か事情があると思っんです。
時雨 事情?。自宅と職場を往復するだけの生活を365日、10年間続けてきたウーマンにどんな事情があると言っんです?
柚葉 それは……。

アリス、上手より走って入ってくる。ダイヤはゆづくり。

アリス おはようございます!! 遅れて申し訳ありません!!
柚葉 アリス!!
アリス 柚葉、ゴメン。ちよつと事情があつて。
柚葉 大丈夫!? 何があつたの?
アリス それがね。
時雨 へい、ゴト!!
アリス 晓主任、遅れて申し訳ありませんでした。
時雨 ノー、ノー、ノー、ノー、ノー、ノー……言ひわけ無用です。今すぐ辞表を書ひて私に出しなせろ。
今すぐ、ナアウ!!
柚葉 主任、事情を聞いてくれてもいひじやなりですか!!

63

時雨 いいえ柚葉君。海より深い愛情を持つている私ですが、今度という今度は堪忍袋のテイルがぷツツ
しまひました。辞表です!! ナアウ!!
柚葉 主任!!
時雨 何ですか?
柚葉 後で私が熱しお茶を入れますから!!
時雨 柚葉君。いくら私がアテナにツッコゴゴつたからと言つてもですね、これは仕事の話をしてゐるん
です。ビジネスです。ビジネスといつのはもつと効率的で生産的な、
柚葉 お手製のクッキーもつけます。
時雨 事情つて何ですか?
アリス え、あ、はい。それがその……昨日ですね、変な組織に狙われまして。
時雨 変な組織?

64

柚葉と時雨、アリスの話を実剣に聞く。

アリス はい。例の業を狙つてゐるようで……もちろん、まだ完成してないので、トトなんでも……。
その、この組織から。
柚葉 2つ?。昨日、いきなりなの?
アリス 実は、もつ随分前からなんだけど。

柚葉 何で言ってくれなかったのよ!! 危ないじゃない!!
アリス 危ないっていうようなアしじゃないと思つて。どちらかと言つて狙つてきても、自爆して退却してほつかりだから。
柚葉 何言つてるの!! そんなヌヌな組織があるわけじゃない!!
時雨 それで、どうしたんです!! まさか……
アリス あ、大丈夫です。ノートは無事です。
時雨 そうですか……。
アリス ただ、昨日はいつもとちよつと違つて、無理やり私を連れ去るつもりでした。
柚葉 でも、無事逃げる事が出来たのね。
アリス えつと、逃げたんじゃないで
時雨 しかし、そんな話をいきなりされて信じると言ふんですか。選刻の言ひわけをするにしても、もつとりアリティといつても必要です。でもそれ思ひませんか。

65

時雨、ダイナに話を振り、ダイナに驚く。

時雨 誰です、アタタは!!
ダイナ 天然か。
アリス 彼が昨日、助けてくれたんです。私がおそわれている所を偶然通りかかつて。

時雨 助けたつて……たつた一人ですか?
アリス はい。
時雨 2つの組織におそわれていたのでしょうか。それをたつた一人で助けたんですか!!
アリス あ、2つの組織と言つても、1つは3人で、1つは2人なんです。
柚葉 何言つてるの!! そんなヌヌな組織があるわけじゃない!!
時雨 バット!! そつはいつてもワンオフアイト。エー!! ムーニストロウダ。
ダイナ 1つバカなのか?
アリス えつと、あの、彼はワロのポテターガードなんです。
柚葉 ポテターガード!!
アリス それで、事情を話したら、こつで会つたのも何かの縁だつてよつになつて、ポテターガードを引き受けてくれるよつになりました。
柚葉 何で江戸の子なポテターガードなの。
時雨 じゃあ何かあつた時にはアタタが対応して下さるんですね。
ダイナ ………あゝ。
時雨 でも、費用の方がお高いんですよ。
アリス あ、それは大丈夫です。私の方で契約しましたから。
時雨 イツソープロフム!! 問題ありません!!
アリス そんな事情ですので、しばらく彼と行動を共にせせてほしいんです。あの入選が諦めたとは思へ

66

なくて。まだいつおそつくるか……。

時雨

……わかりました。いいでしょ。ノートの巻です。

3人の明かり消える。下手前方に明かり。

橙真、射鶴、乃亜の3人が入ってくる。3人はクタクタ。

乃亜

やつと日本に着いたー！

射鶴

もう信じらんない！何なのよ！神かくし、神かくしなわけ？

乃亜

もう、くたくた。少し休めましょーよ、教祖様。

橙真

体力のない奴らだな。ヒシツとしろよ。

射鶴

アマソンの奥地からやつと日本に帰ってきたのよ。しかも少しも休まず！原住民に追いかけるわ、巨大アソクンタと戦うわ、密入国あつかりで指名手配されるわ、それでヒシツしてるアソクンの体力の方がどーかしてるわよ！

橙真

結構面白かったろーが。あんな体験めつたに出来ねーぞ。

射鶴

一生したくないわよ、あんな体験！

乃亜

射鶴さん、教祖様と会話しようと思っただけ無駄です。

射鶴

だって！

橙真

分かった、分かった。そんなにブーブー言つな。少し休ませてやるから。よし、休憩！

67

射鶴、乃亜、その場にしゃがみ込む。

橙真は伸びをしたり、体をほぐす。3人の明かり消える。

上手前方に明かり。華恋と鈴音が入ってくる。

華恋

何よ、何ですの 体！

鈴音

華恋お姉様、そんなにお怒りにならないで。

華恋

だって、2人して気付いたらあんな場所にいるなんて考えられますこと？。これは老い、いきなり現れたあの、ひじきみみたいな格好した男のせいに押し付けてよ！

鈴音

ボディーガードとかつて言っていましたわよね。

華恋

三葉アリス！一般ピーポーの分際でボディーガードなんて生意気ですわ！しかも、この私をガードするなんてどういっつて見ですの？

鈴音

華恋お姉様！怒りは美しさをとって天敵ですよ！私、お姉様にはもつと大らかでいてほしいですのに！

華恋

鈴音……。そうね。私が間違っていたわ。私はもつとドーンと構えてはあげませんわよね。女王なんですもの。

鈴音

華恋お姉様……。

華恋

鈴音、あなたは私にいつも大らかでいてほしいとおっしゃいましたが、同じように、私もあなた

68

にはいつも笑顔でしてほしいと思っておりますのよ。
鈴音 お姉様たら……。
華恋 それはそうと、一つ聞いてよろしいかしら？
鈴音 はい。
華恋 あなたは一体、いつ着がえているの？
鈴音 内緒ですわ。

鈴音は出てくる度に衣装を変える。

2人の明かり消える。後方のアリス、ダイヤ、柚葉、時雨に明かり。ダイヤ、アリスの近くに来て

ダイヤ なあ、さっき言った例の薬つてやつについて教えてくれないうか。
時雨 それは私から説明しましょう……！

橙真、射鶴、乃亜に明かり。

乃亜 ねー教祖様、せっかくですから、三葉アリスの開発している薬について詳しく教えて下
よ。 せし
橙真 あ？話したことなかったか？

射鶴 全然。いつもゴチャゴチャうるせえって流すじゃない。
橙真 そうか？じゃ仕方ねえな。

華恋、鈴音に明かり。

鈴音 ねえ、華恋お姉様。三葉アリスに霊能力があるのは分かりましたけど、それと開発しているもの
には何か関係があるのかしら？
華恋 流石鈴音。良い所に目をつけたわね。よろしくてよ。お話ししてあげる。あれは今から十数年前
の話。世界で最も有名な予言が実現したことを知る者は少ないわ。
時雨 霊能力を持っている彼女は、一九九九年七月、ある人物をその身に降霊させました。
橙真 医者でもあり、占星術師でもあるその人物は、自分が生きていた当時、理論は完成させながら
も実現できなかった薬の調合方法を、一冊のノートに書き記したんだ。
華恋 その薬とは、飲んだ者に言葉の絶対性を与える薬ですの。つまり、その薬を飲んだ人間の言った
言葉は、それを聞いた人間に絶対の強制力を働かせることができますのよ。
時雨 この薬の画期的なところは、目的を達成させる為に薬を飲むのが、一人で済むことなのです。どん
なに厳格な軍事国家でも方を超す大軍の意志を統一させるにはタイムがかかります。マネーが
かかります。……まさしくタイムイズマネーです。……しかし、この薬があればそんな問題は吹き飛び
ます。

乃亜 一九九九年七月に降りてきた人物？
射鶴 医者であり占星術師でもあった人物？
鈴音 その人物って、まさか？
華恋 そう！！
時・華・橙 人類最強の予言者、ノストラダムス！！
時雨 つまり彼はその年に薬の調合を書き記すために降臨することを知っていたのです。恐怖の大王とはノストラダムス、彼自身のことなのです。
橙真 だが降霊は薬の調合方法を書き終わるまで続かなかつた。依り代である三葉アリスの体力が持たなかつたからだ。
華恋 解放された彼女は三日三晩うなされたということですよ。偶然用事のあった大学の同級生が71
自宅で倒れている彼女を見付けて病院へ運び、事なきを得た、ということですよ。
柚葉 その後アリスから詳しい話を聞いた私は、私の勤めている会社に入ることを勧めたんです。霊媒体質のアリスは定期的な仕事に就くのが難しかったし、うちの製薬会社も厳しい現状にあつたので…。
時雨 それから約十年間、彼女にはもう一度ノストラダムスを降霊させ、薬を完成させる仕事を任せられているのです。
橙真 その薬さえあれば問題ないんだがな。今ある半分の文章の中に救いの言葉があるらしい。俺としてはどこまでもいいつてわけだ。

華恋 その薬さえあれば良いですけど。でもノートの中にはそれに近い性能を作り出す機械の設計図が書かれているらしいですよ。
乃亜 なるほど。だから我々はノートを手に入れるか、三葉アリスを仲間に引き入れようとしてるんですね！！
射鶴 ワオ！！ なんだかスリリング！！
鈴音 華恋お姉さま、素敵！！ 素敵ですよ！！
時雨 この薬さえあれば私は救われる！！
橙真 この薬さえあれば信者を増やせるだろうが！！
華恋 この薬さえあれば新しい国が作れるんですよ！！
ダイ十 なるほどな。で、その薬、何て名前なんだ。
時雨 ノストラダムスがその薬の調合方法を思いついた晩、見上げた夜空にもなんで、こつ名付けられました。
時・華・橙 ウィンタームーン。

アリス・ダイ十・時雨・柚葉・華恋・鈴音の明り消える。橙真・射鶴・乃亜のみ明り

乃亜 なるほど。その薬さえあれば信者を増やしやすいつてことですね。薬を飲むのは一人でもいいんだから。

橙真 俺としては赦しの言葉でも薬でもどちらでもいいんだがな。
射鶴 薬は薬!! 絶対に手に入れてやるんだからね!!
橙真 だがそれを狙ってるのは俺達だけじゃないんだ。事は一分一秒を争う。次の作戦の準備が出来次第行くぞ!! 乃亜!! 作戦は任せただけだから。まずはあのいきなり現れた黒子を何とかしろ!!
乃亜 分かりました!!

橙真、下手に去ってゆく

射鶴 アンタも大変ね。次から次へと作戦考えなくっちゃいけないなんて。
乃亜 そうでもないですよ。考えるの楽しいですもん。失敗したの見るのはもともと楽しいですけど。
射鶴 思いついたまんまを作戦にしてるでしょ。実行可能かどうかは別にして。
乃亜 そりゃそうですよ。射鶴さんもしましたよね。現実的な作戦を頑張って考えて発表したら、教祖様何て言ったか覚えてます。
二人 地味。
乃亜 やろっとしてる。と考えたら地味な作戦の方が良いに決まってるじゃないですか。「ヤダ、ヤダ、派手な作戦がいんだろっ」って駄々こねる教祖なんて見たことありませんよ。
射鶴 男の駄々こね可愛いわよね。

73

乃亜、キッと睨む

射鶴 コメンなさい。
乃亜 作戦考えるのは楽しいんですけどね、派手さを求められると困ります。
射鶴 乃亜は本当、変わった子よね。何でうちみだしなまやろっ、ホロっな宗教にはまってるのよ。
乃亜 私の事より射鶴さんこそ変わってるじゃないですか。
射鶴 私が。えー、何で何で。何か変。
乃亜 いや、変なのは全部なんですけど
射鶴 オイ!!
乃亜 私、この間教祖様から聞いちゃったんですけど…。うちの宗教作ったのって、射鶴さんなんですよ
ね。
射鶴 ああー、そうよ。
乃亜 つてことは元々の教祖は射鶴さんつてことですよ。
射鶴 そう。
乃亜 でも言うてました。俺は射鶴から教祖になって欲しいって頼まれたんだって。目が真剣でとても断れるような感じじゃなかったから引き受けたって…。
射鶴 あつたわね。そっつてことも。
乃亜 …何ですか。

74

射鶴 え。
乃亜 何で自分が作った宗教なのに、他人に教祖を譲ったんですか？

射鶴、乃亜の言葉に少し自嘲気味に笑う。

射鶴 何て言えばいいのかなー。でも、いろいろあるのよ。

乃亜 そのいろいろが知りたいんです。

射鶴 何？私に興味を持って無駄よ？私はオカマよ。完全完璧純然たるオカマなんだから。ごめんなさい。暇まないでよ。

乃亜 「いろいろ」って、なんですか？

射鶴 ……オカマの朝って何から始まるか分かる？

乃亜 はい？

射鶴 「いろいろ」を順を追って説明するのよ。

乃亜 オカマの朝ですか？…そあ？

射鶴 オカマの朝はね、溜息から始まる。朝起きて顔を洗いに洗面所へ行けば、そこには鏡があるでしょ？そこに映ってる自分を見て溜息をつくの。自分はやっぱり男なんだって。自覚はしてるのよ。でもその自覚を心の奥底に無理矢理押し込んで生活するの。笑うためじゃなくて、生きるためにな。

乃亜 生きるためですか。

射鶴 だって、自殺するなんて嫌じゃない？

乃亜 まあ…。

射鶴 だからオカマは皆心に仮面をつけてるわけ。でね、心に仮面をつけてると、一つの真実が見えてくるのよ。よくさ、会話はキャッチボールだ、なんて言うでしょ？あれは嘘。

乃亜 嘘？

射鶴 嘘は言い過ぎかな。理想論。投げて、受けて、投げ返す。会話がキャッチボールだって言うのは理想論なのよ。

乃亜 じゃあ。

射鶴 今の世の中、九割の人がピッチャーね。とにかく投げることに頭になるの。受け取るのは弱い人間だけ。そして九割の人は、一割の弱い人を探すのよ。

乃亜 ……オカマは弱い人間？

射鶴 少なくとも強くはないわね。日常生活送るのに、会話ですごいウエイトを占めてると思わない？

乃亜 思います。…疲れたってことですか？

射鶴 だから宗教を作ったの。誰かを救いたかったんじゃないで、私自身が救われたからただけ。でも、

乃亜 でも？

射鶴 私には何もなくて。教えとか、考えとか全然なくて。そりゃそだよ。他人の話聞いて頷いて

ただだもん。自分の考えなんてあるわけないわよ。

乃亜
で、どうしたんですか？

射鶴
とりあえず活動を続けたわよ。「皆さん救われたくありませんかー」って声掛けまくってね。で、ある日、あれはたまたまたったのかなー。いつもは「救われたくありませんかー」って言うんだけど、何か使う言葉間違えて「赦されたくありませんかー」って言うちやたのね。そしたら偶然私の前を歩いていた男がすんじら喰いついてきちゃってぞ。

乃亜
それが、教祖様？

射鶴
うん。「その方法を教えてください」って熱し眼差し向けてぞ。でも私も急だったから何も準備してなくて、つい本当のこと言っちゃった。「実は私もその方法を探してるんです」って。

乃亜
教祖様、怒りました？

射鶴
ううん。「そうですね」って一言。

乃亜
それだけ？

射鶴
それだけ。で、その後「俺も入れてください」って入ってきたのよね。

乃亜
教祖様も赦されたがっている？

射鶴
あの人の場合は…違っんじゃないかしら。あの人は自分のためというより、

乃亜
あ、それなんとなく分かります。

射鶴
でしょ？

乃亜
でも、それで何で射鶴さんが教祖を護ることになるんですか？

射鶴
んふらふー。私はね、半分、赦されてるの。

乃亜
え？

射鶴
半分ね、赦されてるの。

乃亜
半分だけ？

射鶴
私は今まで自分の存在が赦せなくて、他人からも赦されてないと思っただけよ。

乃亜
…醜いからですか？

射鶴
バキッ！！

射鶴、乃亜にヘアパンチ！！

射鶴
まあ、遠からずだけとね。でも教祖様は私を認めてくれたの。「お前はお前のままでいい」。あの言葉はそれまで生きてきた人生の中で初めてあったかいつ思える言葉だった。私一人が救えるんですもの。教祖様なら立場を与えればもっと多くの人を救えるわよ。

乃亜
なるほど。でも、どうして半分なんですか？

射鶴
他人から赦されたとしても、自分で自分を赦せるかはまた別問題でしょ？

乃亜
…まあ、そうですね。

射鶴
教祖様には信念があるから。ついでに…って思っしね。

乃亜
今まで教祖様の…、ただの下手な馬鹿野郎だと思っただけで、実は、

射鶴 ええ。…ただの下、シヨウの高い大馬鹿野郎なのよ。

二人、少し静かに笑う

乃亜 知っていました？

射鶴 何を？

乃亜 私、結構教祖様も射鶴さんも好きなんですよ。

射鶴 あら、奇遇ね。実は私もなのよ。さあ、小娘、先輩の胸に飛び込んできなさい…

乃亜 あ、そーゆーの、いいんで。

乃亜、スタスタと下手にはける。残される射鶴。

射鶴 うっん、もう…射鶴、悲しい…

射鶴も下手くはける。

アリス・ダイナ・柚葉・時雨に明り。

ダイナ 上から見てるだけじゃ分からないこともあるんだな。

アリス え？

ダイナ なんでもない。大体の話は分かったが…で、俺はどっちを守るんだ？

アリス どっちこて？

ダイナ あんたが持つてるルートが、それともあんた自身が。

アリス あんたはやめてこてば。

時雨 それはもちろん…。

時雨、ちろりと柚葉を見る。柚葉が時雨を見る。

時雨 もちろんアリス君に決まってるじゃありませんか。

ダイナ すげー本意じゃなさそうだけと。が、契約者はあんただ。あんたの口から聞きたい。俺はどっちを守ればいい？

アリス ……私を守って。

ダイナ 今度は最初からハッキリ言えたな。任せる。

柚葉 あ、ついでですか？

ダイナ、柚葉の方に顔を向ける

柚葉 その…ボテヤーガードさんはどのくらい優秀なんですか。人を守ることに対して
時雨 柚葉君…
柚葉 ボテヤーガードの経験や経歴が分かるものはありますか。
時雨 どうしたんですか。ゴ―がそんな失礼なことをトークするなんて…
柚葉 だって怪しい組織が二つも動いてるんですよ。アリスが変な考えに染まったらどうするんですか
…

ダイナ、柚葉をじつと見る。ダイナ、柚葉に近付くとしたとき、

時雨 ソーリー、ソーリー、アイムソーリー、ピタソーリー。日本のトップは管総理…
ダイナ ……「一ゆーの「面倒くさな奴」って言うんだろ。

アリス、指で…とやる

時雨 いや、私の部下が大変失礼なことを言ひまして申し訳ありません。どうかお氣にならぬように。
柚葉 主任…
時雨 だまらっしゃい……は、私が彼と……をとりまわすから。

時雨、ダイナに向き直る

時雨 度々失礼致しました。私、アリス君と柚葉君の上司であります。時雨と申します。以後、お見知りおきを。

時雨、握手を求めるが、ダイナは…と分らない。ダイナからの握手がないので、一人、手をにぎにぎしながら元に戻る。

時雨 私には生きる上での指針というものがあまして…。「長しき入には巻かれる…強しき入には媚を売れ…」…自慢じゃありませんが、そうして生きてきました。

柚葉 確かに自慢じゃありませんね。

時雨 イッツノープログラム…巻かれて媚ひていれば万事うまくいくのです…大波小波はナツシグ…快晴時の湖のように穏やかな水面で人生渡ってゆけるのです。

ダイナ …面倒くせ。

時雨 そこで、イッツ…は、ストロガ―なゴ―に媚を売ることにしました。

柚葉 言っちゃった…媚って言うっちゃった…

ダイナ ……つもの…かに飛はして戻ら…

アリス それはさすがにもつ…

時雨 よ、ダイナ…数々の修羅場を経験しますとオーコが選じますよね…朝飯を助け、強気をくしく。男の中の男とはダイナのようなことを言うんでしょう。いろんなところで女泣かせてるんじゃないですか？ニクイ…ニクイぜ大将…

ダイナ しろ、やっぱり飛ばす。

アリス 駄目よ…

ダイナ 人間とか悪魔とか以前に、生命体としてコイツが許せねえ。

時雨 おつ、早速痴話げんかですか？昨日の今日だつてしろのダイナは手が早い…殺し文句があるんじゃないですか？女をヌロヌロにする殺し文句があるんじゃない？かつしろやつが…

ダイナ うるせえ…魂喰らうぞ…

切り、シッ。

時雨 かつしろ…

ダイナ 面倒くせえ…

柚葉 あ、曉主任、もつろいです。

時雨 どうして？ロイ？

柚葉 もう始業時間とつぐに過ぎていますから。

時雨 オウ、シット…そつでしたね。ありがとつ、さいます。大変有意義な時間でした。

時雨、握手を求めると、ダイナはどつしてしろか分からぬ。時雨、出した手をじろじろしながら戻つ

時雨 それではアリス君、頑張つてくれたまえです…シ—ク—…

時雨、上手に去つて行く

柚葉 アリスのじ、お願いします。

ダイナ、柚葉のじを戻して

柚葉 …何か？

ダイナ いや…。

柚葉 じゃ、アリス、頑張つてね。

アリス うん。コメ、ね。

柚葉、ダイナに「礼してから上手に去る。

アリス大きく深呼吸。軽く気合を入れしてから動く。

アリス さと。それじゃ私は仕事をせしてもらっね。あなたはじつする。

ダイナ、じつとアリスを覗き見る。

アリス ……何？

ダイナ アンタ、あの女に何かしたか？

アリス え？

ダイナ さっきアンタ「じめんね」って言ったよな。…じつも「じめんね」だ。

アリス 何の話？

ダイナ 誰かに何か注意された時も、誰かに何かをしてもらった時も、じつも「じめんねさし」って言うもな。

アリス だって、それは。

ダイナ 注意された時は分かる。「じめんねさし」「すみません」…まあ分かる。が、誰かに何かしてもらって嬉しい時にまで「じめんねさし」はおかしらな。

アリス つい癖で。

ダイナ 癖なら、その癖は直した方が良く。言葉は意識して使うものだろ。「頑張ってね」って応援されて

癖で「じめんねさし」を返すのは選んと思っけな。

アリス ……うん。

ダイナ そんな時は？

アリス 「ありがとう」

ダイナ の、方がいいたろな。

アリス うん。そつだね。今度からそつする。

ダイナ おう。仕事しろ。

アリス ……何か偉そうなのよねー。ねえ、私ってあなたについてお奢りやないの？

ダイナ 知らん。仕事しろ。

アリス はい。

アリス、机に座り、じつとする。間。何も変化なし。ダイナ、上を覗いたり、上手を覗いたり、下手を覗いたりする。アリスはじつとして動かない。ダイナ、懐中時計を取り出す。カチカチと時計の音。次第にフェードアウト。

ダイナ ちよつといいか？

アリス 何？

ダイナ 仕事は？

アリス これ。

ダイナ 椅子に座ってるだけだろ？

アリス 座って霊が降りてくるのを待つのが私の仕事なの。

ダイナ ああ、じつとしてたコト、仕事だったのか。

アリス え？

ダイナ なんでもない。…そうやってれば霊が降りてくるのか？

アリス 分からない。

ダイナ 分からないって…。

アリス 特定の霊を降ろす方法があればいいんだけど。

ダイナ それは願ひ事か？

アリス ううん。ただの愚痴。

ダイナ そういふ方法を知らなわけじゃないがな。

アリス 本当？

ダイナ 二つ目の願ひ事にするか？

アリス …検討する。

ダイナ ま、アンのペースでやればいじむ。

アリス もう、アンはやめてっば。

橙真、射鶴、乃亜が下手から入ってくる。音楽「ピラピラカーのテーマ」
三人、音に合わせて抜き足、差し足、忍び足。上手まできて整列。

橙真 よし、ターゲットを確認！！今回のターゲットはあの黒いコスプレ野郎だ！！乃亜！！作戦は大丈夫か？

乃亜 はい！！ターゲットが男であれば、これ以外の作戦はあり得ません！！名付けて「お色気誘惑大作戦」です。

橙真 却下だ！！

射鶴 早っ！！

乃亜 ちよつと、どうしてですか？

橙真 バカ野郎！！お前には自分がどう見えてるんだ！！

乃亜 失礼なこと言わないでください！！これでも手五にとつてきた男の数は10や20じゃありませんか！！

射鶴 大胆な嘘つくわねえ。

乃亜 嘘じゃありません！！

射鶴 分かる。見栄を張りたくなる時もあるわよね。大風呂敷敷広げたくもある時もあるわよね。女ですものね。

橙真 うん、お前ちよつと黙ろっか。

射鶴

ひどい…

橙真

乃亜、この作戦、成功する確率どのくらいだと思ってるんだ。

乃亜

98%です。

橙真

……お前のその自信がどこからくるのかわかんが、やる価値はあるんだな。

乃亜

勿論です…

橙真、ダイナを見てしばらく考える。

橙真

あいつの趣味がマニアックであることに賭けよう。よし、行こう…

射鶴

骨は拾ってあげるからね…

乃亜

そのあなた…

乃亜、ダイナを呼ぶ。ダイナ、顔だけ回ける。乃亜、ササッとセンターへ移動。

乃亜

!!!ゴシック・スタート…

音楽「青江美奈 伊勢佐木町ブルース」の頭だけ。

乃亜、思いつく限りのセクシーポーズ。(客席に向かって)

ポーズを取り終わった後、ダイナを見る。ダイナ、どうしていいかわからずアリスを見る。アリス首をかしげる。ダイナ、再び乃亜の方を回く。

音楽「青江美奈 伊勢佐木町ブルース」の頭だけ。

乃亜、同時にセクシーポーズ。が、ちよつと方向性を間違はしめる。ポーズ後、ダイナを見る。ダイナ、アリスを見る。アリス首を振る。ダイナ、乃亜を見る。

音楽「青江美奈 伊勢佐木町ブルース」の頭だけ。

乃亜、ボディビルポーズを取る。ポーズ後、ダイナを見る。ダイナ、本当に意味がわからず、助けを求めるようにアリスを見る。アリス、目をつむりながら諭すように頷く。ダイナ、それを見て90度回しこを乃亜にする。

乃亜

頷かれた…

橙真

帰ろう…帰ろう、乃亜…

乃亜、ダンスゴで二人の近く。

乃亜

何なんですか…色仕掛けしてるのに、反応が頷くことくらいのことですか…

橙真 すまん、乃亜!!、アオロしてやりたいたが「やっぱりな」って言葉しか思いつかん。
 乃亜 あいつ絶対頭おかしいですって!!、私がこゝまでしたんですよ?、女に興味ないんじゃないですか?
 ホモなんですよ、ホモ!!
 射鶴 ホモ?
 乃亜 そーだ、射鶴さん行つてくださるよ!!、あいつホモですよ、ホモ!!
 射鶴 え、どうしようかなあ...。私こゝで見ても結構好みってるわらうらう。
 乃亜 じゃあ、ほら!!、よく見てくださる!!、どうですか?、うけそうですか?
 射鶴 え、どれどれ?。

射鶴、ダイナをじっくりと見る。

射鶴 ん、嫌いじゃないかも。
 乃亜 でしょ?、でしょ?
 射鶴 私、「オロオロ系」ってグッとときちやうのよね。教祖様も「オロオロ」だけど、彼、またタイプが違
 うじゃない?
 乃亜 何言ってるか分かりませんが、イけるなら行きまじもつち!!

射鶴、バツと橙真の両手を握り、

射鶴 これは作戦だからね!!、浮気じゃないからね!!、スネちやダメだぞ。///ゴージャク・スタート!!

音楽「青江美奈 伊勢佐木町ブルース」の頭だけ。射鶴、曲の間にセンターへ移動。ポーズ。
ピタッと決まったらすぐに次の曲。

音楽「青江美奈 伊勢佐木町ブルース」の頭だけ。射鶴、曲の間にダイナの隣まで来る。ポーズを
とろつとした時、ダイナ、スリッパを取り出し射鶴の頭を引っぱたく。射鶴、頭を押さえながらタ
ツシゴで戻る。

射鶴 スリッパ出てきたら!!
 橙真 帰つてこい!!、帰つてこい射鶴!!
 射鶴 何なの?、この私があんなにけーろしたのよ?、お店だったらあんなんのしたふならんだから!!
 橙真 すまん射鶴!!、アオロしてやりたいたが、もう言葉も出てらん!!
 射鶴 あいつ、相当マニアックよ!!、きつとナヨナヨしたオカマは嫌いなのね!!、きつと教祖様めたらがチ
 チに興味があるのよ!!
 橙真 お前は何を言ひ出すんだ。
 射鶴 だってそーじゃなまや説明つかないじゃない。私があそこまでやったのよ?、男くそ男が好きなの

橙真 よ、あいつ!!
 乃亜!!
 乃亜 私こそっ思います。
 橙真 おい!!
 乃亜 教祖様、我が宗教のためです。深く犠牲になつてくださ!!
 射鶴 教祖様なら絶対イけるわよ!!
 橙真 イけるわよつて。だつてあいつ、スリッパ出つぽはなしじゃねえか!!
 射鶴 だから何?
 橙真 あれに向かって行くのは口開けた口に頭突つ込むようなもんだろ!!
 射鶴 やつてみなくつちや分からなしじゃなし!! 教祖様、お願い!!
 乃亜 教祖様、お願いします!!
 橙真 ……えー。

橙真、二人に懇願されて渋々前へ出る。橙真とダイナ目が合う。問。
 ダイナ、サッとスリッパを振りかぶるつとする。サッと身構える橙真。

橙真 よし、こは つぐななせりつで締めるつしよつ。
 二人 え?

橙真 覚えてやがれ!!

橙真、上手くはける。「ちよつと教祖様〜」と言しながら射鶴と乃亜もはける。

ダイナ ……あいつはどこから入つてきたんだ?
 アリス さあ?

音楽「ミシシヨシイノポツパルのテーマ」

華恋と鈴音が下手から入つてくる。上手までスパートのように移動。鈴音は大きな荷物を背負つて
 いる。

華恋 下々のミシシヨシイが終わったつるで、しよしも私達の番でつても!!
 鈴音 はい、華恋お姉様!!
 華恋 準備はよろしくつて?
 鈴音 バツチりです!!
 華恋 にちらを「賢なぞい、下民ども!!

アリス、ダイナ、華恋の方を見る。

華恋 今宵、特別にお届けするスペシャルエンターテインメント!! 存分に楽しむがよろしくても!!

鈴音、パンパン!! と手をたたく。それを合図に音楽。

音楽「オリーブの首飾り(ポール・モーリア)」

鈴音、大きな荷物から道具を取り出す。その道具を使って手品を始める。

- ・一本の紐が赤いハンカチに
- ・一本のロープを真ん中から切った後、息を吹きかけると一本に戻る。
- ・個別の二つの鉄製リングが交わったり離れたり。

一つの手品が終わる度、鈴音「ハア!!」と決めポーズ。三つめが終わった時、華恋、アリスとダイナ 95
の方を向き

華恋 どう?

アリスとダイナ、腕組みをして首をかしげる。二人、半笑い。

鈴音 何て微妙なりアクションですか? 一つならアしをやるしかありませんよね!!

鈴音、荷物からトランプを取り出す。

華恋、ダイナを指差す。ダイナ、アリスを見た後、華恋を見る。面倒くさそうにトランプを引出し移動する。ダイナがアリスから離れたスキに、華恋、アリスに近付こうとするが、

ダイナ 止まれ!!

華恋、動きがピタッと止まる。

鈴音 華恋お姉様?

華恋 キヤッ!! 鈴音!! 金縛りでしたよ!!

ダイナ お前らの作戦は見え見えなんだよ。

鈴音 華恋お姉様に何をしましたの?

ダイナ お前も止まれ。

鈴音、ピタッと止まる。

鈴音 キヤッ!! 華恋お姉様!! 私も金縛りでしたよ!!

華恋 鈴音!!

ダイナ、床に落ちている荷物を鈴音に持たせる。ダイナ、センターへ移動。

ダイナ　こんな茶番に毎日付き合わされたらたまらねえからな。また飛んでもらおつが…

ダイナ、両手を上手方向へ振る。大きな雷の音。

鈴音　いや…もつ南極は嫌ですわ…

華恋、鈴音、悲鳴を上げ、くるくる回りながら上手へはける。

アリス　……南極だったんだ……。

静寂。時間のアラーム音が鳴る。止めるアリス。

ダイナ　終わりか？

アリス　うん。

ダイナ　帰るか？

アリス　うん。

アリス立ち上がり、ダイナの隣に来る。二人しばらく並んで歩く。

アリス　…ねえ。

ダイナ　ん？

アリス　ボディガードを引き受けてくれてありがたく助かってるんだけど、もし、私を狙ってるのがもつと恐い人たちでも受けてくれた？

ダイナ　恐い人たち？

アリス　拳銃持っていたりとか。

ダイナ　ああ…別に。

アリス　撃たれるかもしれないよ？

ダイナ　人間に悪魔は殺せない。悪魔を殺せるのは悪魔だけだ。

アリス　へえ、そうなんだ。

ダイナ　まあ、悪魔は死んでも百年すれば生き返るけどな。俺たちに明確な「死」については存在しないんだよ。

アリス　百年で生き返る……。なんか気持ち悪いね。

ダイナ　気持ち悪いってなんだよ。

アリス あなたは死んだことある？
ダイナ いや、俺は悪魔の中でも若い方だからな。
アリス へえい。
ダイナ 悪魔を確実に殺すには消滅させるしかないだろうが。
アリス 消滅って……存在そのものを消すってこと？
ダイナ ああ。
アリス そんな方法あるんだ。
ダイナ まあな。
アリス どうやって？
ダイナ ……俺が教えると思うか？
アリス ま、そうでしょうね。
ダイナ アンタ、実はいろいろ企んでそれで怖いな。
アリス 冗談よ、冗談。
ダイナ 人間と悪魔の一番の違いはソコかもな。人間の場合は「生まれ変わり」っていつんだろ？魂は引き継いでいるがそれ以外は全部新しくなっちゃまって、以前生きてた記憶までない。おれたち悪魔は「生き返り」だ。百年後には、まるっきりそのまま元に戻る。記憶もな。
アリス へえい、生まれ変わりってあるんだ。
ダイナ ん、「生まれ変わり」の話をするのは規律違反だったか？

99

アリス あ、規律やぶったら消滅とか？

ダイナ、アリスを無言で眺む。

アリス 冗談よ、冗談。

ダイナ だんだん冗談に聞こえなくなってきたんだが……。

二人、再び無言で歩く

アリス ……ねえ。

ダイナ ん？

アリス さつき悪魔でも若い方だっけってだけで、何歳なの？

ダイナ だぶん、ピンと来ないぞ？悪魔の1歳は人間になおすと10万歳だからな。

アリス 10万歳？

ダイナ しかもある程度の年齢からは年とらないしな。

アリス 考えようによつてはうらやましい話だけど……。

ダイナ 考えようによつてはな。

アリス こ両親は？

100

ダイナ 二両親？
アリス お父さんとお母さん。
ダイナ ああ……。それは人間の話だろ？。悪魔にはそんなものはない。
アリス じゃあどうやって生まれてくるの？。
ダイナ ある時、ポコッて。
アリス ポウフウみたいに？。
ダイナ もう少し例えを考慮してほしいが、まあな。
アリス え？。そんなんで誰が育てるのよ。
ダイナ 悪魔を監視する悪魔つてのがいてな、そいつらの仕事だ。
アリス 悪魔を監視する悪魔……。
ダイナ エリートつて奴ぞ。

二人、歩くのをやめる。二人振り返る

アリス 待つて。鍵あけるから。

アリス、マイムで鍵を取り出し開ける。

ダイナ 俺が先に入る。

ダイナ、ドアを開けて舞台中央へ。誰もいないのを確認して。

ダイナ 大丈夫。誰もいない。

アリス舞台中央へ。二人、座ってくつろぐ。

アリス じゃあ、あなたにも親代わりになったエリート悪魔がいるわけね？。

ダイナ 親つてというのがどういふもんかわからないからな……。

アリス 育ててくれたり、いろいろ教えてくれる人。

ダイナ だとすれば……そついつことになるのか？。

アリス どんな悪魔？。

ダイナ 何でそんなこと聞くんだよ。

アリス 好奇心？。

ダイナ あんたも変わってるよな。

アリス いいじゃない、教えてよ。どんな人？。

ダイナ んー。あんたの上司と同じくらい面倒くさい奴だな。

アリス えー、そつなの？
ダイナ 何かつーと俺のことバカにするわ、嫌味は言つわ。
アリス 嫌いなの？
ダイナ 嫌いまでは言わないが…。
アリス でも、悪魔の中ではエリートなんでしょ？
ダイナ おう、メチャクチャ強くてさ、だれも勝てないだよ。俺なんか千回以上挑んでるのに一回も勝てないんだぜ？。こつちは結構本気だしてるのによ、向こつは余裕なんだよ。
アリス 強さでエリートになったの？
ダイナ 違う違う、あの馬鹿強さだけじゃないんだよ。死後の世界の歴史に詳しくかつたりするしさ、死んでる人間と生きてる人間のべーんすなんかもスゲー見れて、視野が広いつーのかな。いや、それだけじゃなくて、そーゆーのを下の悪魔に教えるのもスゲー上手いんだよ、あの馬鹿の話聞きに来る悪魔もたくさんいるもんな。
アリス 人気あるんだ。
ダイナ ああ。スゲー人気あるんだよ。なのに俺の周りウロチヨロしてバカにしたり、嫌味言つてさ、面倒くさいんだよな。

アリス、笑いながらダイナの話を楽しんでいる。

ダイナ ……何だよ。
アリス 別に。
ダイナ 何かスゲー馬鹿にされてる気分なんだが……。
アリス 馬鹿になんかしてないわよ。←つて思っただけ。
ダイナ あんたが聞いたから答えただけだろ。
アリス うん。だから、ありがとつ。
ダイナ お？。……おー……おつ。ん？。あ、ワールドビジネスサテライトの時間だ。
アリス ……本つ当に変わった悪魔よね。夕食どうする？。
ダイナ 任せる。
アリス はいはい。

アリス、上手くはける。
ハング 後方センター上段に上手から入ってくる。

ハング 俺は面倒くさいの？
ダイナ 聞いてたの？よ！
ハング 人間の生活満喫してないで、さつもと三つの願ひ事叶えてしまえよ。
ダイナ しついな。俺には俺のべーんすがあるんだよ。

ハング ならそのペースを早めるんだな。
ダイナ 何だよ。
ハング お前が半人前で、変わった悪魔だからだ
ダイナ 聞き飽きたつての。
ハング くれぐれも悪魔の規律は守るようにな。
ダイナ ああ。

ハング、下手に去りかけて。

ハング 俺は面倒くさいのか？
ダイナ 面倒くせーよ！

ハング 下手くはける。ダイナ、上手くはける。
橙真、射鶴、乃亜が上手より入ってくる。

射鶴 もう、敵前逃亡するなんて教祖様らしくないわよ！
橙真 うるせえ！、ノリ気じゃねえ作戦に体張れるか！。
射鶴 あら、色仕掛けだつて立派な作戦じゃない！

橙真 お前らがやる分にはいいが、俺は嫌だつてんだよ！。
乃亜 どうしてですか？
橙真 カッコ良くないからだ。
二人 はあ？
橙真 カッコ良くないからだ。
乃亜 あ、教祖様、それは……。
橙真 ヤダイ！、ヤダイ！、俺は派手なのがいんだ！、目立ちたいんだ！、カッコいいのがいんだ！、
射鶴 今日の駄々ぶりはいつにも増して激しいわね。
橙真 乃亜、そーゆー作戦を考えろ！、
射鶴 ちょっと教祖様、いくらなんでもそれは無理よ。
橙真 無理じゃねえよ！、諦めたらそれでおしまいたろーが。
射鶴 だから何度も言うように方法にだわつて目的を見失つてのが、
乃亜 あ、教祖様？。
橙真 なんだ。
乃亜 2つじゃダメですか？
橙真 2つ？
乃亜 派手で目立ってカッコいいつておっしゃいましたが、そのうちの2つ。派手で目立つ作戦では駄目ですか？、もちろん、教祖様が派手で目立つんです。

橙真 おお、「タイス」「いじぞ」「それでいい」
 乃亜 ありがとうございます。
 橙真 で、どんな作戦だ？
 乃亜 着ぐるみです。
 橙真 ……ん？
 乃亜 「着ぐるみ大作戦」です。予算の都合で着るのは教祖様だけです。
 橙真 ちょっと待て。
 射鶴 いーじゃない、確かに派手で目立つわね、「グーぶグー」
 乃亜 ありがとうございます。
 橙真 いや、着ぐるみってことは、顔隠れてるから、どんなに目立つても俺だつてわからねーだろ！？
 乃亜 大丈夫ですよ、教祖様にはオーツがありますから、充分わかりますって。
 射鶴 どうぞのネスミーマントだつて着ぐるみの効果は抜群だしね。
 橙真 しかしな、
 乃亜 さあ、そつと決まれば早速製作を開始しましょう。
 橙真 いやいや、実際のところ、3つの内の「カッパ」が一番外せなつていつか、優先順位的には上であつてだな、それがな以上、気持ちがおのらないわけで、
 射鶴 「ゴチャゴチャするぞいぞ、と。

107

射鶴、話している途中で橙真にチョークスリパーをかけ、首をタキつとやる(効果音)
 失神する橙真。射鶴、橙真の上半身を持つ。

射鶴 乃亜、そつち持つて。

乃亜、橙真の足をもつ。

乃亜 射鶴さんつてたまに大胆なこつしますよね。

射鶴 オカマに必要なのはね、9割の奥ゆかしさと、1割の大胆さなのよ。

二人、言いながら橙真を連れて下手へ。

華恋、鈴音が舞台後方上部、下手から入つてくる。吹雪の音。

鈴音 華恋お姉様、「凍え死にそつですわ」

華恋 頑張るのよ鈴音！

鈴音 全然前が見えなくてよ。

華恋 そうね。でも、確かこつち方面にベースキャンプがあつたはず。

鈴音 流石、南極も2回目だと土地感が出来ますわね。

108

華恋 さ、行くわよ鈴音、
鈴音 はい、華恋お姉様、
華恋 これで諦めると思ったら大間違いでしてよ、絶対戻って薬でもノートでも手に入れてやる
んですから、

二人 寒い、と言いながら上手へはける。吹雪の音。暗転。
音楽 長州力入場曲 パワーホール
曲に合わせて客席後方から時雨と柚葉が現れる。
舞台にはアリスとダイナ。アリスは机の位置。その隣にダイナ。
時雨、客を煽りながら舞台へ。柚葉は付き人。時雨、舞台上がり右手を高々と上げる。

109

時雨 ダッシャー、オラー、
ダイナ あいつ、キヤラ定まって無いんじゃないのか、
柚葉 いえ、トータル的に、っつらう人なんです。
時雨 グッドモーニング、エブリワン、爽快です、美に爽快な朝です、
柚葉 そーですね。
時雨 グッボイス、今日もグッボイスです、柚葉君。今日は例のレポートが上がってくる予定でしたが、
いかがですか、

柚葉 ニに。

柚葉、レポートを時雨に手渡す。

時雨 ナイス、エクスラバントですよ。パークエクトですよ、トリアンですよ、ま、レポートはあとでゆっ
くり読むとして、結論を端的に説明していただけますか、

柚葉 はい、まず結論から申し上げますと、降霊を行う為には依り代であるアリスが心身ともにリッ
クス状態であることが求められます。今までのように「まだかまだか」と催促すれば精神的なフ
ッシャーとなり、降霊はつまくらかならぬものと考えられます。

時雨 なるほど、そういうものですか。それではあくまで彼女のペースに合わせる、という事ですね、

柚葉 結果としてその方がうまくいくかと。

時雨 アイムアンダースタンド、了解しました。

柚葉 ただ……。

時雨 ホワァッ、

柚葉 リラックス状態はそれなりに外的要因で作りに出せるかと。

時雨 ほう。例えば、

柚葉 笑いです。

時雨 笑い……。

110

柚葉 笑いというのは副交感神経が刺激されて、自律神経が整い、人をリラックス状態にさせる作用があるんです。つまり、アリスを笑わせることができれば、リラックス状態になり、降霊の手助けとなることは間違ひありません。

時雨 べりーべりーエクスレィン、素晴らしい調査結果です。やはり柚葉君にお願いしてよかった。他の人ではここまで掘り下げることは出来なかつたでしょう。本当に……お疲れした。で、ここからは私、時雨に任せてください。「笑い」が必要ですよ。その挑戦受けて立ちこしやありませんか、アリス君。

アリス はい。

時雨 子えく。

アリス、センターへ移動。

時雨 私が今から爆笑一発キヤクを行います、心して見るのですよ。

柚葉 あ、時主任。

時雨 ホワァン。

柚葉 やめた方がいと思つんですけど。

時雨 リベンドです。

柚葉 はい。

時雨 私はいろんな事情により一発キヤクに関してはいべんしなくてはならないのです。

柚葉 どうして自分で自分の傷口に塩を塗りこむようなことをするんですか。

時雨 柚葉君、スぐるの前提で話を進めるのはやめてもらえますか。

柚葉 だって、いろんな意味で見られたいんです。

時雨 イッツノープロブレム、問題ありません。私はこの日の為に練りに練った珠玉のネタを用意してあるのです。いきます、時主任の「一発キヤク」、まずは「発目」。

「合の曲(効果音)」時雨 一発キヤク。

時雨 続いてる発目。

「合の曲(効果音)」時雨 一発キヤク。

時雨 ちらし3発目。

「合の曲(効果音)」時雨 一発キヤク。

時雨 体が温まってるみたいなので、トイトへ行きます、4発目。

柚葉 あ、曉主任。
時雨 ホワァッ?
柚葉 主任の体の温まりに反比例してこちらは凍えそうなんですけど。
時雨 なぜです、ホワイ?
ダイナ あいつ絶対、心の感覚麻痺してるよな。
時雨 何を言ってるんですか、いじですか? 笑う。いじつものは自分のペースに引き込んできた者の勝ちなんですよ。自分のネタを出して、出して出して出し尽くすんです。その内一はひけるはずですよ。先人は良いことを言いました。「教撃ちや罪たる」。
柚葉 駄目ですよ。そんなのだったら私のほうが上手いですから私がやります。
時雨 何を言ってるんですか、私がやるにきまつてるじゃない。
ダイナ じゃあ俺がやる。

3人、瞬アリスを見る。アリス、キョト入として動かない。

柚葉 いから私に任せてください、私がやります。
時雨 いやいや私がやります。
ダイナ 俺がやるって言ってるだろ?
アリス じゃあ、私がやります。

3人 どうぞどうぞどうぞ
アリス ちよつと、

アリス、笑う。

時雨 笑った、笑いましたよ、アリス君が笑いました、

柚葉、時雨をどけてアリスに近付き手を取る。

柚葉 アリスの笑った顔、久し振りに見た。
アリス ……うん。ありがとう。
時雨 どうです? ノストリダムスは降りてきそうですか?
柚葉 主任。
時雨 オーケー、オーケー。

時雨、ゆつくり後ずさる。

柚葉 そうやって笑ってればさ、そう遠くなら先で、必ず、ね。

アリス うん。
柚葉 さ、暁主任、私たちは行きましょつか。
時雨 え、バット、笑いはこれからでは？
柚葉 ーんです。後はボネイガードさんに任せましょつか。じゃ、アリス、頑張つてね。
アリス うん。ありがとう。

柚葉、時雨を連れて上手くはける。
アリス、机に戻る。ダイナはセンターのまま。

アリス 昨日言つてたじゃない？
ダイナ ん？
アリス 特定の霊を降ろす方法を知つてるつて。
ダイナ ああ。
アリス さつき柚葉が言つてた事つて合つてる？
ダイナ リラックスか。まあ……間違つてはしないんじゃないか？
アリス でも、それだけじゃ足りない？
ダイナ まあな。……気にしてるのか？
アリス そりゃあね。柚葉も暁主任もあんなに協力してくれてるわけだし。

ダイナ あの男の事は気にしなくてもいいだろ。ズグつてる自分が気持ちいい単なるト変態だ。
アリス 言いすぎ。
ダイナ あいつらだつてあいつらの立場でやつてることだ。
アリス うん……。でも昨日寝ながら考えたんだけどさ、この薬に関わつてる人間つて多いじゃない？もちろん立場はいろいろあつて、必要としてる理由も様々だけど、求めてるものは同じでしょ？

ダイナ そうだな。
アリス 自分に関わることなのに結構他人事みたいに考えてて、……プレッシャーを感じてはいたけど、同時に「私にはどうでもいいやつて」思つてる自分もいたの。でも、それじゃ何も変わらないんだつて思った。恥ずかしい話だけど、私、今まで一人で何かを成し遂げた事
がなくて……これが終われば少しは自分に自信が持てるんじゃないかつて期待してるん
だけ……甘いかな？

ダイナ いや、いいんじゃないか？
アリス これまでの人生サボつてきた分、頑張らなくちゃ。
ダイナ ……そんなことないだろ？
アリス え？
ダイナ これまでの人生だつて頑張つてきたじゃないか。
アリス ……そうかな？

ダイナ そうだろ。小さいころ、見えないはずのモノを見えるって親に話したとき、病院に無理やり入れられて、でも頑張ったろ。
アリス え。
ダイナ 小学校の頃、同級生からずすと嘘つき扱いされたけど、それでも頑張ったろ。
アリス どうして……。
ダイナ 中学生の頃から親にも友達にも悩みを相談できずに、でも頑張ってきたろ。高校には親に迷惑かけられないからって一人暮らしを始めたじゃないか。バイトやって、勉強して、自炊もして、一人で大学卒業まで頑張ったろ。
アリス ……どうして知ってるの。
ダイナ あなたは今までだって十分頑張ってたよ。自分に自信を持てよ。頑張ってたよ。
アリス どこかで会ってるの。……あなたは、誰。
ダイナ ……俺は……。……悪魔だ。名前はあんたが当てる。
アリス 悪魔は何でも知っている。
ダイナ 最近はそのでもないって思うようになってたけどな。

間

アリス あなたは自分に自信を持ってるんだね。

ダイナ 壁にぶつかった事がないからな。
アリス もしぶつかったら。
ダイナ 破壊するまでだ。ボガーってな。
アリス 「強さ」を持っているのは……うやまじい。
ダイナ ……やるよ。
アリス え。
ダイナ 欲しいならやるよ。俺の「強さ」。
アリス ……どうやって。
ダイナ いや、分からないが、どうにかして。
アリス ……ありがとう。でも、私は私の強さを手に入れるから。
ダイナ ……そっか。
アリス ねえ……。私、本当に頑張ってた。
ダイナ 頑張ってた。
アリス 何か……嬉しい。
ダイナ おう。
アリス で、お願いなんだけど。
ダイナ おう。
アリス 特定の霊を降ろす方法を教えて。

ダイナ は、何言ってるんだよ。ちっきの奴らが言ってきた通り、アノタはアノタのペースでやれば…。
 アリス 私のペースは私が決める。
 ダイナ いいか。願い事は3つまで叶えられるが、三回目は魂を取られるんだぞ。このことは事実上3つまでしか願い事はできないってことだ。もつと他の人間らしい願い事にしろよ。
 アリス あなたって本当に変な悪魔よね。悪魔は魂を手に入れたらしゃないの。
 ダイナ まあ、そうなんだが。
 アリス 私はお金もいらなし、若さや美しさを欲しいと思ってるないもの。私が欲しいのは自分自身に対する自信。でも、それを直接願ったりはしたくない。
 ダイナ いや、しかし…。
 アリス 行使の決定権は人間にあるんでしょ。
 ダイナ まあ、そうなんだが。
 アリス ある意味、一番人間らしい願いだと思っけど。自分に自信さえあればお金も若さも美しさをもらない。一回目の時はさ、私、いつはいつはいだつたから、逃げる為にした願い事だったのかなって思うのね。変わりたいって言ったけど、その方法も分からないうちに、ああやって願ったのは、やっぱり逃げたつたつじやないかなって。だから2回目の願いは、もつと前回さし、自分が変わる為の願い事にしたらって思ったの。
 ダイナ しかし、一回目の願い事をしてから、まだ2日しかたつてないんだぞ。
 アリス 問題なのは回数じゃなくて、大切なのはタイム／＼だ。

ダイナ ……本気なのか。
 アリス うん。自分でちゃんと考えて、決めたよ。
 ダイナ 本当に、それがアノタの願いなんだな。
 アリス うん。
 ダイナ ……分かった。で、何を代償にするんだ。
 アリス 体の一部なら何でもいいのよね。
 ダイナ ああ。……ん。ちよつと待て。
 アリス 私ね、こっちにも親しらずがあるの。
 ダイナ ……やっぱり。
 アリス 特定の霊をおろす方法を教えてほしい。代償はこっちの親しらず。
 ダイナ ……了解した。

ダイナ、アリスに向かって手をかざす。(効果音)

アリス ……うん。噛み合わせが良くなった気がする。
 ダイナ 代償を歯医者に変わりにするなよ。
 アリス さ、といつわけで、方法を教えて。

ダイナ、アリスから少し離れて説明を始める。

ダイナ　まず、特定の霊をおろす方法を「現実見」というんだが。

アリス　うつしみ。

ダイナ　現実に見ると書いて「現実見」。これは誰でも出来るわけじゃなくて、肉体的にも精神的にも悟りに近い状態まで高められた人間しか出来ななんだが……。アンの場合、幼い頃から霊を見慣れているからな。精神的には問題ないだろう。

アリス　何か嫌な予感がするんだけど。

ダイナ　とすれば、後は体力をつけるだけだな。一つの身体に二つの魂が入っても耐えられる体力をつける必要がある。

アリス　それってまさか……。

ダイナ　筋トレだ。

アリス　筋トレ？

ダイナ　理想はシユワルツネツガーとスタローだ。

アリス　いやいやや……。

ダイナ　腕立て、腹筋、背筋、マラソン。トータル的にいこう。

アリス　えー。

ダイナ　只、筋トレやいや現実見が実現するってわけじゃない。これをやるから、これに毎日ストロクム

ス降霊の願かけをしる。

ダイナ、三つ方をアリスに渡す。

ダイナ　これが外れる頃に奴も降りてくるだろ。

アリス　時間がかかりそうね。

ダイナ　人生に近道はないってことだな。さて、筋トレのスケジュールは俺が考える。早速特訓を始めるぞ

アリス　え、今から？

ダイナ　とりあえず体をあたためる為にマラソンしてっ。10 kmな。

アリス　10 km？

ダイナ　片道な。

アリス　片道？

ダイナ　帰ってきたら腕立て、腹筋、背筋をやってもらっ。

アリス　いきなりそれはハードすぎるでしょ。

ダイナ　知らん、やれ。

アリス　だから。

ダイナ　やれ。……やれと言ったら、やれ。

アリス 分かったわよ!! 二つならだ、と、とん付き合ってもらってからね!!
ダイナ 勿論、距離と回数は徐々に増やしていくからな。行って!!

アリス、下手くはける準備。クルッと振り返り、ダイナに

アリス 鬼!!

アリス、下手くはけて行く。

ダイナ ……いや、鬼つて……。

日々が流れていくエピソード。

(ネタ)・バシ・タイン・七夕・着ぐるみ・クリスマス・筋トレ・会社側・宗教側・女王側
途中からハンプが舞台後方上部で見ている。

曲の終りと共に徐々に照明暗く。ハンプ以外は全員はける。ハンプ大きいため息。ハンプ下手を見る。
下手からアリスとダイナが入ってくる。ハンプ上手くはける。アリスとダイナ、センターへ。

アリス 随分遅くなっちゃたね。

ダイナ 動物園つてのは楽しいが、人間がたくさんして、つってついな。

アリス まあねー。

ダイナ 折角の休みなのに。あれじゃ疲れに行ってるようなもんじゃないか?。

アリス そうでもないよ?。筋トレの成果かな。

ダイナ と、いつどこにしておこう。

アリス ありがとね。付き合ってくれて。

ダイナ 別に。興味あったしな。楽しかった。

アリス 楽しかったね。

ダイナ カピバラはカワイイと思っぞ。

アリス カピ、バラ

ダイナ バラ?。カピバラ?。

アリス カピバラ。

ダイナ カピバラだろ?。

アリス カピバラ。

ダイナ カピバラか……。何故だろう。可愛さが半減した気がする。

アリス 他には?。

ダイナ 他か……。あ、レッサーパンダが可愛かった。

アリス あー、アし可愛かったよね。

ダイナ もっと良く見たかったんだがな。奥に引っ込みやがって、あのへん、女野郎。
アリス 本当に可愛いと思ってる。
ダイナ 思ってるから見たかったんだ。でも、その、何だ。楽しかった。
アリス 楽しかったね。……三つ目してるんな所、付き合ってくれるじゃない。私、いくつかお願い事聞いてもらってるんだろって感じなんだけど。
ダイナ そうか？
アリス うん。
ダイナ でも、願いつてレベルでもないからな。
アリス まあ、私的には嬉しいから、これからも三つ目してくれるとありがたいけど。ね、今度は遊園地に行かない？
ダイナ 遊園地？
アリス うん。遊園地。ダメ？
ダイナ いや、行こう。
アリス 本当に？
ダイナ ああ。
アリス 約束？
ダイナ 約束。
アリス やったね！！

125

アリス、言いながら空を見る。言葉が止まる。そんなアリスを見て、ダイナも空を見上げる。

アリス キレイだね。
ダイナ ああ。……月つて白を通り、すと蒼くなるんだな。

2人、しばらく月を見ている。

アリス ねえ。
ダイナ ん？
アリス 三つ目のお願いを聞いてもらったら、人間の魂ってどうなるの？
ダイナ 今話すような内容か？
アリス 知りたいの。教えて。
ダイナ ……魂は悪魔のモノになるんだ。そうなった人間の魂は一度と生まれ変わることは出来ない。永遠にその悪魔につきまとうことになる。
アリス 永遠に……。
ダイナ で、その魂の数が悪魔の優劣を決めるわけだ。
アリス 付きまとう魂に意識はあるのかな？

126

ダイナ さあな。俺はアノタが契約者の第一号だから、分かん。

アリス そつか……。でも、意識があるなら、いいかな。

ダイナ 何が。

アリス あなたに魂をあげても。

ダイナ バ、おま、バカ、お前、バカ、おま……。

アリス 昔、読んだ小説にさ、恋人に先立たれた彼氏さんが、幽霊になった彼女を一目見る為に一生懸命努力するお話があったのね。で、その甲斐あって彼女と再会することが出来ただけさ、その時に彼氏は彼女に一つの詩を贈ったの。

ダイナ ……どんな？

アリス 冬の月、冬の月は高い所にあります。すくなく高い所にあります。どんなにそばにしても、例え隣を歩いていたらとしても、手が届かならうくらい遠くでは君と回ります。……彼氏の見た月¹²⁷って、きつとこんな月だったんだろかね。

ダイナ 何が言ってることがわからないうたさ。これからだって、たくさん楽しんでいられるんだ。とりもえず家で飯た飯。アリス。帰るぞ。

アリス、バツとダイナを見る。

アリス 言った。

ダイナ あ？

アリス 今、アリスって言った。

ダイナ 言ってる。

アリス 言ったもん。絶対言った。

ダイナ 言ってる。

アリス ね、もう一度呼んで。

ダイナ 言ってる。

アリス 何で嘘つくの？

ダイナ 嘘じゃない。

アリス 言った。

ダイナ 言ってる。

アリス 言った。

ダイナ 言ってる。

アリス じゃあ、いい。3つ目のお願いにする。もう一度ちゃんとアリスって呼んで…

ダイナ 分かった。分かった。分かったからヤメロ。

アリス 言ったでしょ？

ダイナ お前バカだろ？

アリス もう一度、呼んでほしい。

ダイナ ……アリス。
アリス え？
ダイナ ……アリス。
アリス もう一回！！
ダイナ アリス！！
アリス ……はい。

アリス、照れ笑い。

アリス やつと名前呼んでもらえた。やっぱり、名前を呼んでもらえるって嬉しいね。

アリス、ヤリツの間、IIIかんがが外れる。IIIかんがを拾うアリス。
突然、苦しみ出す。ダイナは気付かない。

ダイナ 全く。願ひ事で悪魔をおどす人間なんて聞いたことないぞ。契約者が俺だったから良かったもの
の……。つーことで、俺に感謝して夕飯はトリアだな！！ ……アリス、どうしたアリス？

アリス、苦しい表情。ヒザをつく。うずくまる。ダイナ、慌ててアリスぐかけよる。

ダイナ アリス？ アリス！！

アリス、激しくケイロ。ダイナ、アリスの手にIIIかんががあることに気付く。

ダイナ 現実見が始まったのか？

天からの声「我はノストラダムス」(効果音)
アリスの悲鳴。そして気を失う。アリスをかかえるダイナ。

ダイナ アリス！！

下手より橙真、射鶴、乃亜が入ってくる。橙真は電話。

橙真 何？ ウィンタームーンが完成した？

上手より華恋、鈴音が入ってくる。華恋は電話。

華恋 それで、今どくにありますの。
橙真 会社？今から行っても間に合っただろかな。
華恋 分かっていますわよ。元々アタタからの情報ですもの。一口分くらいは分けて差し上げますわ。
橙真 いよいよ目的を達成できる日が来たってわけか！

橙真、華恋、電話を切る。

華恋 鈴音、準備をなさい！
橙真 射鶴！乃亜！行くぞ！
華恋 薬を手に入れるのは私達でしょ！
橙真 薬を手に入れるのは俺達だ！

橙真、射鶴、乃亜は上手ぐっし。華恋と鈴音は下手ぐっし。の対決ですれ違つ。
アリス、机へ移動、ノートに何かを書いている。曲の終わりと同時に小瓶をかかげる(ウインタームーン)。時雨が上手から入ってくる。

時雨 柚葉君から連絡を受けました！ウインタームーンが出来たというのは本当ですか！
アリス はい。ここに……。

時雨 それがウインタームーン。よく頑張りました。ご苦労様です。
アリス ありがとうございます。
時雨 開発に関するノートは？
アリス それもここにあります。
時雨 そうですか。それではノートと薬を渡して下さい。
アリス え、どうするんですか？
時雨 決まっているでしょう！専務の所に持って行って成果を報告するんです。
アリス でも検証も何もしていませんよ。それに……。
時雨 いいんです。それはうちでやりますから。
アリス 違つんです。この薬は……。
時雨 大丈夫大丈夫。全て私に任せなさい。
アリス 聞いて下さい。この薬は！
時雨 後です後、後。とりあえず、その薬とノートをください。
ダイナ おい！アリスが話してるだろ。
時雨 部外者が横から口を挟まなしてもらいたいのですね。もう薬の開発は済んだんです。ポテターガードも必要ないでしょう。
アリス 暁主任、どうしたんですか？
時雨 別にどうもしませんよ。私はとにかく社長に報告がしただけです。

アリス あ、柚葉は？
 時雨 もうすぐ来るんじゃないですか？。せ、薬とノート。
 アリス 柚葉も交じえて説明しますから。
 時雨 そうですか。では、私と一緒に柚葉君のいる所へ移動しましょう。ケータイで連絡してみます。
 アリス 暁主任、本当にどうしたんですか？
 時雨 ですから別にどうもしませんって。移動中に薬を落とす危険があります。せ、私に貸して下さい。
 私が持つて行きます。
 アリス ちゃんと説明を聞いて下さいね。
 時雨 聞きます。聞きますから。

アリス、時雨に薬を渡そうとした時、橙真・射鶴・乃亜の3人は上手から入ってきて下手(センターより)へ。華恋・鈴音は下手から入ってきて上手(センターより)へ。

橙真 ウィンタームーブが出来たんだってな！！
 華恋 さあ、その薬をよこさない！！
 ダイナ テメエらまた来たのか！！……っついでいつかちよつと待て。何故薬が完成したことを知っている？
 橙真 今までは遠慮していたが、ゴツ子にもやらなきゃならねえことがあるんだ。邪魔するっついでなら覚悟してもらっせ！！

華恋 三葉アリス！！よく考えて行動なさい！！これから先のあなたの人生は私にゆだねてこそ幸福になれるのですわよ？
 射鶴 何年も待ったんだから！！
 乃亜 ！！で他の誰かにとられるのは流石に許しがたいとです！！
 鈴音 ！！ちんくらっついで！！悪いようにはしなくても！！

5人、それぞれがジリジリとアリスに迫ってくる。

時雨 ボディーガード君、出番です。私はアリス君を守ります。何とかして下さい！！

ダイナ、アリスを一瞬見ですぐにアリスの盾になる。ダイナが前に出たのを確認して橙真組、上手へ移動。華恋組、下手へ移動。大きく二手に分かれる。

橙真 5人飛ばされちゃたまらねえからな。どうする？。一方に構っていると、もう一方がお留守になるな。
 鈴音 あちらは3人組でしてよ。最初にお相手するならあちらにならねえって？。
 乃亜 アツチはなかなか素早いですがよ。ゴツ子を構ってたら危ないと思いませんけど。

ダイナと橙真組、華恋組、ジリジリと問合しを図る。時雨、ダイナが5人に集中していることを確

認し、銃を取り出しアリスに向ける。アリス短い悲鳴。ダイナ含め、全員がアリスを見る。時雨、アリスを盾に銃を構える。

ダイナ

アリス!!

時雨

動くな!! 皆さん、そこを動かさないで下さい。

アリス

暁主任、どうして?

時雨

なに、彼らに目的があったように私にもあったらいいだけです。

射鶴、わずかに身を低くして構えようとする。時雨、射鶴に銃を向けず

時雨

動くなと言っているんです。

時雨、ダイナに銃を向けず

時雨

あなたも。時間を止めるなんてし、なちならもうし。

ダイナ

何?

時雨

しつじたらどうなりますか?

時雨、アリスの顔に銃を向ける。

時雨

少しでも変な動きをすれば撃ちます。アタタが時間を止めるのが早いか、私が引き金を引くのが早いか、勝負してみますか?

6人全員が間合いを図る。

時雨

さ、薬とノートを。

アリス、ゆっくり薬とノートを時雨に渡す。

上手より柚葉が走って入ってくる。立ち止まり、周りを見渡し、状況を判断しようとする。

アリス

柚葉!! 逃げて!!

柚葉、その場にいる。その場にいる一人一人を観察。状況判断が終わった柚葉、緊張感なく普通にニタニタと歩き、橙真・華恋・ダイナを見て、時雨の元へ。

アリス …… 柚葉？
 柚葉 同じ情報を与えても成功する人間と失敗する人間がいるのよね。まあ、大抵は失敗する人間ばかりだけど。
 時雨 彼らよりも私の「途ざが勝つた」ということです。
 柚葉 これでも少しは期待してたのよ。馬鹿なりに一生懸命働いていたしね。
 橙真 てめえ、裏切ったのか？
 柚葉 よしてよ、恥ずかしい台詞。相手を利用するなんて当たり前の世界でしょう。私は三人に情報を与えて子ヤンスを作ってもらっただけ。ま、誰が手に入れても結局私の手元にくるよりに仕向けてはあかんけど。
 華恋 何ですって、この小娘…
 柚葉 黙れ… …… まあ立場や環境を考えたも主任が手に入れるだろうと思ってましたけど。
 時雨 その期待に対するツッパヤーがありましてね。ちもつと乱暴な行動に出してしまいました。
 柚葉 いんじやないですか。大切なのは結果ですから。

時雨、柚葉に薬を渡す。ノートを渡そうとするが、

柚葉 ノートはいりません。私に必要なのはこの薬だけ。
 アリス 柚葉、これはどういことなの？

柚葉 ありがとうアリス。約束通りトーンと返してもらったわよ、恩を。
 アリス でも…でもね、柚葉、その薬は。
 柚葉 わかっている。
 アリス え？
 柚葉 薬の効果のことでしょう？
 アリス 知っているの。だって薬の効果は柚葉がノストラダムスの文献から調べたって…。
 柚葉 ゴメンね、アリス。あれは嘘。
 橙真 嘘？
 柚葉 「赦しの言葉」とか、飲めば相手に強制力を働かせることができるとか全部嘘。そんな薬があれば、あなた達が動くと思っただけ。案の定、嘘の薬を手に入れる為に何年も頑張ってくれたわね。
 華恋 なぜ？
 柚葉 ……なぜ？
 華恋 なぜ私達にそんな事をさせたのですの？
 柚葉 その悪魔を呼び出す為。
 橙真 悪魔？
 柚葉 見たくもない幽霊を見てしまう。薬は完成しない。あなた達がノートを狙いに来る。毎日こんな日が続けば精神的におかしくなっても無理はないでしょう。そして、本当に助けを求めた時、悪魔は現れる。私の計画通りよ。その悪魔は困っているあなたを見て、「特定の幽霊をおろす」

情報を与える。後は分かるでしょう。

アリス なぜ悪魔を呼び出す方法を知っているの。

ダイナ どうやらその女にも悪魔がついているらしい。人間心理を操ることができて、悪魔に詳しく、俺の性格も分かっている奴なんてアツイしかない。ハンプンヤンヤンヤンヤン！！

ハンプ、舞台後方上部に上手から入ってくる。照明切りかえ。

ハンプ だから言ったら、お前は何もわかってないってな。

ダイナ ハンプ！！これは一体どういふことだ！！

ハンプ どういふこと。俺は契約者であるその女の願いを叶えているだけだが。

ダイナ 悪魔の管理者であるアムタが今さら人間と契約してどうするんだよ！！

ハンプ まあ何だ。お前の手伝いをしてやるかと思っただ。このまま人間を戻してれば、その女の3つ目の願いはすぐだ。

ダイナ 何だと。

ハンプ これで俺も安心できることもんだ。

ダイナ ハンプ！！あれは何の薬だ！！

ハンプ 俺の契約者は人間だがな、ある意味お前以上に悪魔じみてるぞ。

ダイナ ハンプ！！

ハンプ 「人間」のことが憎らしい。

ダイナ 答える！！

ハンプ 人間を見る。それを知りたがっているのはお前だけじゃないよつだ。

橙真 それで、その薬は何の薬なんだ。ここまで利用されたんだ、せめてその位は教えてくれよ。

柚葉 生きてまま死後の世界に行ける薬。

華恋 死にたいならあなた一人で勝手に死ぬはよろしいのではなくて。

柚葉 いいえ。本当に死んでしまった者では開けることの出来ない門があるのよ。

ダイナ 門？まさかあの女？

柚葉 私は生きてまま死んでその門を開く。

射鶴 門を開いたら、どうなるの。

柚葉 その門はこの世とあの世の境目にある門。それを開けば死後の世界の霊が生まれ変わりを待つことなくこの世に返ってくるでしょうね。魂だけの幽霊は肉体を求める。霊能力を持っていない人間がある日いきなり霊にとりつかれたらどうなると思っ。

ダイナ お前！！

ハンプ 余計なことはするなよ。これはお前の為でもあるんだ。

ハンプ、剣先をダイナに回ける。

ダイ十 やめさせろ!! 大勢の人間が死ぬことになるぞ!!
橙真 人をナメるのも大概にしろ!!
時雨 動くな!!

時雨、橙真に銃を向ける。

乃亜 教祖様!!

射鶴・乃亜、橙真が前に入るのを止める。

時雨 残念ですが今のあなた達ではこの状況を打破するのは難しいでしょう。主導権を握りたければより多く情報を持つべきですね。さ、柚葉君。

橙真 お前、気は確かなのか? お前自身も死ぬんだぞ?!

時雨 それが柚葉君の望みなら。

柚葉 ……そうね。

乃亜 違っ!! そんなわけないじゃないですか!! そんなわけないでしょう!!

乃亜、時雨の方へ行くところ。橙真と射鶴が止める。

時雨 動くなと言っているんです!! ……さ、柚葉君。

時雨、柚葉に目で合図を送る。柚葉、ダッシュで上手くはける。

華恋 お待ちなさい!!

橙真 待て!!

5人、柚葉を追おうとするが時雨が立ちちはだかる。柚葉、舞台後方、へづの隣りへ。

アリス 柚葉…どうしてこんなことを?

柚葉 ……言ってもアリスには分からないよ。王。

アリス 柚葉。

柚葉 私は人間が許せない。

柚葉、薬を 一気に飲みます。ゆっくり倒れる柚葉。

アリス 柚葉!!

時雨 これで柚葉君の……私の目的は達成できました。こんなものは必要ありません。あなた達で好きなように使ってください。

時雨、ノートをセンターに放る。

鈴音 アタタ自分が何をやっているかわかっているんですか？

時雨 ええ、分かっています。

射鶴 門が開いたら大勢の人間が死ぬって!! それで平気なの？

時雨 それが彼女の望みなんです。私は彼女の望みを叶える為だったら何でもしますよ。何でもね。

橙真 ……救いの言葉はなかったのか……。

華恋 私達のしてきたことって 体なんだっただんですの。

時雨 そう悲観することはありません。本来あるべき死からはかなり早まってしまっていますが、それでも限られた時間を有効に使っていきましょう。

射鶴 そうだ!! このノートがあるんだから、今から新しい薬を作ってあの人を追いかければ!!

時雨 今から薬を作っても間に合いませんよ。その頃には彼女は間違ひなく門を開けています。

華恋 どうしてそうやって淡々としていられますの? 人類が滅亡するかもしれないことに加担しておきながら!!

時雨 ですから私はここで皆さんに殴り殺されても仕方がないと思っています。構いませんよ。!!

の銃を使っても良い。私は柚葉君の望みを叶えられて満足です。彼女が幸せになれて満足です。

乃亜 ……本当にそう思ってるんですか?

時雨 何です?

乃亜 本当にそう思ってるんですか? 聞いてるんです!!

乃亜、時雨に詰め寄る。

乃亜 どうしてわからないんですか? あんなに助けを求めていたじゃないですか!! 彼女が好きなんですよ? どうしてわからないんですか!!

時雨 彼女が言ったんです。人間を憎んでいると。

乃亜 目は見ましたか? 本心を知ろうとしましたか? 子供みたいに言葉通りに受け取って、実はあなた自身が一番苦しい所から逃げてるだけじゃないですか!! 彼女を救える自信がなかったんですよ?

時雨 事実、私は彼女を救ったじゃありませんか。

乃亜 救ってません!!

乃亜、倒れている柚葉を指差し、

乃亜 あれ見て下さい。救った結果があの姿ですか？見て下さい、あれが救われた者の姿ですか？
ちゃんと見て下さい。

時雨、なかなか動かない。悩む時雨。

乃亜 見なさい！

時雨ゆつくりと倒れている柚葉を見る。

乃亜 確かに彼女は人間を憎んでいるのかもしれませんが、でも、あなたに助けを求めてもいたんです。

時雨 ……あなたの考えが正しいと、言いきれますか？

乃亜 言いきれます。

時雨 どうして？

乃亜 私が、嘘をつくのをやめた人間だからです。

時雨 嘘をつくのをやめた？

乃亜 私には兄がいます。兄は頭がよく、気がきいて、人付き合いも上手でした。大人から見ればできすぎなくらいの子供だったと思います。私は……私は兄とは逆に何をやっても駄目で、手のかかる子供でした。私は小さい頃から兄と比べられてきたんです。「お兄さんは成績が優秀なの

に」「お兄さんはよく気がきくの」「お兄さんは明るいのに」……。毎日毎日、いつでも、どこでも比べられて育ってきました。私が小学校3年生のある日、両親が出掛けている間、私と兄の2人で留守番をしていました。私は本を読んでいたらかたんだんですけど、兄が声をかけてきたんです。「フロリス」をやるって。私は兄と遊ぶのが好きでしたから、広い台所でフロリス」をする事にしました。初めは冗談で遊んでいたんですが、兄が悪ふざけで少し、力を強く入れたんです。痛かった私は兄を突き放しました。それに怒った兄が私を強く押したんです。倒れた先は食器棚でした。ぶつかった反動で食器棚は前へ倒れ、食器は全部粉々に割れてしまいました。それから両親が帰ってきて……。しかられたのは私でした。経緯を聞くことなく、私をしかつたんです。私の体の心配よりも先に私をしかつたんです。言い訳もさせてもらえませんでした。聞くまでもないと思つたんでしょう。両親にとって兄は常に「良い子」だったから……。そして、兄は黙っていました。私をかばうことなくずっと黙っていました。出来の悪い私の言葉には信憑性がなかったんでしょうね。言い訳するに決まっている。嘘をつくに決まっている。両親の決めつけは私に一つの決心をさせました。私はこれから先、一生嘘はつかない。思つたことは全部思つたまま言おうって。それで他人と衝突しても構わない。私が絶対に嘘をつかない人間だつて思つてくれれば、私の言葉は信じてもらえるでしょう？どんな時でも……。だから分かるんです。本心を隠さずに生きてきた私だから、本心を隠している人間の言葉が分かるんです。もし私が嘘をついたら、こつ言つたらこつなつて言葉だから。

乃亜……。

乃亜 だから、こんな私を受け入れてくれた教祖様と射鶴さんは、好きです。大切です。

時雨、柚葉を見る。

時雨 彼女は、救いを求めていた。

乃亜 本心はあなたに、止めてほしかったんだと思います。

時雨 しかし、仮にそうだったとしても、もう手遅れです。彼女を止めることはできません。

鈴音 何を諦めているんですの？。このままこうしていただつて人類の滅亡を待つばかりですわ。駄目で元々、今からでも新しい薬を作つて止めに行くべきではなくて。

射鶴 そうよ、その通りよ、絶対そうするべきよ。これだけの人数がいるのよ。協力し合えば何とかなるかも。ノートには何て書いてあるの？。手分けしてやりましょつても。

アリス 待つて。

全員動き出そうとして、ピタッと止まる。ハンプ、ダイナクの剣を引く。(ちなみに、この時点ではハンプの姿はダイナ以外に見えていなら設定)

アリス 悪魔は死後の世界から来たんだよね。

ダイナ ああ。

アリス じゃあ、死後の世界へ行けない？。私を連れて。

ダイナ それは……

アリス お願ひ力を貸して。私、柚葉を止めたら……。いえ、柚葉を助けたら。

照明切り替わる。ハンプに明り。

ハンプ 待つていたぞ、その言葉を。さあ契約だ。契約をしろ。魂を差し出せと言え。

ダイナ ナメエが言つていたのはどういふことか。このためにあの女を利用したのか？。

ハンプ 言つたら。人間なんてつちが仕掛ければ簡単に呼ぶつてな。さあ、ここまでお膳立てをしてやっただんだ。ちつと終わりにしてしまえ。

ダイナ うるせえ。

照明、変わり。

アリス ねえ、お願ひ。時間がないの。力を貸して。

ハンプ どうする？。お前に願ひを断ることはできない。望みをかなえてやれ。そして魂を手に入れる。

アリス お願ひ。力を貸して。

ハンプ さあ、魂を要求しろ。

アリス　お願い！

ダイナ　……アリス、俺も大きな決断をしなければならない。一つ、答えてくれ。

アリス　何？

ダイナ　あの女はアリスにとってそんなに大事な人間か？アリスを利用してた奴だぞ？そんな人間の為にどうしてそこまで？

アリス　柚葉の為だけじゃない。これは私の為でもあるの。柚葉の事情は分からないけど、でも私もひよつとしたら柚葉みだらになってたかもしれない。こうん、事実それに近い状態だった。でもあなたにたくさん事を教えてもらって、私は変わったの。今の私が、今ここで何もしなかったらまた元の自分に戻ってしまう。私は今の自分が好き。だから。

ダイナ　だから？

アリス　力を貸して。絶対に柚葉を助けて見せる。

ハンプ　今だ！魂を要求しろ！「言え」「言った」！

ダイナ　……了解した。力を貸してやる。

アリス　ありがとう！

ハンプ　ばかな？

149

照明が変わる。

ハンプ　キサマ、自分が何をしているのかが分かっているのか？

ダイナ　悪いな。折角のお膳立てをパイにしちまつて。

ハンプ　悪魔の規律を破ることがどういつことが分かっているのかと聞いているんだ！

ダイナ　手に入れた魂に意識はあるのか？ないんだろ？たとえあったとしても魂のアリスじゃ物足りな

ハンプ　一人の人間の為に自分の存在をかける気が？

ダイナ　人間って言つなよ。彼女は、アリスだ。

ハンプ　……アリスの願いは「あの女を助ける為に力を貸してくれ」だ。助けられなければ無効なことになるわけだ。

ダイナ　俺が力を貸すんだ。助けて見せる。

ハンプ　あの女には誰がついていると悪つてる？

ダイナ　邪魔する気がよ。

ハンプ　壁つてのは、こうして現れるもんなんだよ。お前を殺しても阻止させてもらつて。百年の眠りで済むんならまだマシだ。……先に行つて待つているぞ。

150

舞台後ろ上部の明り消える。ハンプと柚葉、上手くはける。

ダイナ、アリスの近くに移動。

ダイナ　アリス、大切なことを教えておく。

アリス 大切なこと。
ダイナ 死後の世界のルールだ。死後の世界は実体がない。いわば精神の世界としてになる。そこでは思いの強い者が世界を支配する。思いの強さが力になるんだ。
アリス じゃあ。
ダイナ あの女の人間を憎む気持ちは相等らしいからな。どれだけ強い力を持っているか俺にもわからない。そこでなんだが……ア、ンタ。
時雨 え。
ダイナ 一緒に来るか。あの女を助けたらんだろ。
時雨 連れて行ってくれるんですか。
ダイナ どんなにアリスの思いが強くてもあの女に対抗できるとは思えない。いや、正直ア、ンタが一緒に

151

ダイナ、アリスの方を向いて。

ダイナ 勿論俺も手伝う。だが、あの女にも契約している悪魔がいる。俺はその手の相手をするので正しい
ばいになると思つ。
アリス その悪魔はあなたより強い。
ダイナ …最低最悪の奴を敵にまわした。

時雨 あの是非連れて行って下さり、出来る限りのことはしてみたいです。
ダイナ そうだな。イチがバチかやってみるしかないよな。…覚悟はいいか。
鈴音 待つて下さり、

鈴音、ダイナを止める。

華恋 鈴音。
鈴音 華恋お姉様、私達も行きましょう。
華恋 鈴音！
鈴音 ねえ、華恋お姉様。私達の第一歩は何ですか。女だけの国を作るのではなくて。
華恋 ええ。
鈴音 それは苦しんでいる多くの女性を救う為でしたわよね。
華恋 その通りよ。
鈴音 ……ですわよね……。でも、今、目の前に苦しんでいる女性がいますのよ。助けを求めている女性がいますの。たった一人の女性も救えず、どうして国が作れまして、どうして国を継続させることが出来まして、私達のやることとしていることは、助けを求めている女性を助けること、そして、そのような女性を今後生みださないうちにするにはならないのですの。
華恋 ……そうね。その通りですわよ。……私が今まで言ってきたことでものね。鈴音、考えが至ら

152

なかつた私を許してちょうだい。

鈴音

許すだなんてそんな。

華恋

一緒に、行ってくださいますよね？

鈴音

勿論ですわ。

華恋と鈴音、二人手を取り合う。

射鶴

あつちがあそこまで言ってるんですもの。教祖様、分かってるわよね？

乃亜

おいしいセリフは全部言われちゃいましたけど。

橙真

おまえら……。

射鶴

ただし、私達は女性限定じゃなければね。助けを求めている人なら誰でも、よ。

乃亜

じゃなきゃ宗教として嘘をついていることになりますからね。で、そうになると必然的に私まで嘘をついていることになってしまいます。それはバッキリ言って嫌です。

射鶴

これだけの人数がいれば、対抗できるでしょ？

ダイ十

多分な。

橙真

……お前ら本つ当バカだな？ 死後の世界がどんな所かも分からないんだぞ？ ましてどんな目に合うかも分からないんだぞ？！ 俺達を利用してた女の為に命をはるのか？！ お人好しにも程があるだろ？！

射・乃

教祖様！

橙真

……まあ、とはいえ、そんなお人好しは嫌いじゃないかな。

射・乃

教祖様！

橙真

それに、その、何だ。利用されっぱなしなのはイヤにちわるからな。カッ！と文句を言うてる！

乃亜

すみません、ウチの教祖、バカの上に素直じゃなくて。

ダイ十

……本当に行くんだな？

ダイ十、橙真・華恋・射鶴・乃亜・鈴音に確認。全員うなずく。

ダイ十

で、あればもう一つ注意しておくことがある。今から全員を生きたまま魂だけ死後の世界へ連れて行くが、向うの世界で死なないうようにな。

橙真

死んだらどうなるんだ？

ダイ十

死んだ瞬間魂はこの世に飛ばされて肉体に戻る。

橙真

それで？

ダイ十

魂は「死んだ」という精神的ショックを受けたまま肉体に戻るようになる。その時の精神が肉体に与える影響が予測できない。

橙真

影響……。

ダイ十 本当に心臓が止まるかもしれない。シロクで目が見えなくなったり口がきけなくなる可能性もある。

橙真 リスクはそれなりに大きいな……。と言ってやめるわけにもいかないだろう。

ダイ十 分かった。

ダイ十、ゆつくりアリスの方を向く。

アリス ……どうしたの？

ダイ十 いや、何でもない。アリス、覚悟はいいか？

アリス 大丈夫…

ダイ十 よし、行くぞ…

照明バツクライトで全員シルエット。自分が着ている側とは逆の方向へはける。(上手側にいる役者は下手へ。下手側にいる役者は上手へ。)

舞台後方上部、上手より柚葉とハツプが入ってくる。

柚葉 そう……。でも、あの人選に私を止められるかしらね。

ハツプ ……本心としてはどうなんだ？

柚葉 ……どう思う？

ハツプ、柚葉の顔を見るが、それには答えず話題を変える。

ハツプ 言っておくが、事前に話はしてあるからな。悪魔はウインターマンと同じ力を持っている。悪魔の力は使わず、計画にこだわったのはアツタだ。

柚葉 私が一つ目の願いで悪魔の力を利用していたらアリスが三つの願いをするとはなかったのよ？

ハツプ 俺の為に願わなかったわけじゃないだろ。

柚葉 ……勿論。アリスが私の復讐を果たす為に必要な人材だということだけを教えてくれただけで充分。自分で計画した通りに復讐してこそ私は満たされるのよ。

ハツプ 俺は今まで何億という人間と契約してきた。中にはアツタと同じように人間に対して憎しみを持つ奴もいた。だが、それらの誰一人として今まで実行した人間はいなかったんだが。どんな人生を送ればそこまで。

柚葉 私はこの世で、一番不幸な人間だなんて思うほど周りが見えていらいわけじゃない。世界には私より不幸な人間はたくさんいるでしょうね。その人からみたら私の身に起こったことなんてだか
がそのくらいって思うかもしれない。でも、私は許せなかった。私の人生で、私の身に起こったこと
とで、私が、許せなかった。それだけのことよ。でも、大切なのはそこ。私がどう思うかでしょ？

ハツプ 教えてくれないうか。

柚葉 え。
ハンプ アンタに何があつたのか。

柚葉、ハンプから目をそらし、うつむく。センター前方へ。前を回く。

柚葉 これでもね、それぞれ裕福な家庭に生まれたのよ。子供は私しかいなかったから両親は凄く可愛がってくれた。それを当たり前だと思つていただけ、実は幸せな日々だったんだと、失くして初めて分かつた。私が12歳の頃、父親が悪い女に騙されて借金を負つたことになって……そういうことに慣れていなかった両親は私を残して自殺したの。どうして私を連れていってくれなかつたのか分からなけれど。その後、私は親戚の家に預けられることになって、15までそこで生活したんだけど、そこでの生活も最悪だった。親戚は両親の保険金が目当てで、私が20歳になるまで預かると言つていただけ、結局は全部使い込まれちゃった。でも保険金がある間は食事が出たからマシだったけど、お金がなくなつてからは私の食事もなくなつて……。食べ物欲しくて何度も引きまわして、何度も補導されたが……。もう本当に居場所がなくて、中学卒業と同時に親戚の家を出たのよ。

アリス、ダイナ、時雨が上手から入ってくる。

アリス 家を出て行くあてはあつたんですか。

時雨 あてはなかつたそうです。ただ、居場所のなし愚かしい家から出て自由になりたかつたそうです。

アリス 1つ飯とか住む所はどうしたんですか。

時雨 ……体を売つてしたそうです。客が見つからない時は空き巣を。そういう生活を1年ほど続けていたらしいです。

アリス 1年……。

時雨 ええ。ですが、その時の彼女にとってこの幸運がおとすれます。1つ目はたまたま空き巣に入つた家に大金があり、自分の生活費には困らなくなつたこと。そして2つ目は、彼女が人を好きになることが出来たことです。

アリス その時の彼女にとって、というのは。

時雨 後々、それが最悪の巡り合わせとなるからです。

柚葉とハンプ

柚葉 大金を手にした私はまず自分の部屋を借りたの。古らアパートで狭かつたけど、初めて自分の居場所が出来たのは嬉しかった。そして、その隣に住んでくれたのが彼。

ハンプ 彼。

柚葉 本当の私を殺した張本人よ。……当時私は17で、彼は21。顔を合わせれば挨拶をするぐらいの仲だったんだけど、ある日急に告白されて、隣にいるなら一緒に住まなからって言われた。

ひづ ･･････嬉しかったのか？
柚葉 誠実そうな人だったし告白されたのだから初めてだったから、嬉しくないとはいえ嘘になるわね。何より彼は私の全てを受け入れてくれたから。こんな人もいるんだ、私を必要としてくれる人がいるんだって思ってた･･････もう一度人を信じてみようって思ったの。

ひづ 幸せな日々だったってあったんじゃないか。
柚葉 でもね、「幸せ」を知った後の「絶望」は、だからそ心にびりついで離れないのよ。トス黒い熱い塊が、常に体を焼き続けるの。復讐が終わるまで。

アリス・ダイナ 時雨

時雨 若い二人の生活はマヌコトのようでしたが、楽しい日々だったそうです。ただ、彼は一つ不思議に思っていることがありました。彼は広告代理店の営業マンでしたがまだ若く、自分の収入だけでは二人分の生活は厳しいはずなのに苦しさは感じられないのです。ある日、彼は彼女に質問してみました。「体、生活費はどこから出ているんだ」と。そして、彼女は自分が持っている大金を見せたのです。･･････彼の眼が、変わりました。

アリス どう変わったんです？

時雨 よくある話じゃないですか。働かなくなっただんですよ。彼女の大金を当てにしてね。ただ、彼女はそれを生活費に使ったつもりだったんです。遊ぶためのお金でなく。しかし、変わった彼を止める

ことは出来ません。お金を渡すのを断れば待っているのは暴力だけです。酷い時では肋骨が折れたこともあったそうです。しかし、それでも彼女は彼を信じました。

アリス 暴力まで受けているのにですか？

時雨 暴力を受ける怖さより、また人を信じられなくなる怖さの方が勝っていたのかもかもしれませんね。ただ、幸か不幸かそんな日々は長くは続きませんでした。彼がヤクザとのトラブルで殺されてしまったんです。ギャングルを連して知り合ったらしいのですが。

アリス 殺された･･････。

時雨 犯人のヤクザは今でも捕まっていないうそうです。そんな目に合つてまで信じた彼が殺され、犯人は今もどこかでウハウウと暮らしている。彼女の犯人を憎む気持ちはとんとんエスカレートし、今では人間すべてを憎むようになっただけです。

アリス そうだったんですか･･････。

柚葉とひづ。

柚葉 と、ここまでは数名になら話したとあるお話。でも、これにはあと少し続きがあるの。

ひづ ほお？

柚葉 彼がギャングルでヤクザと付き合っているのは知っていたけど、でもヤクザから見れば彼はお客。ケカして殺すのはどう考えてもおかしう思つて、警察にもこと捜査に力を入れて下さうって頼

んだけど駄目だった。何度も頼んだけど動いてくれなかった。私はどうしても彼が殺された理由が知りたくて自分で調べたの。そうしたら彼がギャンブルで借金を背負っていたことが分かって…。

ハング

柚葉

それで？
ケンカの原因は……「私の売値」だった。それが分かった時、私の中で何かが壊れた。私はまた体売って大金を作って、整形して、全く他人の戸籍を買ったの。それが、今のあなたの目の前に居る、御剣柚葉という女よ。……ね？人によっては「だがそれくらい」って言うかもしれないでしょ？私より不幸な人はたくさんいるもの。でも、私は許せない。私を連れていかなかった両親が許せない。私に食べ物を与えなかった親戚が許せない。私を買った男どもが許せない。彼を殺したヤクザが許せない。何度も頼んだのに動いてくれなかった警察が許せない。私から人の心を奪った彼が許せない。人間なんて死ねばいいんだ。全員殺してやる。殺してやる！

161

柚葉「殺してやる！」を小さい声でつつつ何度も呟く。

テニシヨ段々高く。そして最後に大きく「殺してやる！」と言う。柚葉、激しく肩で呼吸。

柚葉

つまらない話だったでしょう？

ハング

「本心としてはどうなんだ」って聞いた時、「どう思う？」って言ったな。答えるまでもない。自分の顔を鏡で見てみる。

柚葉

え？

ハング

俺には泣きそうな顔に見えるかな。

その言葉に一人を考える柚葉。

ハング

柚葉

で、どうするんだ？奴らもつすぐニク来るぞ？直接対決でもするか？

それじゃ味気ないでしょう？どんなに信頼し合っている人間でも、一つホタテをかけ違えば脆くも崩れさって罵りあうものよ。その様を見てみたくない？……そういう関門を突破してこそ私と対峙する資格があるのよ。

柚葉、一枚の紙をハングに渡す。

ハング

柚葉

これは？

アリスの物語に、不思議なメスはつきものでしょう？

ハング、上からアリスに向かって紙を落とす。

柚葉

どんな会話が聞けるか楽しみね。

162

柚葉とハンプト手く去る。
アリス、メ王紙に気付き拾う。

ダイナ 何だそれ？
アリス 何か書いてある……「ジャバウオックのお茶会と女王の裁判」
ダイナ ジャバウオックの……お茶会？

橙真・射鶴・乃亜の三人が下手から入ってくる。橙真は腰に剣を付けている。

射鶴 大変よ、「女王様から裁判の通知が届いたわ」
乃亜 それは大変ですねー。

乃亜、その場に横になって寝てしまう。

射鶴 どうするの、「ね、アナタどうするの？」死刑よ、「きつと絶対死刑」あの女王にかかればどんな聖人君子も有罪になるのよ、「どうするの？」どうするの？「どうするの……ぞ、お茶にしましょう。

乃亜、ガバツと起きて

乃亜 お茶会だー、「お茶会だー」

乃亜、言うだけ言って寝てしまう。

射鶴 といつもお茶なんてないんですけどね。アナタ、お茶持つてる？

橙真 持つてるわけないだろう。俺は今から裁判に行くんだぞ。

射鶴 そうよねー。でも、お茶のなのお茶会も羨敵よ、きつと。ホラ、アナタ主催者なんだから挨拶してちよーだい。じゃないと終わるものも終わらないわ。だって始まらないんですもの。

橙真 分かってるって。えー、それでは、挨拶の前に出席者の確認をしたらと思います。番号「

射鶴 1「

乃亜 2「

橙真 えー多数の「出席、誠にありがとうございます。それでは、お茶のなのお茶会を終わらせる為の初めの挨拶をしたらと思います。

アリス あの「

橙真 誰だ「?

乃亜 誰だ「?
!?

乃亜、セリフを言うために起きて、そしてまた寝る。

アリス ニは……ジャバウオックのお茶会ですか？

橙真 ニはそう、……かもしれない、違う、……かもしれない。俺はとにかくお茶会を開かなくては行けないらしい。

橙真、一枚の紙を取り出し、アリスに返せる。

そこには「お茶会を開け」の文字。

橙真 だが、これは俺にとって最後のお茶会になるだろう。何故なら俺の元へ一通の手紙が届いた。裁判所への出廷命令だ。

アリス それは、何に対する裁判なんですか？

橙真 それが俺にはさっぱり、つだけ確実な心当たりがあるから困っているんだ。

アリス 心当たり。

橙真 知りたいか？ 知りたいなら教えてやる。知りたくないなら教えてやる。これはある一組の男女の物語だ。この話をした後であんたに聞きたいことがある。

アリス 私に？

橙真 可能な限り答えてほしい。

アリス ……分かりました。私に答えられることなら。

橙真が語りだす。射鶴と乃亜は橙真の語りをなぞるように動く。男役は射鶴。女役は乃亜。

橙真 あるところに男と女がいた。二人は幼いころに共に両親に捨てられた過去を持ち、それぞれ不幸な出来事を経験しつつ、偶然同じ孤児院にたどりついた。收容された時期と年齢が近かったこともあって、二人はすぐに仲良くなった。お互いがお互いを支えあって生きてきた。それから数年後、二人は就職先を見つけると孤児院を出て二人暮らしを始めた。二人の関係は兄弟とも言えたし、恋人とも言えた。いや、言葉で表現できるような関係ではなかったが、互いが最高のパートナーであることに疑いはなかった。隠し事もなく、幸せな日々がこれからもずっと続くと思っていた。あの日までは……。

アリス 何があつたんですか？

橙真 ある日男の前に悪魔が現れた。一人の老婦人と対面させた。男はその老婦人に見覚えはなかったが、耳を疑う言葉を聞くことになる。老婦人はこう言った。私はあなたの母親です」と。悪魔と契約し、魂と引き換えに息子と会うことを望んだらしい。……男はどうしたと思う？

アリス え？

橙真 物心つく前から親に捨てられ、親の愛情を知らずに生きてきた男だ。²⁰ 数年たった後にいきなり母親ですと現れた女性に対して男はどうしたと思う？

アリス それは……。

橙真 正直恨んだぞ。捨てるくらいなら、なぜ生んだのかつて。呪いの言葉を何度も唱えた。そんな男が、目の前の母親を名乗る老婦人をどうしたと思う？……抱きしめたんだ。鼻水たらしてワンワン泣いて抱きしめたんだ。男よりも体の小さい老婦人に包まれながら大声をあげて泣いたんだ。それは勿論、男にとつても自分自身意外な行動だったんだらう。だが、男はその時、その瞬間、赦された、と思った。誰に？何に？分らなかったが、確実に、赦されたと思ったんだ。それからしばらくして母親は悪魔と共に消えていった。最後に「ごめんなさい」という言葉を残してな。

アリス その男の人はギリギリの所で母親の愛を感じる事ができたんですね。

橙真 だが、それが男にとつて幸福なことにはならなかった。何故なら、その出来事こそが、男が女のそばを離れる原因となったからだ。

アリス どうしてですか？

橙真 男と女の間にある根本的な共通認識。それは親の愛情を知らないってことだ。お互いにその最低ラインがあるからどんな時でも協力し合えたり、助け合つてくれた。大げさな表現ではなく、男と女は二人で一人だったんだ。だが男は親の愛情を知ってしまった。はたして女が親に対する恨みの言葉を発したとき、今までと同じように頷けるだろうか？一緒に

恨めるだろうか？それは決して男と女の間ではあつてはならない溝だった。だから男は女のそばを離れた。

橙真の語りにシンクロしていた射鶴と乃亜、後ろへ下がる。

アリス その男の人は、離れてどうするつもりなんですか？

橙真 男は女にも赦されてほしいと思った。自分が赦されたように彼女にも。だが、女の両親がどこにいるかは分らない。そして娘に対する愛情の大きさも分らない。何より、目の前に現れたとして女自身が赦されたと感じるか分らない。だから男は赦しの言葉を探すことにした。聞く者全ての人間が赦される言葉を探すことにしたんだ。

アリス 彼女のために。

橙真 ……そつだ。

アリス でも彼女は……。

橙真 恨んでるかもな。

アリス 何も言わずに出て行つたんですか？

橙真 ああ。

アリス どうして？

橙真 言えるわけないだらう。さて、俺の話はこれでお終いだ。そこでアンタに聞きたい。……

赦しの言葉ってあると思うか？。すべての人間なんて言わない。たった一人。たった一人だけいいんだ。その人を救える赦しの言葉って、あると思うか？。

アリス ……それは……。

下手袖から華恋の声。死刑にしますわよう！。華恋と鈴音が入ってくる。

鈴音 さあ、裁判を始めますことよ！。皆様、指定の位置へ着いてください。被告はこちらへ。原告はこちらへ。傍聴人は奥に 1 列に並んでください。

華恋、机・椅子の所へ。上手に橙真。下手に鈴音。
その他のメンバーは橙真の後ろ、さらに上手寄りに 1 列に並ぶ。

アリス あー、あなたが裁判長なんですか？。

鈴音 いいえ。私は司会進行です。

アリス 司会？。

鈴音 裁判長は勿論、こちらです。

華恋 死刑！。

鈴音、華恋に手のひらを向ける。

アリス 原告が裁判長を兼ねるんですか？。

鈴音 何か問題でもございまして？。

アリス だって訴えた人が判決を下す裁判なんて聞いたことないです。

鈴音 それはあなたの常識。ここにはここだけの常識があるんです。……それでは訴状を読み上げます。原告、楠華恋と、被告、菅雉橙真は長年にわたり苦楽を共にし、生活を送っていたにも関わらず、ある日急にその姿を消し、原告を絶望に追い込んだ。よって死刑を求刑する。

華恋 うむ、死刑！。

鈴音 だ、そうですが、何か言い残すことはありませんか？。

橙真 急に姿を消したのは事実だからな。その罪が死刑というなら仕方ないだろう。

射鶴 教祖様！？

橙真 だが、折角の機会だ。話はさせてもらおう。

鈴音 先ほどのお話でしたら向こうで聞いていただけ。

華恋 よって死刑！。

鈴音 しかし、被告が話をしていたのは姿を消すことになった経緯ですよね？。

華恋 いいから死刑！。

鈴音 原告が知りたがっているのは理由です。

華恋 とにかく死刑！
鈴音 なぜ何も言わずに去ったのか、その理由です。
華恋 死刑ですわよ！絶対死刑！何が何でも死刑！
鈴音 華恋お嬢様！
華恋 だってそうでしょ？今さら何を言われても何も変わらないじゃない！私があの時どんなに苦しんだかわかる？去った理由がわからなくちゃ後悔することすら出来ないのよ？
橙真 じゃあ、俺の話をちゃんと聞けたか？親の愛情を知らずに育ってきた俺たちだから共感し合えたんだ！支えあえてこれなんだ！急に俺が親の愛情云々言い出して、聞く耳持ったか？意見が合わなければ喧嘩も増える。そうならば待っているのは決定的な別れだけだ。仲が良かった分、俺たちは互いを恨み始める。
華恋 決定的な別れ？今の私たちはそうじゃないとでも言うの？
橙真 俺は華恋を助けたいと思っっている！今も昔もずっとそう思っっている！だから俺は赦しの言葉を手に入れようと思っった！華恋が縛られているトラウマから解放する為に。
華恋 噂で宗教を始めたと聞いた時は耳を疑っただわ。なぜ、何のためにつて。でもどんな目的であろうと私がそれを奪ってやろうと思っった。橙真の手に入れようとしているものは全部奪ってやろうつて。
橙真 赦しの言葉は本人が手に入れても多分意味はない。それは人から与えられて初めて意味のある言葉になるんだ。俺は何年かかっても必ず華恋のために手に入れると誓っった。

171

華恋 それをどう信じろつて言うのよ！
橙真 しかし本当のことだ！
華恋 ……本当のこと？……本当に本当のこと？それが私の元から何も言わずに去った理由？もうこれが最後。よく考えて答えて。橙真は私の前から姿を消した。私に絶望を与えて。でもそれは赦しの言葉を手に入れるためだという。……それは、本当の理由？

シーンとした間

橙真 ……俺は自分が好きだった。コンプレックスはたくさんあったが、それを含めて自分が好きだった。大抵のことは一人でやれたし、周りからも認めてもらえた。特に華恋と出会えてからは自分に自信が持てるようになった。華恋に頼られるのが俺の誇りでもあった。…
…母親と会った後もしばらくは華恋と一緒に過ごっしたが、俺は少しずつ自分が変わっっていくことに気付いた。前と同じように親を否定することが出来なくなっっていたし、何より…
…
華恋 ……何より？……何より？
橙真 ……華恋を「可哀想」だと思っようになっただんだ。しだいに俺の知らない自分になっっていく感覚があつて怖かつた。このまま華恋と一緒にいれば俺は俺じゃなくなる。醜く、汚い自分になっってしまう。俺が俺であることは俺の誇りなのに！だから！

172

華恋

……逃げた。

橙真

恐かったんだ。

華恋

その恐さを隠すために「赦しの言葉」を私の為になんて理由を後付けしたわけでしょう？

橙真

違う！それは違う！それはもう一つの俺の本心だ！

華恋

違わないわよ！今自分で認めたいやない！逃げたんでしょ？！逃げたのよ！残される私の気持ちも考えずに逃げたのよ！

華恋、橙真に近付き、射鶴と乃亜に。

華恋

これがあなた達の教祖様の正体よ！全部自分の為。他人のことなんて考えない最低な人間
教祖の器じゃないのよ！きつと教祖をやっているのも自分の為。あなた達の為じゃないか
ら！サツサと見切りつけた方がいいんじゃない？！

乃亜

……知ってましたよ。

華恋

え？

乃亜

教祖様が自身の抱える何らかの為に教祖やってるんだってことは知ってました。

射鶴

それがアンの為だってことまではわからなかったけど。

橙真

お前ら……。

乃亜

それに私たち、教祖様に助けてもらおうなんて思ってませんから。

射鶴

教祖様と一緒に、私たちが助かるのよ。誰かが助けてくれるのを待つなんて軟弱宗教と一緒
にしなさいわね。

華恋

何を言ってるの？この人はあなた達を騙してたのよ？

乃亜

教祖様は騙してませんよ。私たちの為なんて言葉、一度も言ったことがありませんから。
……それより、騙していたのは、あなたなんじゃないですか？……裁かれるべきは、あなた
ですよ。

鈴音、机の席へ移動。

華恋

私が裁かれる？

乃亜

わかりませんか？あなたが今立っているのは被告の席です。

華恋

誰が私を裁くっていうの？

華恋、振り返ると、原告の席に鈴音が立っている。

華恋

……鈴音？

鈴音

華恋お姉様。……華恋さん。やつと本当のことを言ってみましたね。私が聞きたい
のは一つだけ。橙真さんが手に入れようとしているものを奪う為、私を利用したのです

か？

華恋 それは……。

鈴音 華恋さんが同性愛のフリをしているってことは前から分かっていました。男性の恋人がいたんじゃないかとも思っていました。でも、私は華恋さんを信じました。教えてください。私を、利用したのですか？

華恋 ……鈴音。

鈴音 いつも私の為だと言ってくれました。私の為に女だけの国を作ると。でも私の為なら何故多くの女性が存在する国を作ろうとしたんですか。私ひとりが側にいればいいんじゃないのですか？私の為と言いながら、私一人では駄目なんですか？

華恋 違うの、鈴音。

鈴音 私をその気にさせれば私の家の財産を自由にできると思いましたか？そうすれば橙真さんの邪魔ができると思いましたが？

華恋 よく考えて鈴音、人間二人で幸せになることは出来ないでしょ？キチンとした居場所を作らなくては。だからこそその国なの。

鈴音 ……華恋さん。質問の答えになっていませんよ。私を、利用したのですか？

華恋 最初は確かにそう。利用しようと思った。でも鈴音の純粋に私を思ってくれる気持が嬉しくて、そんなこと出来なかった。そつきの裁判は自分自身へのケジメの為。最後まで思いつきりわがまま言っただけ。橙真の答えがどんなものであろうと、

私の帰る場所は鈴音の所しかない。

鈴音 さつき華恋さんが言ったことを私も言いたいですか。その言葉をどう信じるって言うんです？

華恋 私のワガママに付き合わせて鈴音を傷付けたことは謝る。でもこれだけは信じてほしい。

鈴音 自分は他人の言葉を信じないのに、私だけ信じるって？私の為と言いながら、過去を引きずっていたクセに、それでも信じるっておつやるんですか？

華恋 でもそれが本心だから！

鈴音 本心なのは橙真さんも一緒かもしれませんよ？

華恋 それは……。

射鶴 いい加減にしなさいよね！あんた達！馬鹿じゃないの！

鈴音 馬鹿？

射鶴 だってそうでしょ？欲しかった言葉なんじゃないの？本心が知りたくて知りたくて、聞きたくて聞きたくて、やっと聞けた言葉なんでしょ？お前のことが嫌いになったから離れたって言えば納得するわけ。利用してたって答えれば満足なわけ。違っただけでしょ？欲しかった言葉なんでしょ？どうして素直に受け止められないのよ！本心だつて言ってるじゃない！こんな時にまで嘘をつく相手じゃないってことは自分が一番よく分かっているでしょ！欲しかった言葉をもらえたのに信じられないなんて寂しいこと言わないでよ！寂しいじゃない！寂しいわよ！

射鶴、泣き崩れる。乃亜、射鶴の頭を優しく撫でてやる。橙真、華恋に近付き。

橙真 俺がさっき言ったことはすべて本心だが……それでも信じられなければ、結果で示すしかないんだろうな。俺はいつか必ず「赦しの言葉」を持って華恋に会いに行く。

華恋 結果で示すしかない、か。そうね。それは私も同じ。でも、例え橙真が「赦しの言葉」を持ってきてくれて、私が救われたとしても……。

橙真 そうだな。元に戻ることはない。俺たちは別々の道を歩きすぎた。だが、決定的な別れじゃない。

華恋 永遠の友達以上恋人未満？

橙真 「永遠」なら、それもいいかもな。

鈴音 私は……。

華恋 今はまだ何も言わないで。現世に戻ったらお話をさせて。でも今はやるべきことがあるから……お姉様って呼んでほしい。

鈴音 華恋お姉様、と？

華恋 それが私に力を与えてくれますのよ？

舞台後方上部に柚葉とハング

ハング 罵り合いにはならなかったな。

柚葉 全く、期待はずれもいいとこね。

時雨 柚葉君！

アリス 柚葉！

柚葉 お手軽な愛情ね。安売り、押し売り、どちらにせよぐとが出るわ。気持ち悪い。

射鶴 何言ってるのよ。アンタにだつて欲しい言葉の一つや二つあるでしょ？

柚葉 私が、何だつて？

射鶴 待ってるんですよ？、ずつと、ずつと前から待ってるけどもらえないんですよ？、欲しい言葉ってね、ちゃんと声に出して言わないともらえないんだから。子供みたいに捻くれちゃつてさ、気持ち悪いのはどっちだつての。

柚葉 ……お前、うるさいよ。

柚葉、左の掌を射鶴に向ける。手を閉じる。心臓を握りつぶすイメージ

射鶴、苦しそうに大声をあげてしゃがみ込む。乃亜、射鶴の肩に手をかける。

「カ」の効果音

橙真 射鶴！？

時雨 柚葉君、君がやっているのか、やめろ、やめなさい、
アリス 柚葉、やめて、

時雨、アリス、ダイナ、柚葉を止めようと近づく。

柚葉 邪魔をするな、

柚葉、右手を大きく払う。
ダイナ以外、全員払った方向へ飛ばされる。

柚葉 ……誰が一番最初に潰れるかしらね。

柚葉、右手のひらを前へ向け、拳を握る。「カ」の効果音。
苦しみ大→射鶴・乃亜・鈴音→しやがみ込む。
苦しみ小→アリス・時雨・橙真・華恋→胸を押さえる

ダイナ アリス、

ダイナ、アリスをかばいアリスの前へ出る。ダイナ右手を柚葉に向ける。
それを見て、橙真・華恋、同じ動きをとる。

橙真 射鶴、乃亜、

橙真、射鶴と乃亜の前へ来て二人をかばう。

華恋 鈴音、

華恋、鈴音の前へ来て鈴音をかばう。
柚葉 & ハンプ VS ダイナ、橙真・華恋の念の送り合い。
柚葉、ふと右手を降ろす。ひとまつく橙真・華恋・ダイナ・アリス・時雨。

柚葉 このまま潰してもいいけど、私はあなた達が本性丸出しにして傷付け合う様が見たいの。
もう一つ閻門を用意しておくから。覚悟があるなら追ってきなさい。私はその先にいる。

柚葉・ハンプ下手に去るうとする。

ダイヤ　　いづ、
いづ　　……分かっている。待っているぞ。

いづ、優しい目をダイヤに向けて、去っていく。柵も去る。
全員、ゆつくり立ち上がる。

射鶴　　あの女、化け物ね。

鈴音　　あんな人どうやって説得するんですの？

乃亜　　話をする前に全員やられちゃいますよ。

ダイヤ　　いや、次の時には隣にいた悪魔がいない。お前達だけでも何とかなるだろ。

橙真　　ア、タにあの悪魔が止められるのか？

ダイヤ　　……　　ああ。

時雨　　柵葉君の目的は我々の気持ちをもぐもぐにするってなんですか？お茶会や裁判をやらせたのは閨門のついでか？

華恋　　次はどんなイヤらしい罠が張ってあるのやら、ですね。

その瞬間、上手・下手にSSが付く。

乃亜　　道が二つに分かれましたよ。

橙真　　怪しいオイがづづいするな。

アリス　　二手に別れることか？

華恋　　つづく良い性格してますよね。…当然、鈴音は私に付いていらっや。

鈴音　　はい、華恋お姉様。

橙真　　じゃあ、射鶴と乃亜はこっちだな。

射・乃　　はい。

時雨　　では、私はバランスを取ってこちらに。

時雨、華恋の方へ移動

華恋　　事情が事情ですからね。仕方ありません。男でもよろしくても。

橙真　　ア、タ達はいつする？

ダイヤ　　……　　緒に行くか？

アリス　　…うん。私はこっちに行く。

アリス、華恋の方に寄る

ダイナ ……そつか。
アリス 死後の世界や死者に慣れてるの私とあなたくらいだから。私達は別々にしないよ。
ダイナ ……そつだな。
アリス この世界は思いが強ければ強い程力になるんだよね。
ダイナ ああ。
アリス 大丈夫。頑張る。
橙真 よし、じゃあ行くか。

二手に分かれる。橙真チーム下手く。華恋チーム上手く。アリスとダイナは最後。

ダイナ アリス！
アリス ……はい。
ダイナ ……何でもない。呼んだだけだ。…気を付けてな。
アリス うん。あなたも。

2人、上手・下手にそれぞれはける。

舞台後方上部に柚葉とハンプ。下手から入ってくる。ハンプは少し笑っている。その顔を見る柚葉。

柚葉 何がおかしいの？
ハンプ いや、あなたほど欲のない人間もめずらしいと思っただけ。本当に人間に復讐できればそれで満足なんだな。
柚葉 ……その通りだけど。何故？
ハンプ アリス側についてる悪魔が俺の名前を呼んだら、てことはあなたはアリスまで二つの願いを叶えられることになる。でもあなたは何も言っていない。
柚葉 さっき力を貸してもらったけど？
ハンプ あれは俺が勝手にやったことだ。力の差を見せつけば他の人間が諦めるかと思っただけ。
柚葉 ……変わった悪魔ね。
ハンプ 俺が変わってるならあなたも変わってることになる。俺達は似た者同士だ。
柚葉 どいがよ。
ハンプ 孤独を知っている、という点で。まあ、もともと俺はアイツのおかげでまともになれたけどな。
柚葉 アイツって…。
ハンプ あの出来の悪い悪魔さ。³⁰億年存在してきて初めてだ、あんな面白い奴。全てのモノを手に入れている俺より、何も持っていないアイツの方が満ち足りた顔してるんだよ。ただ…。
柚葉 ただ？
ハンプ 満ち足りた顔してる分、自分の存在に執着がなっていないか。どこが儂げでな。放っておいたら消えちまうんじゃないかって…。アイツにはそついう所があるんだよ。考え方が悪魔らしくないと

いつか。だからこそ面白くて、だからこそ恐かった。
柚葉 もう孤独は嫌なこと？
ハンプ 出来れば一度と味わいたくないと思ってる。
柚葉 例え本人を殺してでも。
ハンプ 百年待つのは長じかな。
柚葉 私には理解できなけれど、少なくとも人間は強くなければ生きていけない。大切な人なんか出来ると弱くなってしまうんじゃない？
ハンプ その考え方がアンの柱か。
柚葉 最終的には皆自分が大切なのに決まってる。極限状態であれば人間の本性が見れるわよ。…次の関門も力を貸してもらえる？
ハンプ ああ。

185

ハンプ、舞台に下りる。下手に一枚のメモ。上手に小箱を置く。
ハンプ準備が終わったら柚葉を見る。
柚葉 さ、行きましょつ。

柚葉上手へ去っていく。ハンプはセンターから上手に去る。

下手より橙真・射鶴・乃亜ダイナが入ってくる。4人は周りを警戒しながら進む。
橙真 なあ。
ダイナ ん？
橙真 ちょっと気になってることがあるんだが、いいか？
ダイナ ああ。
橙真 俺は以前会った悪魔から、悪魔の規律^{レギュレーション}について聞いたことがある。人間の願いを叶える時には必ず代償をもらう必要があるんだろ？
ダイナ ……そつだな。
橙真 さつき三葉アリスの願いを叶える時に、何か代償もらったか？
ダイナ ……お前が気にすることじゃないだろう？
橙真 何で悪魔のアンタがそこまで一人の人間に肩入れするのかと思ってるな。
ダイナ お前が俺の立場だったらどうしていた？
橙真 そりゃあ……まあ……なあ。
ダイナ 逆に聞きたいんだが…お前にとっての一番はどっちなんだ？
橙真 どっちって？
ダイナ 華恋って女なのか、そちの2人なのか。
橙真 2人だ。

186

ダイナ 即答だな。
橙真 当たり前だろ。
ダイナ 一番が変わるなんて俺には理解できない。
橙真 人間てのはな、立場や環境で変わっていくもなんだよ。限られた短い人生だからな。
ダイナ あの二人の為に命を張れるか？
橙真 当たり前だろ。自分の存在をかけたって良い。・・・ア、タと同じように。

橙真 ダイナ少し離れる。

乃亜 しつかし、教祖様、よく平気で悪魔としゃべれますよね。
射鶴 それが語ってやっじゃない？
乃亜 今までは普通に話せてましたけど、悪魔って知っちゃってやっぱり距離おしちやりますよ。
射鶴 無理に話すこともないでしょ。目的は一緒なんだから、しつこいつ時に協力し合えばいいんじゃない？
乃亜 でも、射鶴さん、私達・・・
射鶴 ……そうね・・・その時はお互い、覚悟を決めましょつ。
乃亜 はい。でも、この洞窟、どこまで続くんですかね？
射鶴 結構歩いたと思っけど。

乃亜 ん？

乃亜、一枚のメモに気付く。手にする乃亜。

乃亜 教祖様。メモが置いてありました。
橙真 メモ、読んでくれ。
乃亜 「必要な柱は2人。」
橙真 ……それだけが？
乃亜 それだけです。
橙真 必要な柱は2人……。

効果音、石が動く音。洞窟の天井が降りてくる。

射鶴 教祖様 !! 上 !!

全員、上を見上げてストップモーシヨッ。

上手よりアリス・時雨・華恋・鈴音が入ってくる。アリスと時雨が会話している。

時雨 アリス君、あなたには何と言ってお詫ひすればいいの…。
アリス ショックじゃないって言ったら嘘になりますけど、でも、暁主任にも、いろいろおつたんですよ。
時雨 こんなことにも巻き込んでしまいましたし。
アリス 柚葉の気持ちに気付かなかつた私にも責任がありますから。柚葉の本心がどうであれ、私自身が助けられたことは確かですし。
時雨 ……変わりましたね。
アリス え？
時雨 強くなりましたね。
アリス そうありたいと願ひ続けましたから。だから、柚葉も願えば、きっと変われます。
時雨 精一杯の気持ちを伝えるつもりです。

華恋と鈴音は少しゆつくり歩いている。華恋が前を歩く。

華恋 汚い洞窟ですわね。鈴音、頭に気を付けるのよ。

鈴音、何か考え事をしてる。

華恋 鈴音？……鈴音。

鈴音 あ、何？華恋お姉様。

華恋 頭に気を付けるのですわよ。あと、足元も。

鈴音 はい。

華恋 何を考えてらしたの？

鈴音 え、別に…。

華恋 先程のことかしら？

鈴音 いいえ、華恋お姉様。それは元の世界に戻ってからのお話。私が考えてしたのは……あら、何かしら？

鈴音、小箱に気付く。全員が近付く。時雨、小箱を開けようとするが、

鈴音 待つて下さい！！私が開けます。

華恋 駄目！！何が入ってるか分からなくても！！

鈴音 いいの。私が開けます。

鈴音、躊躇なく小箱を開ける。その瞬間前方に壁が降りてくる。それを見た鈴音、時雨を突き飛ばし壁の向こう側(先) (せうたー)へやる。

効果音「壁が勢よく降りてくる音」

時雨 アリス君!! アリス君!! 他のお二人は無事ですか?
 アリス こちらは大丈夫です。咲主任は?
 時雨 私も大丈夫です。この壁は一体...。
 鈴音 あなたは先へ行ってください。私達もすぐ行きますから。
 時雨 しかし!!
 鈴音 行ってください!! 少しでも多く語りかけることが大切なんです!! 待っているのは、もちろんあなたの言葉のはずです!!
 アリス 咲主任、行ってください。
 時雨 アリス君!!
 アリス 時間を無駄にするわけにはいきません。前へ進めるなら先に行くべきです。
 時雨 この壁をどける方法がこちら側にあるとすれば...。
 鈴音 いえ、その心配はありません。壁をどける方法は小箱にありましたから。
 時雨 じゃあ早くその方法を!!
 鈴音 はいですから先に行ってください!! 心配しなくてはいけなのは私たちではなくて彼女なのではなくて...?
 時雨分かりました。先に行って彼女を説得してみます。

時雨、センターへ走り去る。

華恋 鈴音、一体どうなされたの?
 アリス 中に何が入ってるんですか?

鈴音、小箱の中から一枚のメモを取り出しアリスに渡す。

アリス 「犠牲は一人」。...犠牲つて...。

鈴音、無言で小箱から銃を取り出し床に置く。
 場面は橙真子チーム。各々が重さに悲鳴をあげている。

橙真 どうすりゃいいんだよ!! これじゃ閉門じゃなくて処刑場じゃねえか!!
 射鶴 うちの道はバグじでただごとだよ!!
 乃亜 遵いますよ、きつと!! ちのきのメモ、あれ、そのままの意味だと思ひます!!
 橙真 そのままの意味!! どうゆつことだよ!!
 乃亜 はいんです。教祖様は頑張つて支えてってください。
 射鶴 ねえ!! この世界では強く思えばそれが実現するんじゃないか!!

ダイナ
橙真 ああ!!
そうか!! この天井を綿か何かだと考えればいいんだな?
乃亜 いや、さすがにそれは無理かと...
橙真 じゃあどうするんだ!!
射鶴 柱よ柱!!
橙真 柱?
乃亜 自分自身をイメージするくらいは出来ますから!!
射鶴 乃亜!! 覚悟はいいわね?
乃亜 射鶴さんと一緒にるのが正直気持ち悪いですけど。
射鶴 あんたって今はこんな時まで!!
橙真 射鶴!! 乃亜!!

場面は華恋子一ム

アリス これは...この銃で誰か一人犠牲になれば壁がなくなるってこと?
華恋 悪趣味な閉門ですこと。
鈴音 ...どうなせします?
華恋 どうもこれも、こんなことに付き合う必要はなくても。戻って橙真達の道を進みましょう。

アリス そうですね。
鈴音 でも。

華恋・アリス戻りかけて止まる。

鈴音 向うとも同じようなことになってるんじゃないかしら。それに...戻っている時間はなくても。
華恋 だからと言ってここで犠牲者を出すわけにはいかならぬでしょう。戻った世界で何を失うか分らないって、あの悪魔もおっしゃってないやない。
アリス 走れば間に合つかも知れません。
鈴音 いいえ、「かも」や駄目なんです。彼女を止めることができなかったら人類が減ってしまうんですよ? 私達はこの道を進むしかないんです!!
華恋 ...この壁は壊れないんですの?!

華恋、壁をたたく。何度もたたく。アリス、急いで華恋を止める。華恋跪く。呼吸を整え、立ち上がる。

華恋 もういいですわ!! 私か!!
鈴音 華恋お姉様!!

華恋、ビクッとして立ち止まる。

鈴音 先程は私をかばって助けてくださりましてありがとうございました。私、あんな時なのに嬉しかったですわ。

華恋 鈴音。

鈴音 でも、私ではこの先足手まといになるだけ。もしかしたら肝心な所で逆に華恋お姉様を危険な目に合わせてしまうかもしれない。ずっと考えてましたの。

華恋 大丈夫よ鈴音。言っただけでしょう。あなたは私が守る。

鈴音 ありがとうございます、お姉様。でも、私にも女としての意地がありましてよ。

鈴音、目の前の銃を手に取り前へ。

華恋 鈴音！！

華恋・アリス、鈴音の後方へ回り込む。

鈴音 折角ここまで来たんですもの。私も少しは役に立ちたいですわ。

華恋 鈴音！！ やめなさい！！ あなたのよろこんでいることは間違ってる！！ 誰かを助ける為に誰かが犠牲になるんじゃないや意味ないじゃない！！

同時進行で橙真子ーム

乃亜 じゃあ、教祖様、あとは頼みましたよ！！

射鶴 絶対助けてあげてね。教祖様なら出来るわ。

橙真 やめろ！！ 俺だ！！ 俺が柱になる！！ クソ悪魔！！ どうすりゃいいんだ！！ 教える！！ 教える！！

乃亜 すいません、教祖様。柱になる方法、そのきのメモに書いてあったんですけど、私と射鶴さんしか見てないんで。

橙真 教える！！ 乃亜！！ 乃亜！！

射鶴 馬鹿ね。教祖様は先に行かなきゃ。私達じゃこの先行っても力になれないもの。

橙真 射鶴！！ 乃亜！！

鈴音 元の世界で華恋お姉様の戻りを待っていますわ。

華恋 鈴音！！

射・乃 人柱は私よ！！

効果音「力が集中する音」。射鶴と乃亜、石になる。

シーンとした瞬間「ハッ!!」という銃声。開ける銃音。

橙真
ダイ十
橙真
ダイ十

射鶴!! 乃亜!!
行くぞ!! 長くもたないかもしれない!!
うるせえ!!
お前まで!! 死ぬ気が?

射鶴と乃亜に近付こうとしていた橙真、止まる。ダイ十、橙真に近付き手をかけようとしながら

ダイ十
橙真

さ、行くぞ。
触るな!! ……触らななしてくれ。何するかわからぬぞ。

橙真、センターくはける。ダイ十もセンターく。橙真チームの明かり消える。
射鶴と乃亜、下手くはける。
効果音「壁が上がる音」

華恋

……銃音。

華恋、ゆつくり銃音に近付く。

華恋

あなたが何を失つていようと、私はあなたのそばにいるから。

アリス、一スに近付く。

華恋
アリス
華恋
アリス

ごめんなさい。
え?
本当に死んだんじゃないってことは分かっている。時間がなつていとも分かっている。でも、もう少しだけこのままでいさせて。
はい。

華恋チームの明かり消える。アリス・華恋・銃音、上手くはける。
柚葉、ハンプ、上手より舞台後方上部に。

柚葉
ハンプ
柚葉

どうして押し付け合わないうの!! どうして諦めないうの!! どうして自分を犠牲にできるの!!
あれが人間の本来の関係だからじゃないか?
悪魔に何が分かるわけ?

- ひづ 　　あなたは極限状態になれば人間の本性が出ると言った。それがこの結果ならこれが人間の本性なんだろ？
- 柚葉 　　冗談じゃないわ!! 誰だって自分が一番大切なんだから!! 他人に構ってる暇なんかない。自分、自分、自分!! 全部自分の為!! 弱みは見せられない!! 強くなければ生き残れない!! 人間は汚くて醜くて、ずるくて!!
- ひづ 　　臆病で、素直じゃないか？
- 柚葉 　　うるさい!!
- 柚葉、右手を払う。ひづ、それをよける。
- ひづ 　　揺らしてきたんじゃないのか？ 考えが。
- 柚葉 　　うるさい。
- 柚葉、上手にはける。
- ひづ 　　一人だけいらした奴がいる。まずは・・・あの男が。
- 時雨、センターより走って入ってくる。舞台前へ。(若干上手寄り)
- 時雨 　　柚葉君!!
- 時雨の呼びかけに柚葉センターより現れる。ひづと上下にいる位置。
- 時雨 　　もうやめてください。関係のない人間まで巻き込むのは間違ってます!!
- 柚葉 　　関係ない？ 私には人間というだけで憎むべき敵なの。人間というだけで赦せないので!!
- 時雨 　　それが本心ですか？ 本当にそう思ってるんですか？ 教えてください。私はもう逃げたりしません。もう一度チャンスをください!!
- 柚葉 　　そうですよね。あなたは逃げたんです。私の過去を受け入れられなかったから逃げたんです。違
- いますか？
- 時雨 　　それは・・・
- 柚葉 　　後悔してますか？ 悪いと思ってますか？ なら、私に協力してください。もう後戻りはできませんから。
- 時雨 　　そんなことはありません!!
- 柚葉 　　私の望みは人類を絶滅させること。それを知って協力してくれましたよね？ あと少しで私は報われようとしているんですよ？
- 時雨 　　……どうして。

柚葉 え。
時雨 どうしてそつやつて私を試すんですか？

時雨、ゆつくり柚葉に近付く。

柚葉 来るな…。
時雨 私が知りたしのは柚葉君の本心です。

柚葉 来るな。
時雨 いえ、本心じゃなくても構いません。ただ、一言、言つてほしうんです。言つて言つてもらえれば私も覚悟を決めます。

柚葉 来るな…
時雨 言つてくださう… 私があなたの傍にいられる、一言を言つてくださう…

柚葉 来るな…
時雨 言つてくださう…

柚葉 来るな…

柚葉、右手を時雨に向ける。効果音「カ」。時雨、上手くはしめ飛ばされる。

ハコ そろそろあいつが来る頃だ。俺は他の場所で待つことしよう。

柚葉 そう…。

ハコ 心配するな。あいつを殺したら戻つてきてやる。一番厄介な奴がいなくなれば、あなたは目的を達成できる。

柚葉 ……ええ。

ハコ、上手に去りかけて

ハコ 記憶や感情なんてあつても辛うだけだな。そんなものなければもつと楽に生きられるのじつ思つ。
だが記憶や感情があるから、俺達は生きてしけるんじやないのか？

柚葉 それは私に対する皮肉？

ハコ どう受け取るかは、ア、タ次第だ。

ハコ、上手くはける。柚葉、時雨を見てセ、ンターから下手くはける。時雨、ゆつくり立ち上がる。

時雨 柚葉君…。

身体を引きずりながらセ、ンターより下手く柚葉を追つ。

橙真 殺してやる!! 出てこ!! 出てこ!!
 ダイト 落ち着け!! お前が感情的になれば向こうの思いつキなんだぞ!!
 橙真 うるせえ!! 邪魔するならクマエから殺すぞ!!
 ダイト 気持ち分かるが。
 橙真 気持ちは分かる? …分かるだと? ふざけたこと言ってるんじゃないやねえ。あんたにや分かんねえよ。分かるわけねえだろ!! 守るつもりだったんだ。俺があいつらを守るつもりだったんだ!!
 ダイト だからそ落ち着け!! お前にはお前のすぐきことがあるだろ。
 橙真 俺のすぐきことはあいつらに、射鶴と乃亜と同じ目に合わせとやることだ。
 ダイト それこそふざけたことを言つな!! お前、あいつらの言葉聞いてなかったのか? 後を頼みますって 203
 助けてあげてくれて、聞いてなかったのか? お前があいつらから託されたのは相手を殺すこと
 じゃなはだろ?
 橙真 だが!! あいつらはどうなる? あいつらは何を失ってしまった? 目が? 耳か? 手か? 足か? 俺
 はどうすればいい? 俺はあいつらにどう償えばいい?
 ダイト じゃあ、相手を殺せば償えるとしても言つのか? …その剣はな、お前の負の感情が具現化した
 ものだ。見る。禍々しい形を。その剣で復讐を果たしたとして、元の世界に帰つてもの二人に何て
 報告するつもりだ?
 橙真 あいつらは俺が守るつもりだったんだ。

ダイト その剣を渡せ。お前の後悔も復讐も俺が背負つてやる。
 橙真 俺が守るつもりだったんだ!!
 ダイト 俺が言った言葉は理解できるな? それでもお前にその剣が必要だと言つたら…好きにする。人
 間を憎む人間が 一人増えるだけだ。

橙真「憎しみ」と「やるべきこと」の間で揺れる。気を抜くと「憎しみ」に支配されそこになるが、精
 神力で抑え込もうとする。しかし抑えきれない。そして決心する。橙真、大きく何度も吠える。
 自分の中のトロトロしたものを吐き出す。拳を床ぐ。シーとした間。
 橙真ゆっくり立ち上がり、剣を構える。そして目を閉じてゆっくり剣をダイトに渡す。

橙真 つアツタの考えを聞かせてくれ。
 ダイト 何だ?
 橙真 俺は俺のすぐきことをすれば、また射鶴や乃亜と笑いあえると思つか?
 ダイト ああ。絶対に。

ダイト、橙真から剣を受け取る。

橙真 それで、アツタ。あの悪魔に勝てるんだろつな?

ダイナ 負けるわけにはいかないだろ。
橙真 何か作戦でもあるのか？
ダイナ いや。
橙真 実力は向こうのほうが上だろ？
ダイナ ああ。
橙真 本当に大丈夫なのかよ。
ダイナ へっぽくは必ず俺が止める。アリスは頼んだ。
橙真 待て！

センターに去りかけたダイナを止める。

橙真 つい事を教えてやる。強い奴ってのはな、基本に忠実なんだ。基本が出来てるからこそ強い。同じ王道で挑んでも勝ち目はないだろとな。
ダイナ だから？
橙真 だから王道には邪道で勝負するしかないだろ。基礎も基本もくそくらえだ。予期せぬ攻撃にこそ勝機がある。
ダイナ ……まあ、頭の片隅にでも入れておこう。
橙真 じゃあ頼んだぜ、くそ悪魔。

ダイナ お前こそこれ以上の犠牲者を出すなよ。くそ人間。
ダイナ、センターから下手く去っていく。
上手からアリス華恋が入ってくる。

華恋 橙真！！
橙真 華恋！！無事だったか？
華恋 無事と言えるかどうか…。そちらはまさか橙真だけですよ！！
橙真 いや、あの悪魔とそつきまで一緒だった。
華恋 お互い託されてしまったというわけね。
橙真 そうだな。
アリス ああ。
橙真 ん？ああ。あいつか？もう行っちゃった。向こうの悪魔を止めるらしい。
アリス そうですか…。
橙真 あの女の説得は、この三人でやるのか？
アリス いえ、曉主任が先に行ってます。
橙真 一人で対応してるのか？
華恋 足止めしてくれているはずですよ。

橙真 いいか？俺達はあの女とそんなに接点があるわけじゃない。最終的な説得は二人がやってくれ。俺と華恋はあの女の手を封鎖することに専念する。

アリス 分かりました。

華恋 伝えたい言葉は用意してますよね。気の利いた言葉は必要なくてよ。飾らない、ありのままの言葉伝えるの。

アリス はい。

橙真 ただ念の為、追いながらあの女のことを教えてくれ。

華恋 そうね。主導権を握るには多くの情報が必要なんですよものね。

橙真 よし、行くぞ！！

アリス・橙真・華恋、下手に去っていく。
センターから柚葉。後を追って時雨。

時雨 待つてください、柚葉君！！

時雨、柚葉の前で両手を広げて仁王立ち。

時雨 もう一度私の話を聞いてくれませんか？！！

柚葉 ……どうしてください……。…どうしてください！！

柚葉、右手を払う。飛ばされる時雨。

柚葉 どうして今になって私の邪魔をするんですか？！！どうして追っつてきたりしたんですか？！！どうして諦めてくれなさいんですか？！！

時雨 申し訳ありませんでした。！！

柚葉 どうして謝るんですか？！！どうして放っておいてくれなさいんですか？！！……今更死ぬのが恐くなりましたか？！！恐くなったら私の邪魔をするんですか？！！

時雨 恐いです。死ぬのはもちろん恐いです。ですが、ただ恐いのではありません。柚葉君、あなたを救えないうまま死ぬのが恐いです。あなたの一言を聞けないうまま死ぬのが恐いです！！

柚葉 結局自分の為じゃないですか。私には主任の自己満足に付き合っている暇はないんです。これ以上邪魔をするなら、今ここで死の恐怖から解放してあげますよ。

柚葉、右手を大きく振り上げる。

センターからアリス・橙真・華恋が入ってくる。

アリス 柚葉！！

センター前方に柚葉。上手側にアリス・橙真。下手側に華恋・時雨。全員前を向いて台詞。

橙真 三に来るまでの間ずっと考えていたんだけどな、あんた俺達のどこまで知ってた？活動始めたばかりの三人しかいない宗教と、女だけの国を作ろうとしている二人だけの団体だ。街頭演説で偶然知ったか？たまたまどろきを受け取ったか？普通ならそんなもの気にも留めないよな。葉を手に入れる為に俺達を利用したと言っていたが・・・それは後付けの理由だろ？あんたは・・・探してんだ。自分を救ってくれる何かを。

柚葉 プライドだけで真実が見えない男の考えそんなことね。そんなに自分が利用されたっていう現実を受け入れられないの？

橙真 あんたのトラウマの発端は両親の自殺だ。自分だけを残して死んでしまった親からあんたは「捨てられた」と思った。だからそれまで当たり前前と思って受けてきた親の愛を信じられなくなった。

柚葉 黙れ！！

華恋 多くの人の裏切りはきつと苦しくて辛かったと思いますわ。私もそう。たった一人に裏切られたと思うだけであんなに辛い思いをしたんですもの。あなたの心の傷の数百分の一かもしれなけれど、理解しているつもりですわ。

柚葉 きれいことを言わないうで欲しいわね。私の傷は私にしか理解できな！！

華恋 勿論あなたの傷そのものを知ることはできませんわ。でもそれでもやっぱり理解できるものです

わよ。あなたが心を開いてくれればもつと。

柚葉 心を開いてどうするの？利用しやすい人間がどうか判断するわけ？私はあなた達に騙される程愚かじゃない。

橙真 その考え方だ。

柚葉 ……何？

橙真 その考え方がそもそもおかしいんだよ。何でいちいちひねくれた捉え方するんだよ。心開いて仲良くなるんだよ。助け合うんだよ。当たり前だろそんなこと。何で「捨てられた」なんて考えるんだよ。てめえの子供だぞ？我が子だけは生きて欲しいと思つのは当然だろ！！

華恋 常に誰かを憎んでいないと生きていけなかったのですわね。疑って蔑んで憎む理由を見付けて…誰かを利用することで自分を強しと思ひ込もつとしたんですわよね。

橙真 救われたいんだろ？助けて欲しいんだろ？自分は扉を開けずに閉じこもつて、向こう側の明るくてあたたかいものを羨ましがつて勝手に拗ねてる。ガキなんだよ、あんたは！！

柚葉 違う！！私は！！

華恋 第一の関門もそう。第二の関門もそう。本音を言い合つても崩れな関係はあるのか？自分を犠牲にしても助け合おつとする関係はあるのか？ずっと私達を試していたのですわよね。

柚葉 違う！！違う！！違う！！違う！！私は！！

華恋 結果には満足しまして？

柚葉 黙れ！！…いり気になつておしゃべりできるのもあと少しよ。もつとすぐ私と契約した悪魔が帰つ

てくる。そうすればあんた達なんか…

橙真 弱えな!! 何だよ今の台詞。あんた今…自分以外の他の力を当てにしたろ、動揺してる証拠だな。

アリス 柚葉…。柚葉と契約している悪魔はもう帰ってしまふよ。…約束したから。…止めてくれるって約束したから。

舞台後方台の上。下手にダイナ。上手にひづ。向き合っている。

ダイナ ひづの言う通りだな。俺は何も分かってなかった。

ダイナ、一歩前へ。ひづも前が出る。

ダイナ 時間があれば他の方法を思いつくかもしれないが……。

ダイナ、一歩前へ。ひづも前が出る。

ダイナ なお、二は引いてくれないうが。

ひづ 話し合いをしに来たわけじゃないだろう。お前に譲れないものがあるように俺にも譲れないもの

がある。信念は貫け。後悔しなうためには何が一番大切なのが見極めることだ。俺達が手にできるものなんてそう多くはないのだからな。…さあ、来い!!

互いに剣を抜く。ひづとダイナの決闘。圧倒的強さを見せるひづ。ダイナも必死に應戦。ダイナ倒される。ひづ、止めをそしに来るが、ダイナ、剣で守る。

柚葉の説得。

アリス 柚葉。あのね、

柚葉 アリス!! あんたなんか薬を完成させたら、せつせつ死ねばよかったんだ!!

アリス 薬を完成させたぐらいじゃ死ねないよ。言い出したのは柚葉でしょ、おれはとーんと返してもらうつて。

柚葉 恩を感じているならどうして私の邪魔をするのよ!!

アリス 私達は邪魔をしに来たんじゃなく、柚葉を救うに来たの。

柚葉 私の救いは人類の滅亡以外あり得ない!! それ以外で私が報われることはない!!

アリス そう思いたいだけでしょ、

柚葉 違う!!

アリス だって柚葉の言葉あたたかかったよ、私、寂しくて辛かった時、何度も柚葉の言葉に助けしてもらった。「利用するだけなら必要な言葉」をたくさんもらったよ、あれは…きつと柚葉が言っても

らいたかった言葉なんだね。

柚葉 それはアリスがそう思っただけでしょ。自分の考えを押し付けないで。

アリス 押し付けなんかじゃない!! 今まで柚葉が私にしてくれたことも事実だし、それに私が救われたのも事実でしょ!! 柚葉から見たら私は馬鹿かもしれないけど、言葉に心がこもっているかどうかぐらい分かるわよ!!

時雨 私との関係はどうかなんです!! あれも全て偽りだったというのですか。私を利用するための芝居だったというのですか?

柚葉 何度聞いても答えは同じですよ。利用されていることは分かっていると認めてしまっただけだね。死後の世界の門を開けば自分も死ぬことになるんですから。

時雨 確かにその通りです。利用されていることは分かっています。ですが、どうしても信じたいんです。柚葉君の心が少しは私にあつたと。私のことを少しは見てくれてた。

柚葉 私は人間を憎んでいるんです!! 例外はありません!!

時雨 では何故私に過去を話したんですか? 心のどこかで私に受け入れられることを望んだからでしょう? 私はあなたの過去を知って正直嫉妬しました。私だけのものではなく柚葉君に嫉妬しました!! その嫉妬が本来私が取らなくてはならない行動を誤らせたんです。ですが...

柚葉 私が過去の話をしたのは同情を貰うため!! 私のを動いてくれるように仕回けるためですよ

時雨 ですが!! もう迷いません。受け入れます。柚葉君の全てを受け入れます。

時雨、ゆつくり柚葉に近付く。後ずさる柚葉。手を差し伸べる時雨。

アリス 柚葉、少しずつ、ちよつとずつ変わっている。一人じゃなければ、人は変われるから。

華恋 さあ、手をお取りなさい。

時雨、ゆつくり近付く。アリスも一緒に。

柚葉 来るな.....来るな.....来るな.....来るな.....。

柚葉の様子がおかしいことに気付いた橙真、華恋を見て

橙真 おい!!

橙真、アリスと並ぶ。華恋、時雨と並ぶ

柚葉 来るな!!

柚葉、大きく右手を払う。効果音「カ」最大ボリューム。静寂。四人、次々と崩れ落ちる。

立っているのは柚葉だけ。

柚葉

私は今まで一人で生きてきたんだ。人間を憎んで生きてきたんだ!!死ぬのが恐ろしいから調子のいいところだけだよ。近づいて優しいふりして利用して、最後は裏切るくせに!!その場しのぎの言葉なんかいらぬ!!嘘の言葉なんかいらぬ!!

静寂。四人ゆっくり立ち上がる。

時雨

嘘の言葉と言われては倒れてはくれませんか。

アリス

何度でも言うから覚悟してね。

柚葉

そんな…。

橙真

気の済むまで試せばいいだろ。

華恋

遠慮せずに全力を出してよろしくだよ。

柚葉

どうして…。どうして…。

アリス、手を広げて柚葉に近づく。

ハンプとダイナの場画く

ハンプ

何故だかが一人の人間の為にお前がそこまでする必要がある!!自分を懸ける必要がある!!

ダイナ

あんたが言うなよ。やっていることは同じだろ。

ハンプ

…俺を憎むか。

ダイナ

憎む。あんたを…。…いや、本気でやり合っている今だから思っているんだ。あんたを憎めりやそんなに楽かたな!!

ダイナ、一瞬の隙をついて脱出。ダイナ上手く。ハンプ下手く。殺陣を再々。数回切り合らを行い、ダイナ下手、ハンプ上手く。

ハンプ

どうした!!目の前の壁はぶち壊すんじゃないか!!

ダイナ

壊すさ、必ず。

ハンプ

お前の覚悟を見せてみる!!

ハンプ、上段に構える。ダイナ、腰を低く落とし、剣を下に構える。

ハンプ

そんな構えで俺に勝てると思ってるのか。

ダイナ

こんな構えでもしなきゃ勝てないんだよ。

二人、相対する。深呼吸を数回。大きな掛け声と共に剣を振る。ダイナを斬ろうとするへいづに
対し、ダイナはへいづの剣を透らすことに集中。へいづの剣を大きく弾いた隙に、ダイナ、へいづを
斬る。ゆつくり跪くへいづ。

ダイナ へいづ…

ダイナ、へいづに近付こうとするが、へいづ、手でそれを制する。

へいづ こんなときでもお前の成長は嬉しいもんだ。

ダイナ へいづ俺は…

へいづ 何も言わなくていい。お前は間違っただけは何もしてないんだからな。後悔はしてないんだろ？

ダイナ ああ。

ダイナ、へいづを見ている。へいづは前を向いている。

へいづ いつかこんな目がくるんじゃないかと思っただ。楽しんで同時に寂しきも感じていたも。

ダイナ すまない。…百年も眠らせてしまったな。

へいづ 百年なんてあっという間さ。目覚めた後、お前のしならし永遠に比べればな。

へいづ、最後にダイナを見て優しく微笑む。その場に倒れる。ダイナ、その場に立ち尽くす。
中割りが閉まる。柚葉の説得の場面。

柚葉 近付くな…

柚葉、右手を払う。全員が後ろへ吹き飛ばされる。すぐに立ち上がり、近付く。

橙真 どうした？ 凶暴なことばかり言われて反論できないか？

柚葉 うるさい…

橙真 いい加減認めるよ。人が恐くて、裏切られるのが嫌だから俺達を試してたんだろ？ 助けて欲し
かったんだろ？

柚葉 うるさい…

華恋 自分を見付けて欲しかったのでしょ？ 本当の自分を「小さく囁くように叫んでいたのでしょ
う？

柚葉 うるさい…

華恋 でも、自分がそんなに弱い人間だとは思いたくないから他人を拒絶して、どんどん独りになって
いった…

柚葉 うるさい…うるさい、うるさい、うるさい…

柚葉、右手を払う。全員踏み止まる。柚葉、何度か同じ動作をするが、全員踏み止まる。

橙真 ようし…こっちは覚悟を決めたぞ…こつなつたらととん付き合つてやる…

華恋 お腹の中にあるドロドロしたものを全部吐き出すとよろしくても…

橙真 その代わり、それでも俺達が立っていたら話を聞けよな…

柚葉 殺してやる…

柚葉「殺してやる」と何度も言いながら「力」を使う。橙真・華恋も「力」を使う気合の声。最高潮の時に爆発音。静寂。

柚葉・橙真・華恋膝をつく。柚葉、身体を丸めて泣いている。アリス、ゆっくり柚葉に近づく。アリス、柚葉の肩に触れる。柚葉、ビクッとして、怯えて後退。逃げた先で丸まり泣く。アリス、柚葉の側に移動し、後ろから柚葉を抱きしめる。

アリス やつとつかまえた。

柚葉 離してよ。

アリス 駄々目。離さない。話、聞いてくれるでしょ。

柚葉、答えない。アリス、その間を了承と受け取り、優しく話しかける。

アリス 正直に言つとね、私、柚葉の気持ちがあんまり分からないわけじゃないの。私もそう。人間を憎むと思つた。幽霊が見えるつこと小さい頃から嘘付き呼ばわりされて、誰も…親ですら私の言つことを信じてくれなくて、私は心を閉ざした。私から他人に話しかけることはなかったし、私に話しかける人もいなくなった。でも、独りぼちの私を救ってくれた人がいたの。柚葉だよ。利用していたのかもしれない。仕事だったのかもしれない。でも、それでも毎日話しかけてくれたよね。もう、十年以上経つんだよ。それから私はもつと人とかかわりたいつと思つた。変わりたいつて。きつとね、柚葉も変わる。変わりたいつと思つたら絶対変わる。私に変わるきっかけを作つてくれた悪魔がいたように、柚葉にも、いるから。その人はもう目の前にいるから。

時雨が柚葉に近づく。

時雨 柚葉君、申し訳ありませんでした。あなたのことを分かつているつもりでしたが、そこではなかったようです。あなたの怒りや憎しみは寂しさを隠すための手段だったのですね。私のしたことは柚葉君に益々孤独を感じさせたただけでした。…どうか償いをさせてください。私はこれから先も柚葉君とずっと一緒にいると決めました。共に歩んで、変わつていこうと決めました。柚葉君、

これは私の決意表明です。私の言葉はまだ信じられないうちかもしれません。ですから、これから十年ごとに一緒にいると約束します。柚葉君が私のことを信じてくれるまで何處でも約束します。だから、せめて一言。一言だけでいいんです。私があなただけに信じてくれる言葉を下さい。

柚葉、ゆつくり時雨の方を見る。振り絞るように唇を出す。

柚葉 ……寂しい。……寂しかった。……ずっと、寂しかった。
時雨 あなたの傍にいらせてください。

時雨、柚葉の手を取る。応える柚葉。立ち上がる。

華恋 これだめでだし、めでたしってわけですね。
橙真 まあ、そういう風にでも思わないと代償が無駄になっちゃうからな。
華恋 橙真。
橙真 分かっている。憎みはねえよ。

ダイナ、上手から入ってくる。

ダイナ アリス。
アリス 大丈夫？ 怪我とかしてない？
ダイナ 俺は大丈夫。そこは？
アリス うん。無事解決。まだ時間はかかると思っけど…後は戻ってから。
ダイナ そうか。

橙真と華恋もダイナの方へ。

橙真 剣はどうした？
ダイナ 途中で捨ててきたが…必要だったか？
橙真 ……いらねえよ。あんなもん。
ダイナ 人間の想いの力つてのは悪魔以上かもな。
華恋 それが良い方向へ動けば皆が幸せになれるのに。
橙真 そうならねえから人間なんだろ？
華恋 そうですわね…。
橙真 さで、どいつまでもこんな辛気臭えところにはいたくねえし。帰るとするか。
ダイナ この道をまっすぐ…あの光、見えるか？

ダイナ、下手を指差す。

華恋 ええ。

ダイナ あの光を目指して歩いていけば現世へ帰れる。

アリス じゃあ皆で帰りましょっ。

ダイナ それなんだが……。

アリス 何？

ダイナ、無言になる。アリス、ダイナの方を向く。空気を察した橙真、移動しながら、

橙真 よし、じゃあ行くか!!

華恋を引っ張りながら下手へ移動。時雨、柚葉も続く。

華恋 一緒に行けばよろしいんじゃないか？

橙真 なんだよ。先に行くぞ。おい!! クソ悪魔!! ……じゃあな。

橙真、全員を引き連れて下手に去っていく。

アリスとダイナ、二人だけになる。 間。

アリス 一緒に行かないの？

ダイナ ん？ ああ…俺はちよつとな。

アリス ……ちよつと？

ダイナ …… 一緒には行けない。

アリス え？

ダイナ 俺はもう現世には行けない。

アリス どうして？

ダイナ いろいろあつてな。だからアリス 一人で帰ってくれ。走って追いかければ間に合つたる。気を付けて……

アリス やだ。

ダイナ え？

アリス 一緒に帰る。

ダイナ だから

アリス 一緒に帰る。

ダイナ 行けないんだよ。

アリス 一緒に帰る!! 一緒に帰る!! どうして帰れないの？ 迷惑かけたから怒ってる？

ダイナ そんなわけないだろ。
アリス じゃあどうして？契約したのに。だってまだ二つしかお願ひしてない…。

アリス、三つ目の願ひの代償に魂を払ってほしいよに気付く。

ダイナ アリス。
アリス あれ？私、魂代償にしてない。規律違反！
ダイナ アリス聞いてくれ。
アリス 私のせいで？
ダイナ 違うアリスのせいじゃない。
アリス だって。
ダイナ アリスのせいじゃない。俺が、アリスのためにしたよ。俺がやりたしからやったよ。
アリス 今からでも間に合う？私、魂を代償にする。言ったでしょ？あなたになら渡してもらって。
ダイナ ……アリスは変わった人間だな。無事悪魔との契約が終わるならそれが一番だろ？
アリス それは…そうだけど…。
ダイナ まあ、その言葉が聞いただけで満足だ。後悔はしてない。
アリス でも、私はあなたにどう償えばいいの？
ダイナ 償いなんて必要ない。規律違反は……現世に行けなくなるだけだ。悪魔の仕事が向かっていなら

俺にはちよつどい。

アリス 嘘。
ダイナ 嘘じゃない。
アリス だってあの時、規律違反したら…。
ダイナ アリス。俺が今までアリスに嘘をついたことがあるか？
アリス ……ない、けど。
ダイナ 俺は嘘はつかない。現世に行けなくなるだけだ。
アリス ……じゃあ、もう会えないの？
ダイナ ああ。

間。

アリス もう、会えないんだ……。

間。ダイナ、アリスの方を向いて

ダイナ アリス。

ダイナ、アリスに近付きアリスの頬に優しくふれる。

ダイナ　もう大丈夫だよな。アリスは強くなったから俺がいなくてもやっていけるよな。大丈夫だよな。
アリス　……するいよ、そんな聞き方。大丈夫じゃないなんて言えるわけないじゃない。
ダイナ　そんな言葉、聞きたくないからな。
アリス　私はあなたが思っているほど強くなっていないかもしれない。
ダイナ　でも、一人じゃないだろ？
アリス　それは…。
ダイナ　アリスなら大丈夫。
アリス　……お買い物も付き合ってもらえないのか……。ご飯も一緒に食べられなね。…材料、買います
ぎちゃうな。
ダイナ　すぐに慣れるぞ。
アリス　お話も出来ないし…遊びにも行けない。遊園地、行きたかったね。
ダイナ　行きたかったな。動物園もまた行きたかった。
アリス　レッサーパンダ？
ダイナ　レッサーパンダ。
アリス　可愛かったもんね。……一緒に行ったよね。
ダイナ　一緒に行ったな。

227

アリス　楽しかったね。
ダイナ　楽しかった。
アリス　私、こんなにたくさんのお礼してもらったのに、何も返せてない。迷惑ばかりかけてるのに、何も
してあげられない。…どうして？
ダイナ　え？
アリス　どうして私にこんなにたくさんのお礼をくれたの？
ダイナ　……俺は買ってるから。俺は二つ、アリスから買ってる。それと比べれば俺がしたよなんてだら
したよじゃない。
アリス　私が、あげたもの？

ダイナ、小さな鈴を取り出し、アリスに見せる。アリス、少しの間した後、鈴を思ひ出す。

ダイナ　この鈴と、名前を。
アリス　ずっと見守ってくれたんだね。
ダイナ　これ以上欲しいものなんて俺にはない。
アリス　ありがとう。……ありがとう。

アリス、鈴を持つダイナの手を強く握る。

228

ダイナ 俺に名前をくれたのがアリスで良かった。ありがとう。
アリス 私、大丈夫だから。強くなったから。大丈夫だから。
ダイナ それ聞いて安心した。…元気でな。
アリス うん。元気で。
ダイナ ……俺はいつだって元気だよ。…アリス。
アリス え？
ダイナ この世界でも月は見えるんだ。

二人、月を見上げる。

アリス きれいな月…。蒼いね。

ダイナ、アリスから少し下がって離れる。

アリス 初めて私の名前を呼んでくれたんだよね。

ダイナ ああ。

ダイナ、アリスから更に離れる。

アリス やっぱ名前を呼んでもらえるって嬉しい。

ダイナ 嬉しいよな。

ダイナ、センターにはける直前で止まる。

アリス ね、もう一回アリスって呼んで。

間。

アリス 駄目？

ダイナ ……アリス。

アリス はい。

ダイナ、アリスの返事を聞いた後、鈴を落としてセンターへはける。

アリス、振り向くが、ダイナはいない。アリス、鈴にゆっくり近づく。鈴を拾い抱きしめる。アリスのみに明かり。ゆっくり立ち上がりセンターへ。

前を向いて語りだすアリス。

アリス　これで私「アリス」と「悪魔らしくなり悪魔」の物語はお終了です。私にだくさんの手入をくれた悪魔は、私の心にちよつと傷を付けてしまいました。その傷は癒えることなく今も私の心に残っています。一緒に食べたメニューを見た時。一緒に聞いた音楽を耳にした時。動物園や遊園地の話題が出た時。……ふと見上げた夜空に、綺麗な蒼い月が出ていた時。その傷は躊躇りたくなるような痛みがします。でも同時に、力強い何かに守られているような安心も感じられるのです。あれからどれだけの日日が流れたのか…。私は買い物をする時、ようやく一人分の材料を買いこくに慣れました。皆とは現世に戻つたきり合っておりません。橙真さん達は…。

下手より橙真、射鶴、乃亜が入ってくる。

橙真　よし、今度はインドだ、なにしろ仏教発祥の地だからな、「救いの言葉」に関する手掛かりがきつとある、
乃亜　教祖様々、もつとよく情報収集してからにしましょつよ。
射鶴　そうよ、この間なんかどうミッドの夢見だから、なんて理由でエジプト行つたでしょ、やっただの遺跡発掘のアルバイトじゃなら、
橙真　だがそのおかげで世紀の大発見が出来たんだぞ、報奨金タツプり貰えたらつが、

射鶴　だから目的見失つてるでしょーが、乃亜、何か言つてやんなさ、
乃亜　お金大好き。
射鶴　ビシッ、

射鶴、ニアハ、

射鶴　とにかく思いつきで行動するの止めてちよーだ、
橙真　よし、分かつた、思いつきで行動するのは止める、
射鶴　分かつてくれた、
橙真　計画的に世界一周する。地球上のどこかにはあるだろ、「救いの言葉」が、
射鶴　そういつとじゃなく、
乃亜　いーじゃなうですか射鶴さん。きつと楽しいですよ、
橙真　よし、射鶴、乃亜、ついで来、

3人、ストップフォーティオン。

アリス　華恋さん達は…。

上手より華恋、鈴音が入って来る。

華恋

鈴音、次はどこ？

鈴音

はい、華恋お姉様。次はアコウの石油王と資源活用に関する会議が入っていますわ。その後はロシア、中国で新エネルギーの実用化に向けてのプレゼンが行われますので、それに出席して頂きます。

華恋

ハードスケジュールね。

鈴音

でも華恋お姉様。それが終われば、バカンスが待っていますわ。

華恋

そうね。島でのんびりしましょう。

鈴音

その為にも頑張りますわ、さ、行きましょう、お姉様。

華恋

あ、鈴音。

鈴音

はい？

華恋

一度しか言わないから、よくお聞きになって。

鈴音

はい。

華恋

私にとって一番の宝物は鈴音、あなたよ。例え神が地球上の全ての主人を私にくれるとおっしゃっても、私はあなたを選ぶ。私はね、愛されなかったが故に愛に飢えている。でも皆さんの愛は要らない。たった一つ、深い愛が欲しいの。

鈴音

華恋お姉様…。

華恋

私の愛は底なしよ。覚悟なさい、

鈴音

はい、華恋お姉様、

二人、ストップモーション。

アリス

柚葉と暁主任は現世に戻ってから会社を辞めました。二人だけの旅に出るそうです。

柚葉、時雨、センターから入ってくる。

時雨

ビューティフル、クワイター、雨が降る、素晴らしき快晴です、

柚葉

じゃ、雨降ってないじゃないですか。

時雨

ナイス突っ込み、ナイス突っ込みです、柚葉君。やはり我々は最高のコンビですね。

柚葉

そのキヤウ辞めたんじゃないかたんですか？

時雨

へい、へいへいへい、へい、主任じゃありません。もう主任じゃなりのです。時雨。その、今こそ時雨と呼んで下さい。いや、あなたになら夫と呼ばれてもらい、

柚葉

夫、次はどこに行くんですか？

時雨

……照れているのですか？

柚葉

照れてません。

時雨 照れているのでしょうか？
 柚葉 照れてません、。
 時雨 やれやれ。我々の関係も相変わらず、とつた所ですね。お、行きましょつ。
 柚葉 そういえば……。
 時雨 はい？
 柚葉 私、自分の話ばかりしてましたね。今度、主任の話をして下さい。
 時雨 私の過去なんて聞いてもつまらないですよ。
 柚葉 つまらないかどうかは私が決めます。
 時雨 長くかかるかもしれませんが？
 柚葉 いじやないですか。時間は、あるんですから。

2人、ストップフォーティ。

アリス きつと強、大丈夫。楽しいことばかりじゃないだろうけど、きつと大丈夫。……大丈夫。強く、強く、強く、強く、強く、強く。変わっていきます、。

カチコチと時計の音。全員、懐中時計を取り出し、見る。センターからタイタニつ。
 時計の音、止まる。全員、舞台中心に集まり、円になる。その中心に時計を置く。

10個の懐中時計。全員前を向く。
 全員、一気に客席に降りて後方まで走り抜ける。舞台には懐中時計が残される。幕。